HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道方言のアクセント特徴に関する記述的研究
Author(s)	DALLYN, THOMAS DANIEL
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12956号
Issue Date	2018-03-22
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k12956
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70211
Type	doctoral thesis
File Information	Thomas_Daniel_Dallyn.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

博士学位論文

北海道方言のアクセント特徴に関する記述的研究

提出者氏名：　ダリン　トーマス　ダニエル

北海道大学大学院文学研究科　言語文学専攻

所属講座：言語情報学　講座

指導教員：李連珠　准教授

2017

For Naomi and my parents, with love and gratitude.

謝辞

本研究をまとめるにあたり、お世話になった方々に、この場を借りて感謝の意を表します。まず、６年お世話になってきた指導教員である李連珠先生にお礼を申し上げます。李先生には、研究計画、調査の実施、データの分析、発表や執筆などの各段階で、手厚いご指導を賜りました。さらに、いつも色々とお心遣いをしていただき、そのおかげで、とても充実した環境で研究を行うことができました。

次に、佐藤知己先生および藤田健先生には、ご多忙中にもかかわらず副査になっていただき、両先生から本論文に対して非常に丁寧かつ有益なコメントをいただきました。深く感謝しております。

また、研究のことから日常の様々な面で、私の所属している言語情報学講座の先生方や研究室の仲間に大変お世話になりました。特に、北海道方言のネーティブである岸本宜久さんに日頃より相談に乗っていただきました。また、在学期間中、文学研究科の事務職員の皆様には快くご支援いただきました。以上のことに、心から感謝を申し上げます。

各章を構成する論文執筆においては、上野善道先生、松浦年男先生を始め、多くの先生よりご助言を賜りました。また、北海道方言研究会の皆様に色々と大変お世話になりました。心から感謝しております。

次に、本研究のための調査に協力してくださった多くのインフォーマントの方にお礼を申し上げたいと思います。皆様のご協力がなければ、本研究は決して遂行することはできませんでした。

最後に、長い大学院での在学を認め、私を支えてくれた家族に心より感謝いたします。

Acknowledgements

First and foremost I offer my sincerest gratitude to my supervisor, Yeonju Lee, who graciously accepted me into her research group, and provided patient support and advice thoughout my studies here. I would also like to thank the rest of my thesis committee, Takeshi Fujita and Tomomi Sato for the encouragement and insightful comments that they provided.

I would like to thank everyone at the Hokkaido Dialectology Circle, in particular Yoneichi Ono, whose pioneering work on Hokkaido Japanese informs almost every part of this thesis. Additionally, I would like to give thanks to Zendo Uwano, Toshio Matsuura and Yoshihiko Ono for their comments on earlier drafts of work incorporated into this thesis. Many thanks also to my fellow labmates for all the camraderie, entertainment and assistance that they provided.

I am also grateful to the many people who have taught me linguistics: my undergraduate teachers at SOAS (especially Kirsty Rowan), and my graduate teachers at York (especially Sam Hellmuth, who introduced me to prosody).

I would like to express my gratitude to all my informants, without whose kind cooperation this research would have been impossible. In particular, I would like to thank Nanae Town Hall and the Nayoro North Country Museum for their help in contacting my informants and arranging the interviews.

Finally, I wish to thank my family: my parents, who have encouraged me throughout my interminable studenthood, my wife Naomi for her patience and support, and my children Sumire and Takumi, whose love and energy have been a constant source of inspiration for me.

目次

第 1 章　序論　1

1.1　研究の背景と目的　2

1.2　論文の構成　3

第 2 章　北海道方言の概説　4

2.1　北海道方言の研究　5

2.2　北海道の歴史と北海道方言の成立　5

2.3　北海道方言の下位分類　5

2.4　北海道方言の現状　7

2.4.1　地方共通語化　7

2.4.2　全国共通語化　8

2.4.3　2 つの「共通語化」の接点　8

2.4.4　場面による使い分け・方言意識　9

2.5　本研究での「方言」・「共通語」の捉え方　10

2.6　北海道方言の特色と類型論的位置付け　10

2.6.1　音声　10

2.6.2　語彙　12

2.6.3　文法　12

2.6.4　類型論的位置付け　14

第 3 章　本研究の研究方法　15

3.1 調査方法 16
3.2 インフォーマント 17
3.3 調査項目 22
3.3.1 名詞 22
3.3.2 動詞 25
3.3.3 形容詞 27
3.4 表記・用語について 29

第 4 章 北海道方言の韻律的特徴 31
4.1 アクセント体系 32
4.1.1 先行研究 32
4.2 アクセント規則 34
4.2.1 複合名詞のアクセント 35
4.2.2 外来語アクセント 39
4.2.3 用言アクセント 41
4.3 アクセントの音声実現 49
4.3.1 先行研究 49
4.3.2 語頭音調の音声具現 51
4.3.3 アクセント核の音声具現 52
4.3.4 語頭の上がり目の分布と役割 53
4.3.5 句について 54
4.3.6 北海道方言における句音調の振る舞いの通時的背景 57
4.4 音響的な記述 58
4.4.1 単語の音声表示 58
4.4.2 アクセント句 66

第 5 章 アクセント変化の記述と考察 68

5.1 語類について 69
5.2 1 モーラ名詞 69
5.2.1 先行研究 69
5.2.2 調査結果（道央） 70
5.2.3 調査結果（道東） 71
5.2.4 調査結果（道北） 72
5.2.5 調査結果（道南） 73
5.2.6 例外的語彙 74
5.2.7 考察 75
5.3 2 モーラ名詞 75
5.3.1 先行研究 75
5.3.2 調査結果（道央） 76
5.3.3 調査結果（道東） 80
5.3.4 調査結果（道北） 83
5.3.5 調査結果（道南） 86
5.3.6 例外的語彙 90
5.3.7 考察 91
5.4 3 モーラ名詞 96
5.4.1 先行研究 96
5.4.2 調査結果（道央） 97
5.4.3 調査結果（道東） 99
5.4.4 調査結果（道北） 101
5.4.5 調査結果（道南） 103
5.4.6 考察 105
5.5 動詞 108
5.5.1 先行研究 108

5.5.2 調査結果（終止形） 109
5.5.3 調査結果（活用形） 112
5.6 形容詞 116
5.6.1 先行研究 116
5.6.2 調査結果（終止形） 116
5.6.3 調査結果（活用形） 119

第 6 章 アクセント変化の定量分析 123
6.1 2 モーラ名詞アクセントの共通語化 124
6.1.1 定量分析の目的 124
6.1.2 分析方法 124
6.1.3 分析結果 126
6.1.4 考察 130
6.2 句頭音調 132
6.2.1 定量分析の目的 132
6.2.2 分析方法 133
6.2.3 分析結果 134
6.2.4 考察 138

第 7 章 結論 141
7.1 本論文のまとめ 142
7.2 今後の課題 144

参考文献 145

付録 A 和語名詞のアクセント資料 152

付録 B 動詞のアクセント資料 262

付録 C 形容詞のアクセント資料 293

図目次

2.1 北海道方言の区画 (石垣, 1983) 6

3.1 本研究の調査地 16

4.1 ck25f の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 60

4.2 ya61f の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 60

4.3 sa59m の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 61

4.4 ob63f の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 61

4.5 ck25f の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 62

4.6 ya61f の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 62

4.7 sa59m の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 63

4.8 ob63f の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 63

4.9 ck25f の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 64

4.10 ya61f の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 64

4.11 sa59m の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 65

4.12 ob63f の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した） 65

4.13 ck25f:「蟹が這う」のピッチ曲線 66

4.14 ck25f:「赤い蟹」のピッチ曲線 67

4.15 ob63f:「蟹が這う」のピッチ曲線 67

4.16 ob63f:「赤い蟹」のピッチ曲線 67

6.1 共通語アクセント使用の予測確率（話者の年齢・調査地域） 129
6.2 共通語アクセント使用の予測確率（話者の年齢・調査項目の語類） 129
6.3 句頭上昇の予測確率（アクセント型・語頭子音の種類） 137
6.4 句頭上昇の予測確率（話者の年齢・調査地域） 137

表目次

2.1 北海道方言の下位分類 7

3.1 道央地方の話者の詳細 18
3.2 道東地方の話者の詳細 19
3.3 道南地方の話者の詳細 20
3.4 道北地方の話者の詳細 21
3.5 調査項目（和語名詞） 23
3.6 調査項目（外来語名詞） 24
3.7 調査項目（複合語名詞） 25
3.8 調査項目（動詞・終止形） 26
3.9 調査項目（動詞・活用形） 27
3.10 調査項目（動詞・活用形）（北海道方言特有の形式） 27
3.11 調査項目（形容詞・終止形） 28
3.12 調査項目（形容詞・活用形） 28
3.13 本研究で使う音調の表記方法 29

4.1 北海道方言のアクセント体系 34
4.2 北海道方言の動詞アクセント交替表 42
4.3 動詞に接続する付属語のアクセント型 43
4.4 動詞のアクセント交替規則（(李, 2010) による） 43
4.5 規則 I が適用される形容詞付属語 44

4.6 規則 II が適用される動詞付属語 44
4.7 規則 III が適用される動詞付属語 45
4.8 北海道方言の動詞アクセント交替表（北海道方言特有の形式） 46
4.9 北海道方言の形容詞アクセント交替表 47
4.10 動詞活用形におけるアクセント交替パターン 48
4.11 先行研究によるアクセントの音声実現（3 モーラ名詞） 50
4.12 北海道方言における句音調の振る舞い 57
4.13 音響分析の調査語彙 59

5.1 先行研究による語類とアクセント型の対応関係（1 モーラ名詞） 70
5.2 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道央地方） 71
5.3 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道東地方） 72
5.4 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道北地方） 73
5.5 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道南地方） 74
5.6 先行研究による語類とアクセント型の対応関係（2 モーラ名詞） 76
5.7 2 モーラ和語名詞（① 型類）の調査項目のアクセント（道央地方） 77
5.8 2 モーラ和語名詞（II 類）の調査項目のアクセント（道央地方） 77
5.9 2 モーラ和語名詞（III 類）の調査項目のアクセント（道央地方） 78
5.10 2 モーラ和語名詞（IV 類）の調査項目のアクセント（道央地方） 79
5.11 2 モーラ和語名詞（V 類）の調査項目のアクセント（道央地方） 79
5.12 2 モーラ和語名詞（I 類）の調査項目のアクセント（道東地方） 80
5.13 2 モーラ和語名詞（II 類）の調査項目のアクセント（道東地方） 81
5.14 2 モーラ和語名詞（III 類）の調査項目のアクセント（道東地方） 81
5.15 2 モーラ和語名詞（IV 類）の調査項目のアクセント（道東地方） 82
5.16 2 モーラ和語名詞（V 類）の調査項目のアクセント（道東地方） 82
5.17 2 モーラ和語名詞（I 類）の調査項目のアクセント（道北地方） 84
5.18 2 モーラ和語名詞（II 類）の調査項目のアクセント（道北地方） 84

5.19 2 モーラ和語名詞（Ⅲ 類）の調査項目のアクセント（道北地方） 85
5.20 2 モーラ和語名詞（Ⅳ 類）の調査項目のアクセント（道北地方） 85
5.21 2 モーラ和語名詞（Ⅴ 類）の調査項目のアクセント（道北地方） 86
5.22 2 モーラ和語名詞（Ⅰ 類）の調査項目のアクセント（道南地方） 87
5.23 2 モーラ和語名詞（Ⅱ 類）の調査項目のアクセント（道南地方） 87
5.24 2 モーラ和語名詞（Ⅲ 類）の調査項目のアクセント（道南地方） 88
5.25 2 モーラ和語名詞（Ⅳ 類）の調査項目のアクセント（道南地方） 89
5.26 2 モーラ和語名詞（Ⅴ 類）の調査項目のアクセント（道南地方） 89
5.27 2 モーラ和語名詞における語類とアクセント型の対応関係パターン 91
5.28 話者ごとの語類とアクセント型の対応関係（2 モーラ名詞） 94
5.29 先行研究による語類とアクセント型の対応関係（3 モーラ名詞） 97
5.30 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道央地方） 98
5.31 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道東地方） 100
5.32 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道北地方） 102
5.33 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道南地方） 104
5.35 年齢とアクセント型の関連性（3 モーラ和語名詞） 107
5.36 動詞（Ⅰ 類・終止形）の調査項目のアクセント 110
5.37 動詞（Ⅱ 類・終止形）の調査項目のアクセント 111
5.42 動詞のアクセント交替規則（(李, 2010) による） 112
5.38 「使う」（活用形）の調査項目のアクセント 113
5.39 「忘れる」（活用形）の調査項目のアクセント 113
5.40 「作る」（活用形）の調査項目のアクセント 114
5.41 「離れる」（活用形）の調査項目のアクセント 114
5.43 形容詞（Ⅰ 類・終止形）の調査項目のアクセント 117
5.44 形容詞（Ⅱ 類・終止形）の調査項目のアクセント 118
5.45 「赤い」（活用形）のアクセント 121

5.46 「やさしい」（活用形）のアクセント 121
5.47 「白い」（活用形）のアクセント 122
5.48 「かわいい」（活用形）のアクセント 122

6.1 2 モーラ和語名詞アクセントの共通語化の統計分析に使われた調査項目 125
6.2 ロジスティック回帰分析の結果（2 モーラ名詞アクセントの共通語化） 128
6.3 北海道方言における句音調の振る舞い 133
6.4 ロジスティック回帰分析の結果（句頭上昇の出現） 136

第 1 章

序論

1.1　研究の背景と目的

北海道方言は、日本列島の方言の中で特殊な性質を持つものである。要するに、北海道方言は様々な地域から来た人々の方言が接触したことによって形成され、他の府県や地方の方言と異なり、地域的な連続性はなく、歴史の浅いものである (柴田, 2003)。

このような北海道方言の性質は、日本語の方言の発展を理解するために不可欠な研究課題であると考えられる。北海道で使われることばを対象とした研究（主として単語研究）は幕末頃からあったが、はじめて北海道方言の特殊性とその研究の必要性を認めたのは、柳田 (1933) であったといえる。しかし、小野 (1974) が述べたように、柳田氏の指摘は必ずしも受け継がれ生かされていったわけではなかったと言っていい。再び北海道方言が研究対象になったのは２０年後で、平山 (1953) が北海道は色々な方言が混ざってきた場所として、「言語の実験室」であると述べながら、研究の必要性を指摘した。その後、やっと北海道方言の研究が発達してきたと考えられる。

1950 年代以降、芳賀綏氏、石垣福雄氏などの研究者たちの活躍により、北海道方言の単語、文法、音声、アクセントなどの特徴が明らかになってきた。また、1958 年から 1960 年にかけて、国立国語研究所の「北海道の言語の実態と共通語化の過程」についての調査が行われた。これにより、柴田武氏らの国研の研究者が地元の研究者と協力し、３世代を対象にした大規模な方言調査をし、北海道方言の形成プロセス及び全国共通語から方言への影響について論じた。続いて、小野米一氏が北海道方言研究をあらゆる面で推進した。特に、氏の活動により、方言の変容の理解が深くなってきた。

小野氏の研究活動が終わって以来、同氏が立てた北海道方言研究会などで、北海道方言の研究が続いているが、特にアクセントの面で、記述的な研究が比較的少ないというのが現状である。最近のアクセント研究は主に大都市の方言を取り上げたものであり、他の地域に関して未だ明らかにされていない点が少なくない。語彙や文法と異なり、アクセントは文献で書き残せない特徴であるため、日本の方言が均一化していく中で、北海道方言の伝統的な姿を見せる話者が生きている間に記述することが重要な課題であると言える。

本論文は、現在北海道の様々な地域で話されていることばのアクセントを記述し、その特徴を明

らかにすることを目的としている。共時的特性と通時的方向性という大きく二つの観点から考察を行う。まず、共時的特性に関しては、北海道方言全体に共通するアクセント体系、アクセント規則、さらにアクセントの音声的具現を明らかにすることが目的である。続いて、話者のアクセントの違いを明らかにし、アクセント変化の通時的な方向性を推測することが目的である。

1.2　論文の構成

本論文は、第 2 章で北海道方言の歴史的な背景、現状、および方言としての位置づけについて概観する。第 3 章では、本論文のために行った調査について、インフォーマントの情報や、調査方法や調査結果を表す表記を確認する。第 4 章から第 6 章までが本論である。第 4 章では、まず北海道方言のアクセント体系を概説し、アクセント規則およびアクセントの音声具現を記述する。それに加えて、音響的な分析を用いて、今まで明らかにされていない音声特徴を示す。第 5 章では、北海道方言話者の間のアクセント変異を検討し、名詞・動・形容詞におけるアクセント変化の動態を探る。第 6 章では、前の 2 つの章で記述した現象を取り上げて、北海道方言における言語変化を統計的に分析し、この変化の社会的な背景について考察する。最後に、第 7 章では、成果をまとめ、今後の課題について述べる。

第 2 章

北海道方言の概説

2.1　北海道方言の研究

2.2　北海道の歴史と北海道方言の成立

北海道には古くからアイヌ民族が居住していたが、初めて和人が北海道に渡ったのは、鎌倉時代初期のことである。この時代から『吾妻鏡』など、渡島半島南部に和人が定住していたとの記録が見られる (北海道新聞情報研究所, 1997)。室町・戦国期には本土から渡ってくる和人が増え、江戸時代の間に北海道沿岸部各地に和人の居住が広まり、松前藩の支配下になった。こうして北海道で和人のことばが使われるようになったが、多くの移住者は青森・秋田など北奥羽の出身者であったため、それは出羽方言的なものであっただろうと指摘されている (小野, 1997)。

明治政府が成立してから、開拓使が設けられ、それまでの蝦夷地が北海道と呼ばれるようになった。開拓使の拓殖計画によって内地から多くの移住者が来道し、北海道の内陸部を開拓しはじめた。その移住者の出身地は全国すべての都府県に及んだが、特に東北の青森・秋田・宮城、北陸の新潟・富山・石川が多かった (小野, 2001)。様々な土地からの移住者の混住地では、出身地の方言的な特徴が急速に薄れていき、北海道内陸部の方言が形成された。石垣 (1983, p.366) は次のようにこのプロセスを要約している：「お互いに言葉が通じない悩みや苦労が多かった。ところが年を追って入植者が増加し、交通も便利になり、学校教育も普及するようになると、必然的に言語の変化が起こってきた。」

なお、北海道には古くからアイヌ民族が暮らし、アイヌ語を使っていたので、北海道の地名の中でアイヌ語の地名に基づいているものが多いが、それ以外の面ではアイヌ語は北海道方言の現在の姿に対する影響が殆どない。

2.3　北海道方言の下位分類

先述のように、北海道の海岸部と内陸部はそれぞれ歴史的な背景が異なる。この違いはその 2 つの地域で使われている方言にも反映されて、北海道方言は「海岸方言」と「内陸方言」に 2 分されている、とされている（図2.1）。より早い時期から和人が定住していた道南地方および日本海・太

平洋の海岸部地帯では海岸方言（いわゆる「浜ことば」）が話されており、北奥羽方言の影響がまだ根強く残っている。一方、内陸部の方言はより東京方言に近いとされている。

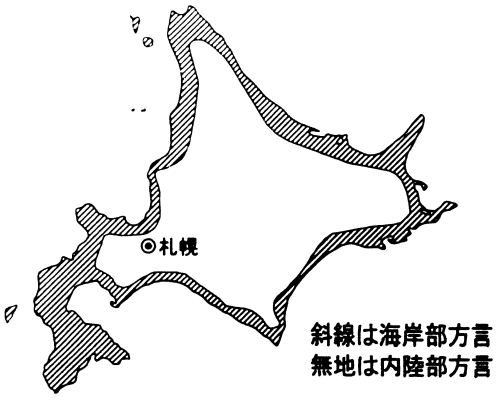


図2.1: 北海道方言の区画 (石垣, 1983)

海岸方言のほうが北奥羽方言の影響が強いとされているが、明治以降の移住者の中でも、北奥羽方言の話者が多かったことを考慮することも重要である*[1]。また、五十嵐 (1982) が述べているように、内陸地のことばは、移住者の出身県の方言の他に、既に道南に生まれた海岸方言を「基盤語」として影響を受けながら作り出された。つまり、共通している北奥羽方言の影響に加えて、海岸方言から内陸方言への直接の影響もあったため、二つの方言が無関係のものではなく、非常に共通点が多い。この相対的な均一性について、柳田 (1933, p.366) は既に 80 年位前から認めている。

> 北海道の地方語は略津軽水道を南の境として、装は弁別しうる一つの単位となるまで、例えば九州島の東面豊後と、西に面した肥前の島々都の差異よりも、はるかに少ない変化を似て全道に行渡って居るのはどうしたわけか。

とは言え、様々な面で海岸・内陸の間の差異が残っており、そしてそれらの中でも地域差が認められる。海岸方言に関して、道南以外の海岸地帯では海岸方言の色彩が薄くなり、内陸方言との共通点が多い。また、その色彩がまだ強い道南地方においても、差異が認められる。簡単に言えば、函館周辺は青森県下北半島の方言の影響が強いのに対して、松前周辺は津軽方言が有力で、関西方

*[1] 安田 (1941) (小野 (2001) で再引用) によると、明治 11 年から昭和 10 年の間に、青森・秋田・岩手の 3 県の出身者が移住者の 24.1%を占め、日本の地方の中で最大であった。

言の影響も反映されているという。内陸は、空知地区の炭鉱地帯（赤平、歌志内、三笠、夕張など）において海岸方言の要素が多いとされている (国立国語研究所, 1965)。その上、札幌をはじめとする大都市と、農村とは若干の違いがある (石垣, 1983)。以上をまとめると、表2.1のようになる。

表2.1: 北海道方言の下位分類

<table>
<tr><td rowspan="3">北海道方言</td><td rowspan="2">海岸方言</td><td rowspan="2">渡島半島方言</td><td>道南方言</td></tr>
<tr><td>松前方言</td></tr>
<tr><td colspan="2">道東・道北・オホーツク海岸方言</td></tr>
<tr><td>内陸方言</td><td colspan="2">炭鉱地帯方言
農村地帯方言
都市方言</td></tr>
</table>

さらに、北海道方言研究会 (1978) の調査が明らかにしたように、同じ集落でも地点差が見られる。当時留萌支庁増毛郡増毛町では、漁村部・農村部・商店街があり、その 3 地点間に言語実態においてかなりの違いが見られるという。商店街の話者では伝統方言形の衰退が進んでいたのに対して、漁村部ではその方言形が保たれていた。農村部はちょうど両者の中間的な様相を示した。

2.4　北海道方言の現状

2.4.1　地方共通語化

以上、「海岸方言」と「内陸方言」とその下位分類について論じてきた。先述のように、後者は全国からの異なった方言を持つ人が意志交換できるように形成されたものである。このような言語変種は、「地方共通語」と呼ばれる。つまり、「地方共通語」とは、全国で共通する言語に対して、異なった方言（変種）の接触によって形成され、特定の地方で共通するという特徴を持ったことばである。近畿地方の広範囲で用いられる「関西共通語」などがそれにあたる。北海道の地方共通語（以下、北海道共通語）は、3 世代にかけて形成されたとされている。第 1 世代の移住者は故郷の方言特徴を保っており、第 2 世代まで上の世代の出身地の方言の影響が残っていたが，第 3 世代にな

ると，その影響がほとんど見られなくなった*²(国立国語研究所, 1965)。このプロセスは「地方共通語化」という。

現在でも、地方共通語化は進行中であると考えられる。様々な土地からの移住者の混住地のほかに、明治以降の移民の中で同郷人の集団移入によってできた集落もあった。このような集落の代表的な例として、空知新十津川町、十勝豊頃村が挙げられる。これらの集落で出身地の祭りや行事とともに出身地の方言を使い続けたので、出身地の方言が長く保存されることもあったが、近年では若い世代のことばが北海道の地方共通語に近くなったとされている。また、五十嵐 (1982) によると、80 年代から内陸方言（北海道共通語）が海岸の地域にも侵入しつつあったとされている。

2.4.2　全国共通語化

「共通語」が一般的に指すのは、ある特定の国または自治体の公共機関、マスメディア、教育現場などで用いられる他の言語変種の中で上位を占める言語変種である (日高, 2016)。日本の場合は、共通語*³は明治時代に東京の方言を基盤として形成された。

特に終戦以降、学校教育、交通網、マスメディアの発達とともに，「共通語」が急速に全国に普及したとされている。このプロセスは「共通語化」といい、具体的にある地域で使われている言語形式がその地域の伝統方言形から共通語形に交替する現象である。その結果、北海道のことばはここ 60 年の間にますます全国共通語の影響を反映するようになり、現在の若年層のことばは共通語に極めて近いものである (小野, 2001)。

2.4.3　2 つの「共通語化」の接点

国立国語研究所の北海道調査（国立国語研究所 (1965), 国立国語研究所・江川 (1997)）によって明らかになったように、この二つのプロセスは、異なった方向に向かうものとは限らない。当時の北海道共通語は，その成立にあたって全国共通語に近づくという方向性を持っていた。しかし，これ

*² 竹本 (2010) が指摘しているように、今日は移住者から数えて 5 世や 6 世の時代を迎えているので、移住者の出身地の方言による言語的なヴァリエーションは極めて少ないと考えられる。

*³ 「共通語」は，それまで使用されていた「標準語」に代わる用語として戦後から使われてきた。用語の定義上の違いはあるが，対象となる言語変種に大きな違いがないと考えられる (鑓水, 2009)

は「全国共通語の影響を受けたために、全国共通語に近づいた」ということではない。

2.4.4　場面による使い分け・方言意識

古くは、「方言」はある地域で行われる単一の言語体系として考えられてきた。しかし、共通語化が進んでいる中で、現代の方言は場所・相手、改まり度といった場面に応じて共通語と使い分けられる「スタイル」へ変容しつつある (村上, 2016)。すなわち、地域話者には「方言」、「全国共通語」、またはその中間に位置することばを使うという選択肢がある。北海道も例外ではないと考えられる。例えば、(小野, 1980a) はいくつかの場面を想定して、被検者に各場面でどの程度「方言」、どの程度「標準語」を使っているかについて回答を求めると、場面の改まり度が高いほど「標準語」的なことばを使う傾向を明らかにした。

しかし、地域社会で身につける「共通語」・「標準語」は完全に全国共通語と一致するとは限らない。以上、「地方共通語」は「方言の接触によって形成され、特定の地方で共通することば」という意味で使ってきたが、この用語は「地域差があるのに、共通語と判断されていることば[*4]」という意味で使われることも多い。

北海道の場合は、「方言」を使って生活しているという意識が特に薄い。地元のことばを「方言」だと考えられるのは、団体入植地の栗沢町・豊頃町では 3 〜 4 割、札幌などでは 1 割も満たない (小野, 1980a, p.487 〜 488)。また、多くの人が「北海道のことば」を「標準語」と考え、そうしてこの「標準語」とは、「東京」のことばよりむしろ、「札幌」のことばをそう考えがちである（同上, p.496）。その結果、「北海道共通語」は「地域共通語」の両方の意味を持つものであると考えられる。つまり、内陸部の方言は異なる方言の接触によって形成され、特定の地域で共通することばであり、北海道の地域社会では、その方言の改まったスタイルは（全国）共通語と同じと考えられているものでもある。

[*4] 「気づかない方言」ともいう

2.5　本研究での「方言」・「共通語」の捉え方

本研究では、言語体系と言語要素を明確に区別することを目標として用語を使い分けることにする。「方言」はある地域で使用されていることばの総称として扱い、その中で話者の属性（世代、性別など）による複数の異なる言語体系を認める。つまり、「北海道方言」、「札幌方言」、「道南方言」などは単に地理的な表示だけであり、一定の言語要素の集合を指摘するものではないことにする。同様に、「方言」は「くだけた場面で使われることば」などの意味で使われることが多いが、本研究では「方言」は地域のことばの全体をさす用語として扱い、その中の最もくだけたスタイルを表すとは限らない。言語要素に関して、北海道方言が伝統的に示すものは「方言形」や「伝統方言形」と呼び、全国共通語と一致するものは「共通語形」を呼ぶことにする。

以降、特記なき限り、本稿での「共通語」とは全国共通語を指し、「共通語化」はある言語体系の言語要素が伝統方言形から共通語形に変化するプロセスである。共通語の基盤である東京方言は、共通語と同じ言語体系を指す用語として扱う。

2.6　北海道方言の特色と類型論的位置付け

この節では、先行研究による北海道方言の文法・音声・語彙的な特徴をまとめ、日本の方言の中での区分について考える。これらの領域は本論文の範囲を超えるものであるが、本研究で用いるデータに現れる特徴的な現象のみ簡単に説明しておく。

2.6.1　音声

子音

語頭以外のカ・タが [iga]（烏賊）、[odogo]（男）のように、それぞれ [g] ・ [d] で発音されるのは海岸方言で一般的である。内陸では珍しいが、[dʑidenɕa]「自転車」などの例が見られる (小野, 2001)。

海岸では、単語の非語頭の位置に現れるガ行子音は，鼻音性を伴って [ŋ] で発音される。この現

象は海岸・内陸でも一般的であったが、内陸では衰退しつつある (南部他, 2014)。また、語頭以外のザ・ダ・バ行も鼻音化「入りわたり鼻音」も見られることがある。つまり、これらの子音に先立って鼻音挿入され、「座布団」、「窓]、「水」などの語彙がそれぞれ [zaᵐbutoɴ][maⁿdo][miⁿzɨ] となる。

ハ行音に関しては、「人」や「東」などの「ヒ」が [ɕ] として発音されることもある。

いわゆる四つ仮名（「ジ」と「ヂ」、「ズ」と「ヅ」）には区別がなく、二つ仮名である。むしろ、以下のように、海岸方言では「イ」と「ウ」の区別も曖昧になることもあるため、一つ仮名とも言える。以上の特徴はいずれも、北奥羽の諸方言の共通しているものである。

母音

海岸方言では、「イ」と「エ」はほとんど区別がなく、単独で語頭に現れる場合は、「イ」の発音が [e] に近い。例えば、「駅」と「息」はどちらも [egi] となる。単独で語中の「イ」も [e] に近い、「恋人」が「コエビト」となる。ただし、「イ」が子音と結合して音節を作る場合は、必ずしも [e] で発音するわけではなく、中舌寄りの [i] ともなる。

「イ」と「ウ」の区別も曖昧になることもあり、特に「シ」と「ス」、「チ」と「ツ」、「ジ」と「ズ」、「ヂ」と「ヅ」の環境で混同される。また、「リ」と「ル」の区別が失われている例がある。(島田他, 2013)。これらの現象は下北方言などの北奥羽諸方言にも見られるようである (石垣, 1982)。内陸方言はこれらの現象を示す話者はいるが、ほとんどの場合は全国共通語と同様である。

「アイ」の母音連続が融合して [e:] と発音されることがある。例えば、内陸・海岸とも、「やばい」、「ない」はそれぞれ [yabe:][ne:] となる。融合母音は特に海岸で多く、[tage:]（「高い」）など例があり、[sami:]（「寒い」）のように、「ウイ」が [i:] となることも少なくない。ただし、「凄い」などの特定の語彙以外に、「オイ」が [e:] と発音されることは内陸・海岸でもまれであるとされている (石垣, 1983)。

最後に、共通語及び東日本の多くの方言と同様に、無声子音にはさまれた、または無声子音に続く語末の狭母音が無声化する傾向があり、「草」や「下」はそれぞれ [kɯ̥sa] と [ɕi̥ta] になる。

特殊モーラ

海岸方言では、特殊モーラの「ン」（撥ねる音）、「ッ」（促音）、「ー」（長音）は独立性が弱く、直前の音と合一して 1 モーラを形成することが多い。例えば、「サッポロビール」が「サポロビル」になることがある。ただし、「買った」と「肩」、「砂糖」と「里」などの区別が保たれている (小野, 2001)。

2.6.2 語彙

北海道で利用されている方言語彙のほとんどは、内地から取り入られたものである。その中で、移住者のそれぞれの出身地に合わせて、北東北・北陸の諸方言に由来するものが多い。道内の分布については、全国共通語形は全道に分布されているが、方言形は主に道南地方を中心に分布している。詳しくは、石垣 (1983) を参考されたい。

2.6.3 文法

北海道方言には、全国共通語で見られない文法形式をいくつか示すが、ここで最も特徴的なものを取り上げる。

動詞の活用形

まず、北海道方言の特徴は動詞の命令形に現れる。一段（上と下）・サ変活用動詞の命令形語尾には、「れ」が使われている。例えば、「タベレ」（食べろ）、「オキレ」（起きろ）、シレ（しろ）。「れ」で終わる命令形は農漁村・市街地を問わず北海道全域で広く用いられるとされている (石垣, 1983)。

(1) アラ、ニジダ、ハヤグミレ

あら、虹だ、早く見ろ

(石垣 (1983) から)

仮定形は、カ変活用動詞「来る」の仮定形は、「コイバ」・「コエバ」という形が聞かれる。

(2)　ハヤグコエバエエノニ、ナニシテル

早く来ればいいのに、何をしている

(石垣 (1983) から)

助動詞

助動詞には、五段活用動詞の「未然形 + さる」、上一段・下一段活用動詞の「語幹 + らさる」で形成する「自発」表現がある。この表現は北奥羽諸方言にも分布し、そこから海岸方言に入ったが、近年では内陸・都市でも使われるようになった (石垣, 1983)。自発に主に三つの用法がある。以下の例はSasaki and Yamazaki (2006) からの引用である。

(3)　私はご飯が食べらさる

（このご飯が旨いので)、どんどん食べてしまう（非意図性）

(4)　このペンはよく書かさる。

このペンは書きやすい（可能性）

(5)　大きな丸が書かさってる

大きな丸が書いてある（逆使役）

文末表現

「〜（っ）しょ」は、念を押したり同意を求めたりするのに使われる。共通語の「〜でしょう」・「〜だろう」に対応する。

(6)　いいっしょ

いいでしょう、いいだろう

動詞・形容詞 +「べ」、名詞 +「だべ」は、推量、勧誘の表現として使われる、共通語の「〜だろう」、「〜よう」に当たる。「〜だべ」「〜だべさ」「〜べさ」「〜だべや」「〜べや」「〜べか」等の変

種もあり、全道的に用いられている。

(7)　あしたは雨降るべ

　　明日は雨が降るだろうね（推量）

(8)　遊ぶべ

　　遊ぼう（よ）（勧誘）

「～かい」は、親しみをもった問いかけ・疑問・推測・確認などの意を表す。

(9)　大丈夫かい

　　大丈夫なの？

(10)　外は寒くなかったかい

　　外は寒かった？

2.6.4　類型論的位置付け

以上のように、北海道方言は日本各地の方言から影響を受けてきたため、類型論的に日本の諸方言の中での詳しい位置づけは難しい。柴田 (2003, p.28) は主な 3 つの説を次のように述べている。

> 一つは、[日本の] 東部方言に位置づけ、そのままにしておく。一つは、北海道方言を二分して、海岸方言は東北方言につなげ、内陸部方言は東京方言と並べる。もう一つは、北海道方言全体を新潟方言と並べる。

決定的な位置づけは、本稿の扱う範囲を超えている。しかし、以上にまとめた特徴は、いずれも他の東日本方言にも観察されたもので、北海道方言は東日本の方言に属することについて議論の余地はないと考えられる。

第 3 章

本研究の研究方法

本研究は、2013 年 7 月から 2016 年 8 月の間に現地調査を行った結果に基づいている。本章では、本研究の調査における話者の情報、調査の方法、そして調査に用いられた調査項目について述べる。



図3.1: 本研究の調査地

3.1 調査方法

本研究の主な調査方法として、読み上げ形式を採用した。このような調査方法の大きな弱点としては、話者の自然な話し方を反映しない可能性があることである。すなわち、Labov (1978) などの社会言語学の研究が示しているように、調査の質問形式によって言語的な特徴の出現が変わることがある。例えば、単語の読み上げるときのように自分のスピーチにより注意を払っている場合，自然発話よりも「正しい」（つまり、社会的に評価されている言語変種に近い）発音が使われやすいことが示されている。

日本語のアクセントの場合は、この効果が起こるかどうかは、必ずしも明らかではない。杉藤 (1983) は、大阪方言話者が共通語文を読み上げるように求められると、文章の読みだけでなく、その後に読ませた単語リストにもアクセントの「ゆれ」が生じることを示した。しかし、東京方言の形容詞におけるアクセント変化に関しては、小林 (2003, p.110) は調査のタスク（質問形式）や発話スタイルの差はアクセントに影響を与えていなかったと述べている。

しかし、いくつかの理由によって、読み上げ形式を採用することにした。まず、北海道方言において共通語アクセントとの対照を示す語彙は限られており、そのなかで自然な会話に稀にしか現れないものが多い。また、効果的に話者のアクセントを相互に比べるため、話者全員に同じ語彙を発音してもらう必要があった。次に、自然会話に多く現れるフォーカス、区切り、文末音調などの現象はアクセントによるピッチ変動をかき消すこともあるため、個々の語彙のアクセント型が断定しにくい場合がある。最後に、北海道方言は言語形式上に全国共通語に近く、方言話者の方言意識が低いため、より社会的に評価されている言語変種に切り替える傾向が小さい可能性もある。これにも関わらず、本研究で示したデータは必ずしもインフォーマントの最もくだけた発話スタイルを反映していると限らないことを考慮することが必要である。

具体的な形式は、調査票の語彙を埋め込んだ短い文章をインフォーマントに示し、なるべく自然に読み上げるように求めた。その音声を SONY 社製の IC レコーダー (SX1000) を用いて 44100Hz のサンプリング周波数で録音した。その録音に基づいて著者が聴覚印象に基づいて音調を判定したが、一部の用例については基本周波数（f0）曲線の視認に基づいて判断した。

3.2　インフォーマント

本論文の調査にご協力いただいたインフォーマントは女性 24 名、男性 12 名、合わせて 36 名であった。インフォーマントの詳細は以下の表で示される。しかし、表のインフォーマント全員がすべての調査に参加したのではない。インフォーマントを示す記号は順に調査地（c = 札幌、e = 網走、s = 七飯、f = 古平、o = 小樽、n = 小平、y = 名寄）、固有記号、年齢、および性別（f = 女性、m = 男性）を表す。

表3.1: 道央地方の話者の詳細

札幌調査（2013 年 6 月から 2016 年 9 月までの間に実施）

ca30f	女性　30 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住	cb33f	女性　30 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住
cd62f	女性　62 歳 月形町で生まれ、 13 歳から現在まで 札幌市に居住	ce66f	女性　66 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住
ch62f	女性　62 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住	ci59m	男性　59 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住
cj36f	女性　36 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住	ck25f	女性　25 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住
cl74f	女性　74 歳 札幌市で生まれ育ち、 現在まで札幌市在住		

表3.2: 道東地方の話者の詳細

網走調査（2013 年 8 月に実施）

ea34f	女性　34 歳 網走市で生まれ育ち、 高校卒業から現在まで 札幌市に居住	eb15m	男性　15 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住
ec50f	女性　50 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住	ed69f	女性　69 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住
ee58f	女性　58 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住	ef58f	女性　58 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住
eg67m	男性　67 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住	eh69m	女性　69 歳 網走市で生まれ育ち、 現在まで網走市に居住
ej61m	男性　61 歳 網走郡美幌町で生まれ育ち、 高校卒業から網走市に居住	ek59f	女性　69 歳 興部町で生まれ育ち、 中学校卒業から現在まで 網走市に居住
el60f	男性　61 歳 網走郡大空町で生まれ育ち、 中学校卒業から現在まで 網走市に居住		

表3.3: 道南地方の話者の詳細

七飯調査（2014 年 6 月に実施）

sa59m	男性　59 歳 七飯町で生まれ育ち、 現在まで七飯町在住	sb41m	男性　41 歳 函館市で生まれ育ち、 20 年七飯町在住
sc33f	女性　33 歳 七飯町で生まれ育ち、 現在まで七飯町在住	sd60m	男性　60 歳 函館市で生まれ育ち、 30 年七飯町在住
se41m	男性　41 歳 松前町で生まれ育ち、 15 年七飯町在住	sf25f	女性　25 歳　団体職員 七飯町で生まれ育ち、 4 年海外滞在

古平調査（2015 年 3 月に実施）

fa86f	女性　86 歳 古平町で生まれ育ち、 現在まで古平町在住	fb82f	女性　82 歳 古平町で生まれ育ち、 現在まで古平町在住
fb78f	女性　78 歳 古平町で生まれ育ち、 現在まで古平町在住		

小樽調査（2015 年 8 月）に実施

oa30m	男性　30 歳 小樽市で生まれ育ち、 4 年札幌市滞在 現在は小樽市在住	ob63f	女性　63 歳 小樽市で生まれ育ち、 現在まで小樽市在住

表3.4: 道北地方の話者の詳細

小平調査（2013 年 8 月に実施）

na52f	女性　52 歳 留萌市で生まれ育ち、 現在まで留萌市在住、 小平町に通勤している	nb63m	男性　63 歳 小平町で生まれ育ち、 現在まで小平町在住
nc47f	女性　47 歳 小平町で生まれ育ち、 現在まで小平町在住		

名寄調査（2016 年 8 月に実施）

ya61f	女性　61 歳 名寄市で生まれ育ち、 現在まで名寄市在住	yb63m	男性　63 歳 名寄市で生まれ育ち、 現在まで名寄市在住

3.3　調査項目

3.3.1　名詞

和語

先述のように、本研究の目的の一つは、様々な異なる属性の話者の発音を比較することである。そのため、なるべく全員の話者が馴染みのある語彙を調査票に使うことにした。つまり、若年層が使わない方言形語彙や、代替の方言語彙が使われている全国共通語の語彙を避けて、調査項目を選んだ。金田一 (1973) および金田一 (1975) の語類リストから以下の語彙項目を抜粋し、調査票を作成した。語類の詳細な説明は、5.1節を参考されたい。1 モーラ語の 9 語（各類の 3 語）、2 モーラ語の 50 語（各類の 10 語）、3 モーラ語の 28 語（各類の 4 語）、合わせて 87 語である。

表3.5: 調査項目（和語名詞）

1 モーラ語：	I 類	蚊、血、戸
	II 類	葉、日、矢
	III 類	木、酢、目
2 モーラ語：	I 類	海老、滝、烏賊、牛、皿、紐、蜂、蟹、酒、鼻
	II 類	冬、川、旗、梨、橋、町、石、紙、肘、胸
	III 類	山、栗、熊、犬、米、耳、舌、花、靴、馬
	IV 類	味噌、海、空、箸、糸、絹、肩、舟、針、鎌
	V 類	牡蠣、猿、眉、秋、窓、蛇、蜘蛛、足袋、雨、鮭
3 モーラ語：	I 類	車、煙、桜、子供
	II 類	小豆、娘、二つ、東
	III 類	黄金、小麦、岬、力
	IV 類	頭、鏡、男、刀
	V 類	涙、枕、油、アワビ
	VI 類	兎、狐、背中、鼠
	VII 類	苺、辛子、鯨、卵

外来語

多くの日本語の方言では、外来語のアクセントが和語のように語彙レベルで指定されているのではなく、語彙の音韻構造から予測できるとされている（Kubozono (2006) など）。それ故、外来語をモーラ数および語における重音節（以下、H）と軽音節（以下、L）の配列によって選んだ。2 モーラ語の 6 語、3 モーラ語の 12 語、4 モーラ語の 19 語、5 モーラ語の 31 語、合わせて 68 語であった。

表3.6: 調査項目（外来語名詞）

2 モーラ語	H	ピン、パイ、ショー
	LL	ジャム、パリ、カツ
3 モーラ語	HL	ケーキ、セット、ダンス、グッズ
	LH	ズボン、シュガー、メロン、スタイ
	LLL	トマト、テレビ、バナナ、スキル
4 モーラ語	HH	ロンドン、サイダー、マンゴー
	HLL	トンネル、ライバル、トースト、シンシア
	LHL	アパート、ジェラート、オレンジ、ジャケット
	LLH	アマゾン、ビタミン、オルガン、ミクサー
	LLLL	キャラメル、アメリカ、オムレツ、ストレス
5 モーラ語	LHH	スケッパー、ストーリー、ドライバー、スポンサー
	HLH	マーガリン、ハンガリー、タンバリン、カーディガン
	HHL	マッサージ、フィンランド、ハンバーグ、カンタータ
	HLLL	ヨーグルト、ランドセル、カーニバル、アンジェリカ
	LLHL	ビスケット、チョコレート、クラリッサ、ストリート
	LHLL	プリンセス、コロンビア、ボランティア、ステータス
	LLLH	パキスタン、クロスボー、カメラマン、サムゲタン
	LLLLL	クリスマス、アナリスト、ヴィクトリア

複合語

多くの日本語の方言では、2 つの構成要素から成り立った複合名詞のアクセントは、複合語アクセント規則を用いて語彙の音韻構造から予測できるとされている。規則は方言によって異なり、複

雑であるが、後部構成要素の長さ（モーラ数）が大切な条件になる (上野, 1997)。また、後部が 2 モーラ以下の場合は、個々の語彙による違いも現れる。調査項目は主に秋永 (2001b) とKubozono (2006) から抜粋したものであるが、著者が作った項目もある。

表3.7: 調査項目（複合語名詞）

後部要素の長さ	
1 モーラ：	孤児、札幌市、名古屋市
2 モーラ：	クリームパン、ナイロン糸、四十肩、石狩川、信濃川、信州味噌、天然ガス、緑色、宝船、アカゲザル、ニホンザル、ガラス窓、俄雨、青空、さつま芋、左側、連絡先
3 モーラ：	肩車、野ねずみ、石頭、夏休み、ダメ男、紙おむつ、生卵
4 モーラ：	女友達、焼きハマグリ、赤紫、大和撫子、夏果物
5 モーラ：	伊勢物語、南カリフォルニア

3.3.2 動詞

終止形

和語名詞と同様に、動詞は終止形アクセントのパターンによって、方言間で対応する語類に分けられる。本研究の動詞の調査項目は、金田一 (1973) の語類リストから抜粋した。これらの項目は動詞モーラ数（2 ・ 3 ・ 4）及び活用の種類（1 段・ 5 段）によって分かれている。

表3.8: 調査項目（動詞・終止形）

2 モーラ語	第 1 類：	着る、煮る、寝る、行く、生む
	第 2 類：	来る、出る、見る、書く、読む、膿む
3 モーラ語	第 1 類：	上げる、入れる、消える、借りる、洗う、捜す、使う
	第 2 類：	受ける、起きる、投げる、見える、動く、思う、作る、盗む
4 モーラ語	第 1 類：	与える、聞こえる、迎える、忘れる
	第 2 類：	集める、数える、離れる、務める

活用形

日本語の動詞は活用する際、アクセントも語形の変化に伴って変化する。また、類によってアクセント変化のパターンも異なる。表3.9は、3 モーラ動詞の「使う」（I 類）、「作る」（II 類）及び 4 モーラ動詞の「忘れる」（I 類）と「離れる」（II 類）のいくつかの活用形を示す。それに加えて、北海道方言特有の活用形の「動詞＋サル」、「レ」で終わる命令形を示す項目を含んだ（2.6.3節を参考）。

表3.9: 調査項目（動詞・活用形）

	第 1 類（平板）		第 2 類（起伏）	
テ形	忘れて	使って	作って	離れて
タリ形	忘れたり	使ったり	作ったり	離れたり
タイ形	忘れたい	使いたい	作りたい	離れたい
ナガラ形	忘れながら	使いながら	作りながら	離れながら
ナイ形	忘れない	使わない	作らない	離れない
セル形	忘れさせる	使わせる	作らせる	離れさせる
連体形	忘れる（もの）	使う（もの）	作る（もの）	離れる（もの）
バ形	忘れれば	使えば	作れば	離れれば
命令形	忘れろ	使え	作れ	離れろ

表3.10: 調査項目（動詞・活用形）（北海道方言特有の形式）

	第 1 類（平板）		第 2 類（起伏）	
サル形	入れらさる	押ささる	読まさる	食べらさる
サル＋タ形	入れらさった	押ささった	読まさった	食べらさった
サル＋ナイ形	入れらさんない	押ささんない	読さんない	食べらさんない
命令形（レ）	あげれ	寝れ	見れ	食べれ

3.3.3 形容詞

形容詞の調査項目は表3.11の 32 語である。動詞の終止形と同じく、語類（I 類・ II 類）とモーラ数の全てのカテゴリーを網羅するように選択した（2 モーラ形容詞には I 類の語はない）。3.12は 3

モーラ形容詞の「赤い」（I 類）、「白い」（Ⅱ 類）及び 4 モーラ動詞の「やさしい」（I 類）と「かわいい」（Ⅱ 類）のいくつかの活用形を示す。

終止形

表3.11: 調査項目（形容詞・終止形）

2 モーラ語	第 2 類：	無い、良い
3 モーラ語	第 1 類：	赤い、浅い、厚い、甘い、薄い、
		遅い、堅い、遠い †、軽い、辛い
	第 2 類：	熱い、多い †、黒い、寒い、白い、深い、
		古い、悪い、凄い、低い
4 モーラ語	第 1 類：	悲しい、やさしい、宜しい、
		怪しい、卑しい、明るい
	第 2 類	かわいい、正しい、嬉しい、寂しい

活用形

表3.12: 調査項目（形容詞・活用形）

活用形	白い	赤い	やさしい	かわいい
クテ形	白くて	赤くて	やさしくて	かわいくて
カッタ形	白かった	赤かった	やさしかった	かわいかった
クナル形	白くなる	赤くなる	やさしくなる	かわいくなる
クナイ形	白くない	赤くない	やさしくない	かわいくない
連体形	白い（もの）	赤い（もの）	やさしい（もの）	かわいい（もの）
バ形	白ければ	赤ければ	やさしければ	かわいければ

3.4　表記・用語について

本稿で使う表記を説明する前に、「音調」と「アクセント」の 2 つの基本用語について確認しておく。使い分けは主に 田中 (2005, p.12) に従う。つまり、「音調」は音声レベルでの音の相対的高さや低さ、または上昇や下降の実態を指す。一方、「アクセント」は、音韻レベルでの音の相対的高低関係のきまりをさす。また、「アクセント」はある方言やパラダイムの相対的高低関係全般を指す場合（例えば、「東京方言のアクセント」、「形容詞のアクセント」など）もある。

本稿で使う表記は主に三つのシステムに分けられる。音韻論的表記は、ある語彙において語の弁別に使われる韻律的な特徴がどこに現れるかのみを表す。具体的に、語頭から数えて何モーラ目にアクセント核があるかを数字で表す。例えば、語頭の 1 モーラ目にアクセント核がある語（「命」など）は ① 型、語頭から 2 モーラ目にアクセント核がある語（「心」など）は ② 型と表記する。無核の語は ⓪ 型と表記する。[*1]

表3.13: 本研究で使う音調の表記方法

静的表記:		動的表記:		音韻表記:	
○	低いモーラ	○	任意のモーラ	○	任意のモーラ
●	高いモーラ	△	助詞	┐	アクセント核
△	低い助詞	[	上昇	＝	無核
▲	高い助詞	]	下降	⓪、①、②	n モーラ目にアクセント核を担う単語（⓪ は無核）

語の実際のピッチパターン（音声表示）を表すために、様々な方式がある。北海道方言を対象にする先行研究の大部分は、表3.13の左側の列のように単語のモーラごとの相対的な高さを表す白丸黒丸方を用いる。すなわち、音を高と低の二つの段階に分けて、あるモーラはどの段階にあるかを

[*1] アクセント核が語幹の右に落ちる場合、接尾辞の左端から数えて何モーラ目にアクセント核があるかを S ＋数字で表す。語幹は活用させても変わらない、すべての活用形において現れる部分とする。例えば、「ツクラ┐ナイ」はS ①、「ツクラセ┐ル」はS ② である。

示す静的表記である。本稿では、先行研究の結果を報告する際、原資料で現れたようにこのような表記を使うことにする。しかし、本研究で集めたデータを分析するには、ピッチの変動のみを表す括弧を用いる。要するに、ピッチが上昇するか下降するかを括弧で表す動的表記である。その方式を採用した理由は次の章で説明する。

第 4 章

北海道方言の韻律的特徴

本章では、アクセント調査で集めたデータ全体から抜粋した代表的な用例に基づいて、北海道方言全体に共通するアクセント体系、アクセント規則、さらにアクセントの音声的具現を明らかにする。

4.1 アクセント体系

4.1.1 先行研究

本節では先行研究におけるアクセント体系による北海道方言の区分を取り上げる。先述のように、北海道方言は複数の方言の接触によって成立したため、系譜的な位置づけは不明である。しかし、アクセントの特徴によって、日本の諸方言の中で区分することは可能であると考えられる。平山 (1957) は、一部の言語島（新十津川、重内など）を除いて「北海道・樺太方言の音調（東京式 I）は奥羽方言の東京式 I にきわめて近いものである」と述べている。金田一 (1977) によると、北海道は北奥羽と房総半島の北部とともに、「外輪東京式アクセントの変種」である（内輪式は東海地方西部、近畿地方北西部・岡山県に分布し、中輪式は関東西部、甲信地方や中国地方に分布する）。最後に、新明解日本語アクセント辞典 (秋永, 2001b) のアクセント分布図（金田一春彦作図による）では、北海道は北奥羽、新潟県北部、房総半島北部、島根県の出雲地方、福岡の筑前地方などと一緒に「東京式アクセントの変種」に属している。

しかし、上野 (1989) が述べているように、「これらの分類基準が明確ではなく、（中略）共時的なタイプの分類なのか、歴史的（系譜的）な分類なのか、その出発点から分明ではなく、人によって指す内容がかなり異なるからである」。同氏が提案した共時的な特徴に基づいた分類を使うと、北海道の内陸・海岸方言とも有アクセント、多型アクセント、式がない、文節非関与のアクセント体系である。以下、本研究のデータを用いて、この分類を支持する具体的な例を示す。

本研究の結果

日本語の諸方言では、アクセントはある特定の「アクセント単位」（語彙や文節）において、特定のピッチ（音の高さの感覚）のパターンが定まっていることである。北海道方言はアクセントを持つ方言である。従って、「海が」のような文節はアクセント単位を成し、その単位のピッチのパ

ターンは「海」という語彙の一つである。

(11) (a) ウ] ミガ（海が）

(b) ＊ウ [ミ] ガ（海が）

(c) ＊ウ [ミガ（海が）

北海道方言では、「海が」は 1 モーラ目から 2 モーラ目にかけてピッチの下降があるように発音され、それ以外のピッチパターン ((b), (c) など）は認められない。さらに、いわゆる「一型アクセント」の方言と異なり、ピッチの変動が単語の弁別に用いられる。例えば、(12 a) の「蠻が」と (12 b) の「蚤が」は分節音の面で同じ [nomi] でも、北海道方言の話者はこの 2 語を異なるピッチパターンで発音している上に、そのピッチパターンが異なっていることを認識し、どちらのパターンがどちらの語彙に結びついていることが分かる。つまり、音韻論的な対立が成り立つ。

(12) (a) ノ] ミガ（蠻が）

(b) ノ [ミ] ガ（蚤が）

弁別的なアクセント方言の中で、アクセント単位の長さが変わっても対立の数が一定のＮである方言 (長崎方言 (松浦, 2008)、池間方言 (Igarashi et al., 2011) など) はＮ型アクセント方言という。それに対して、多型アクセント方言では、アクセント単位が長くなるに応じて、対立の数が多くなる (上野, 1989)。例えば、長崎方言では、2 ・ 3 ・ 4 モーラ名詞のいずれでも、2 つの弁別的なピッチパターンしかない。それに対して、北海道方言では、2 モーラ名詞において 3 つ、3 モーラ名詞において 4 つ、4 モーラ名詞において 5 つの弁別的なピッチパターン（アクセント型）がある。弁別的なピッチパターンの数を一般化すると、n モーラ名詞の場合は、アクセント対立の数はｎ＋ 1 である。この複数のピッチパターンを決めるのは、語において一つの特定のピッチ変動の有無と位置である。この変動をもたらす特徴は「アクセント核」(服部, 1955) と呼ぶ。表4.1は北海道方言においてアクセント核の有無と位置によって、可能なアクセント型を示す[*1]。

[*1] アクセント対立の数はｎ＋ 1 であるのは、軽音節のみから成る名詞に限る。通常、音節の 2 番目のモーラとして現れる特殊モーラ（撥音、促音、長母音の後半、二重母音の後半）はアクセント核を担えないため、アクセント型、特殊モーラ数を加減しても可能なアクセント型の数が変わらない。また、後述のように、動詞、形容詞などの品詞におい

表4.1: 北海道方言のアクセント体系

1 モーラ語	2 モーラ語	3 モーラ語	4 モーラ語
○（葉、血など*[2]）	○○（牛、酒など）	○○○（車、小豆など）	○○○○（アメリカなど）
○┐（矢、酢など）	○┐○（秋、絹など）	○┐○○（枕、苺など）	○┐○○○（ライバルなど）
	○○┐（犬、山など）	○○┐○（アワビ、涙など）	○○┐○○（ストレスなど）
		○○○┐（娘、男など）	○○○┐○（孤児）
			○○○○┐（正月）

4.3節で詳しく説明するように、北海道の方言の場合は、アクセント核がもたらす変動はアクセント核を担うモーラから次のモーラにかけてのピッチの下降である。このように次のモーラのピッチを下げる効果があるため、「下げ核」という (上野, 1989)。*[3]下げ核による下降以外の弁別的な特徴はないので、京阪方言などで見られるアクセント単位の出だしのピッチによる区別（「式」）はない。

4.2　アクセント規則

上記に説明したように、北海道方言において、単純名詞におけるアクセント核の有無と位置はアクセント単位を成す語か文節の基本性質の一つである。そのため、核の位置は他の特徴から予測することが不可能である。次の例が実証するように、単純和語名詞においてアクセント核はある語のどのモーラにも現れ得る。アクセント核のない語（無核語）も可能である。

(13)　(a) ハシガ = （端が）

(b) ハ┐シガ（箸が）

(c) ハシ┐ガ（橋が*[4]）

てアクセント型の数が限られている。

*[3] 道南地方の一部では、下げ核以外の弁別的な特徴を有する話者がいる報告がある。例えば、(Uwano, 2012) では、道南地方は「昇り核」の方言を持つ地域として区分される。しかし、本研究で集めた資料の中で、このような実例は窺われなかった。

*[4] 一部の話者のみ、ハシガ = も可能

しかし、アクセント単位を成す語において分節や形態的な特徴によって、アクセント核の有無と位置を予測する規則を立てることが可能である場合もある。以下、複合名詞アクセント、外来語名詞のアクセント、漢語名詞のアクセント、そして動詞・形容詞の用言のアクセントを取り上げて、その規則を記述することを試みる。

4.2.1 複合名詞のアクセント

複合名詞は、「川」、「トマト」などの単純名詞と異なり、2 つ以上の語根によって形成された名詞である。ここでは、すべて 2 つの構成名詞*[5]から成り立ち、一つのアクセント単位を成すものを扱う。一般的に、複合名詞は一つのアクセント単位を成す。そのアクセント核の有無と位置は、前部要素と関係なく後部要素の特徴によって決まる。後部要素の最も大切な特徴は、長さ（モーラ数）である。後部要素が 3，4 モーラの場合は、アクセント核が後部要素の最初のモーラに移動するか、後部要素のアクセント型が保持されるかという 2 つのパターンがある。次の例は前者のパターンを示す。

(14) ノ┐ ＋ ネズミ＝ → ノネ┐ズミ （野ねずみ）

(15) ダメ┐ ＋ オトコ┐ → ダメオ┐トコ （ダメ男）

(16) オンナ┐ ＋ トモダチ＝ → オンナト┐モダチ （女友達）

しかし、語中核の後部要素はアクセント型を保持する傾向がある*[6]。

(17) ヤ┐マト ＋ ナデ┐シコ → ヤマトナデ┐シコ （大和撫子）

(18) ナツ┐ ＋ クダ┐モノ → ナツクダ┐モノ （夏果物）

(19) ヤキ┐ ＋ ハマ┐グリ → ヤキハマ┐グリ （焼きハマグリ）

*[5] ただし、「焼き」、「休み」動詞からの転成名詞や「生」、「駄目」などの形容動詞も含む

*[6] 語頭核の語が複合語の場合は、核が保持されるが、結果的に (14) ～ (16) と同じパターンになる。

(20)　アカ┐　＋　ムラ┐サキ　→　アカムラ┐サキ　（赤紫）

「生卵」、「紙おむつ」、「石頭*[7]」など、後部要素が 3 モーラの語中核語である複合語は、2 つのパターンの間でゆれる。しかし、多くの場合は話者ごとに一致しているパターンで発音される。

(21)　ナ┐マ　＋　タマ┐ゴ　→　ナマタ┐マゴ、ナマタマ┐ゴ　（生卵）

(22)　カミ┐　＋　オム┐ツ　→　カミオ┐ムツ、カミオム┐ツ　（紙おむつ）

(23)　イシ＝　＋　アタ┐マ　→　イシア┐タマ、イシアタ┐マ　（石頭）

後部要素が 5 モーラ以上の場合，後部要素のアクセントが保持されるが、全体が平板になる用例も見られた。

(24)　イ┐セ＝　モノガ┐タリ　→　イセモノガ┐タリ　（伊勢物語）

(25)　ミナミ┐　＋　カリフォ┐ルニア　→
ミナミカリフォ┐ルニア、ミナミカリフォルニア＝　（南カリフォルニア）

後部要素が 2 モーラ以下の場合、主に 3 つのパターンが見られ、それらは形態素ごとに決まっていると考えられる。まず、（26）と（27）が示すように、両要素のアクセント型と関係なく、複合語全体のアクセント核が前部要素の最後のモーラに位置する。また、（28）のように、前部要素の最後のモーラが特殊モーラである場合は、アクセント核が特殊モーラを含む音節の第 1 モーラに移る。

(26)　(a) サッポロ＝　＋　シ┐　→　サッポロ┐シ　（札幌市）
(b) ナ┐ゴヤ＝　＋　シ┐　→　ナゴヤ┐シ　（名古屋市）

(27)　(a) シ┐ナノ　＋　カワ┐　→　シナノ┐ガワ　（信濃川）
(b) イシカリ＝　＋　カワ┐　→　イシカリ┐カワ　（石狩川）

(28)　(a) シジュウ　＋　カ┐タ　→　シジュ┐ウカタ　（四十肩）

*[7] 一部の話者のみ

(b) ナ┐イロン　＋　イ┐ト　→　ナイロ┐ンイト　（ナイロン糸）

一方、複合語においても後部要素のアクセント型が保持されるものもある*8。この場合でも、前部要素のアクセント型が複合名詞のアクセント型に関わらない。

(29)　タカラ┐　＋　フ┐ネ　→　タカラブ┐ネ　（宝船）

(30)　テンネン　＋　ガ┐ス　→　テンネンガ┐ス　（天然ガス）

(31)　(a) アカゲ　＋　サ┐ル　→　アカゲザ┐ル　（赤毛猿）
(b) ニホ┐ン　＋　サ┐ル　→　ニホンザ┐ル　（日本猿）

語頭核の後部要素が全て複合語でアクセント型を保つとは限らないが、Poser (1990) が東京方言について指摘したように、アクセント型が保持される後部要素は殆ど語頭核である。

(32)　ニワカ＝　＋　ア┐メ　→　ニワカア┐メ　（俄雨）

(33)　ア┐オ　＋　ソ┐ラ　→　アオゾ┐ラ　（青空）

(34)　ガラス＝　＋　マ┐ド　→　ガラスマ┐ド　（ガラス窓）

最後に、後部要素が「先」、「側」、「色」、「芋」など、限られた特定の語彙であれば、前部・後部要素のアクセント核がなくなり、複合名詞全体が無核語になる。

(35)　レンラク＝　＋　サキ＝　→　レンラクサキ＝　（連絡先）

(36)　ヒダリ＝　＋　ガワ　→　ヒダリガワ＝　（左側）

*8 例外もある。「赤毛猿」と「日本猿」はすべての話者において後部要素のアクセント型が保持されていたが、「宝船」と「天然ガス」では、「タカラ┐ブネ」と「テンネ┐ンガス」のように、前部要素の最後のモーラがアクセント核を担う用例も見られた。このようなゆれは他の方言でも見られると考えられる。例えば、Poser (1990) は「糸」が複合名詞でもアクセント型を保つ語であると述べているが、(Kawahara, 2011) では、アクセント核が前部要素の最後のモーラに移る語の例として挙げられている

(37)　ミ┐ドリ　＋　イロ┐　→　ミドリイロ＝　（緑色）

(38)　サ┐ツマ　＋　イモ┐ →　サツマイモ＝　（さつま芋）

複合語アクセントには様々なパターンが見られるが、いずれも東京方言と同様な規則によるものである。大まかにまとめると、後部要素単独時のアクセントが保持されるものと、アクセント核が形態素境界前後に移動するものの 2 つに分けられる (松浦, 2014)。興味深いこととして、後部要素単独時のアクセント型が東京方言と異なる北海道形の場合でも、複合語全体のアクセントは東京方言と一致することである。例えば、北海道方言では「雨」、「空」、「窓」などの単語は、話者によって ① 型か ② 型で発音される。しかし、(39)、(40)、(41) のように、これらの語を ② 型で発音する話者の場合は、複合語でアクセント型が保持される用例はなく、前部要素の最後のモーラに付与される例と後部要素の最初のモーラに付与される例の両方が観察された。

(39)　(a) ア┐オ　＋　ソ┐ラ　→　　アオ┐ゾラ、アオゾ┐ラ

　　(b) ア┐オ　＋　ソラ┐　→　　アオ┐ゾラ、アオゾ┐ラ、＊アオゾラ┐

(40)　(a) ニワカ＝　＋　ア┐メ　→　ニワカ┐アメ、ニワカア┐メ

　　(b) ニワカ＝　＋　アメ┐　→　ニワカ┐アメ、ニワカア┐メ、＊ニワカアメ┐

(41)　(a) ガラス＝　＋　マ┐ド →　グラスマ┐ド

　　(b) ガラス＝　＋　マド┐ →　グラスマ┐ド、＊グラスマド┐

東京方言に関して、Kubozono et al. (1997) は韻律的に顕著な位置（つまり、アクセント核）が語末に現れることを防ぐ制約を提示する。以上の例から、北海道方言でも、類似している制約があると考えられる。しかし、このような制約は「＊グラスマド┐」のような形式の非文性を説明するにもかかわらず、なぜ単独で「雨」、「空」、「窓」を ② 型で発音する話者でも「グラスマ┐ド」、「ニワカア┐メ」、「ニワカア┐メ」のような形式が見られるかは不明である。すなわち、「窓」を ② 型で発音する話者の場合は、「アクセント核が前部要素の最後のモーラに移る」か「後部要素のアクセント型が保持される」とのどちらの規則が適用されても、「グラスマ┐ド」のような形式が派生さ

れるはずはない。このような場合はアクセント規則が適用されずに、複合語全体のアクセント型が東京方言（共通語）から直接借用されている可能性があると考えられる。

4.2.2　外来語アクセント

和語名詞と同様に、北海道方言の外来語名詞は一つのアクセント単位につき、一つのアクセント核が持てる。しかし、複合名詞のように、語彙の特徴に基づいてアクセント核の有無と位置を予測することが可能である。北海道方言では、例外があるにも関わらず、アクセント核を語の右側から 3 番目のモーラに置く（2 モーラ語の場合は、最初のモーラに置く）。この傾向は「-3 の規則」と呼ぶ。

(42)　ピ┐ン

(43)　ケ┐ーキ

(44)　ビタ┐ミン

(45)　チョコレ┐ート

右側から 3 番目のモーラが特殊モーラである場合は、他の外輪東京式アクセントに区分される方言の一部では（新潟方言 (大塚, 2008) や山口方言 (池田・玉岡, 2013) など）、以下の例のように、ピッチの下降は特殊モーラの直後でも現れ、アクセント核が特殊モーラに来るとされている。

(46)　サイ┐ダー

(47)　ストー┐ブ (大塚, 2008) から

しかし、北海道方言は東京方言と同じ振る舞いを示し、(48)、(49) のようにアクセント核が右にずれることが見られる。

(48)　サ┐イダー

(49)　スト┐ーリー

特殊モーラに付与されたアクセント核が右ではなく、左にずれることを説明するために、McCawley (1964) は「モーラ」に加えて「音節*[9]」の概念を用いる。つまり、「-3 の規則」は、「後ろから 3 番目のモーラを含む音節にアクセント核を付与する」となる。後ろから 3 番目のモーラが重音節の特殊モーラであれば、アクセント核がその音節の第 1 モーラに移動する。しかし、例外は少なくないと言える。Kubozono (2006) が指摘しているように、東京方言において 2 つの軽音節で終わる 4 モーラ外来語は、無核語になる傾向が強い。このような傾向が北海道方言でも認められる (50)、(51)。

(50)　トンネル＝

(51)　アメリカ＝

多くの場合は、北海道方言の外来語アクセントが東京方言のアクセントと一致する。ただし、それと異なるアクセントを示す用例においては、(52) から (55) のように、アクセント核が東京方言での位置から 1 つ右のモーラに現れる傾向がある。この傾向は特に 3 モーラ語で顕著であり、結果として生じる「中高型」（「トマ┐ト」、「ピア┐ノ」など）は北奥羽諸方言の特徴的なパターンであると考えられる*[10]次の章で示すように、東京方言での位置から 1 つ右のモーラに現れる傾向が和語名詞にもあり、このような外来語アクセントが和語名詞への類推によって生じた可能性がある。

(52)　トマ┐ト

(53)　テレ┐ビ

(54)　バナ┐ナ

(55)　クリスマ┐ス

*[9] ここで扱う音節は母音単独、あるいはその母音の前後に 1 個または複数個の子音を伴って構成する単位である。具体的には、一つの自立モーラと任意の特殊モーラから成るものである。

*[10] 青森市方言 (上野, 1984) や秋田方言 (森下, 1988) などでも多く窺われる。

4.2.3　用言アクセント

動詞

名詞と異なり、北海道方言の動詞におけるアクセント型は 2 つに限られており、語のモーラ数につれて増えない。終止形において、動詞はアクセント核の有無によって第 1 類（平板式、無核型など）と第 2 類（起伏式、有核型などに分かれている。前者は終止形でピッチの下がりをもたらすアクセント核がなく、平板に発音される。後者は終止形で次末モーラ（あるいは語幹の最後のモーラ、(-①）にアクセント核を置くものである*[11]。両類のアクセント型は語形の変化に伴ってそれぞれのパターンに従って変化する。北海道方言の主な活用形アクセントは表4.2にまとめている。

複合名詞と同様に、語幹とそれに付く接続付属語は一つのアクセント単位を成し、単位内で一つだけのアクセント核を有する。そのため、動詞の活用形が形成されたら、アクセント核の有無と位置を決めるアクセント交替規則が必要である。本節では、それらのアクセント規則を探る。そのためには、まず、動詞に接続する付属語はそれぞれ自分のアクセント型を有することを考慮すべきである。通常はこの付属語が単独で発音されないため、アクセント型が不明な場合もあるが、(和田, 1980) などの先行研究によって浮き彫りになった。これらは、表4.3にまとめている。表の内容は東京方言のデータに基づいているが、北海道方言にも妥当であると考えられる。

*[11] 第 1 音節が重音節である「カエル」（帰る）、「トール」（通る）などの動詞においては、次末モーラが特殊モーラであるため、外来語などと同様にアクセント核が前のモーラにずれる。

表4.2: 北海道方言の動詞アクセント交替表

	第 1 類（無核型）		第 2 類（有核型）	
	忘れる	使う	作る	離れる
終止形	ワスレル＝	ツカウ＝	ツク┐ル	ハナレ┐ル
テ形	ワスレテ＝	ツカッテ＝	ツク┐ッテ	ハナ┐レテ
タリ形	ワスレタ┐リ	ツカッタ┐リ	ツク┐ッタリ	ハナ┐レタリ
タイ形	ワスレタイ＝ ワスレタ┐イ	ツカイタイ＝ ツカイタ┐イ	ツクリタ┐イ	ハナレタ┐イ
ナガラ形	ワスレナガラ＝ ワスレナ┐ガラ	ツカイナガラ＝ ツカイナ┐ガラ＝	ツクリナ┐ガラ	ハナレナ┐ガラ
マス形	ワスレマ┐ス	ツカイマ┐ス	ツクリマ┐ス	ハナレマ┐ス
ナイ形	ワスレナイ＝ ワスレナ┐イ	ツカワナイ＝ ツカワナ┐イ	ツクラ┐ナイ	ハナレ┐ナイ
セル形	ワスレサセル＝ ワスレサセ┐ル	ツカワセル＝ ツカワセ┐ル	ツクラセ┐ル	ハナレサセ┐ル
連体形	ワスレル＝（もの）	ツカウ＝（もの）	ツク┐ル（もの）	ハナレ┐ル（もの）
バ形	ワスレレ┐バ	ツカエ┐バ	ツク┐レバ	ハナレ┐レバ
命令形（～エ）	－	ツカエ┐	ツク┐レ	－
命令形（～ロ）	ワスレロ┐	－	－	ハナレ┐ロ

表4.3: 動詞に接続する付属語のアクセント型

テ＝	ワスレテ＝、ツカッテ＝、ツク┐ッテ、ハナ┐レテ　など
タ┐リ	ワスレタ┐リ、ツカッタ┐リ、ツク┐ッタリ、ハナ┐レタリ　など
タ┐イ	ワスレタイ＝、ツカイタイ＝、ツクリタ┐イ、ハナレタ┐イ　など
ナ┐ガラ	ワスレナガラ＝、ツカイナガラ＝、ツクリナ┐ガラ、ハナレナ┐ガラ　など
マ┐ス	ワスレマ┐ス、ツカイマ┐ス、ツクリマ┐ス、ハナレマ┐ス　など
セ┐ル	ワスレサセル＝、ツカワセル＝、ツクラセ┐ル、ハナレサセ┐ル　など
┐ナイ	ワスレナイ＝、ツカワナイ＝、ツクラ┐ナイ、ハナレ┐ナイ　など
┐バ	ワスレレ┐バ、ツカエ┐バ、ツク┐レバ、ハナレ┐レバ　など
エ＝	ツカエ┐、ツク┐レ
ロ＝	ワスレロ┐、ハナレ┐ロ

東京方言における付属語アクセント交替規則を記述した李 (2010) は前部要素（つまり、語幹）のアクセントを手がかりとした 3 規則を設定し、どの規則が適用されるかという観点から動詞に付く付属語を分類している。動詞に付属語が接続した全体のアクセント型をＺとし、Ｚを構成している要素を前部要素（Ｘ）と後部要素（Ｙ）に分けて考えると、アクセント交替規則は次のようにまとめることができる。

表4.4: 動詞のアクセント交替規則（(李, 2010) による）

規則Ⅰ　Ｙ決定型
規則Ⅱ　Ｘ＝無核型 → Ｙ決定型、Ｘ＝有核型 → Ｘ決定型
規則Ⅲ　Ｘ＝無核型 → Ｘ決定型、Ｘ＝有核型 → Ｙ決定型

表4.2に記述した動詞活用形をどの規則が適用されるかによって分類すれば、規則Ⅰ適用されるものはマス形である。つまり、Ｘが無核型か有核型かとは関係なく、ＹがＺのアクセント型を決め、いずれの例においても「マス」の「マ」がアクセント核を担う。

表4.5: 規則 I が適用される形容詞付属語

		Y
		マ┐ス
X	無核型	Y
	有核型	Y

規則 Ⅱ が適用されるものはテ形、タリ形、バ形、命令形（エ形・ロ形とも）である。この規則は、Xのアクセント型によって分かれて適用される。Xが無核型の場合はZを決めるのはYになる。(李, 2010, p.453) が説明するように、最初に出てくる核が全体の核になるという規則である。例えば、「バ」は無核型のXにつく場合は、Yが指定するように、アクセント核が「バ」の前のモーラに置く。一方、「バ」が有核の付属語が無核型のXにつく場合は、最初に出てくる核はX本来のアクセント核であり、「ツク┐レバ」、「ハナレ┐レバ」などのアクセント型となる。ただし、「テ」と「タリ」の場合は、Xは有核型かつ 1 段活用の動詞の場合のみ、X本来のアクセント核の位置が 1 モーラ前にずれ、「ハナレ┐ル」＋「テ」・「タリ」がそれぞれ「ハナ┐レテ」・「ハナ┐レタリ」である。

表4.6: 規則 Ⅱ が適用される動詞付属語

		Y			
		テ=	タ┐リ	┐バ	エ┐・ロ┐
X	無核型	Y	Y	Y	Y
	有核型	X（1 モーラ前）	X（1 モーラ前）	X	X

最後に、「ナイ」および「タイ」、「セル」、「ナガラ」の規範形は規則 Ⅲ が適用される。すなわち、XがⅠ類（無核型）の場合は、附属語のYが有核であるにもかかわらず、Z のアクセント型はXのアクセントによってきまり、無核となる。XがⅡ類（有核型）の動詞である場合は、Z のアクセント型はYのアクセントによってきまり、Yの本来のアクセント型がZに現れる。

表4.7: 規則 Ⅲ が適用される動詞付属語

		Y			
		┐ナイ	セ┐ル	タ┐イ	ナ┐ガラ
X	無核型	X	X	X	X
	有核型	Y	Y	Y	Y

しかし、表 4.2のように、1 類（無核型）のXの場合は、「セル」・「タイ」・「ナガラ」・「ナイ」形において複数のアクセント型が見られる。つまり、Zが無核のもの（規範形）と、Zが有核になっているものがある。斎藤・白尾 (2007) も北海道方言の動詞の「タイ」形と「ナガラ」形における「起伏化」を指摘したが、ここでは、それぞれのパターンの特徴を交替規則の観点から分析する。

1 類（無核型）の「セル」・「タイ」・「ナガラ」形において複数のアクセント型が見られるのに対して、XがⅡ類（有核型）の場合はZのアクセント型が一定しており、アクセント型のヴァリエーションが見られない。したがって、このヴァリエーションは、付属語Yの本来のアクセント型におけるアクセント変化による現象ではないと考えられる。むしろ、1 類動詞では、適用される交替規則が話者によって異なると考えられる。東京方言の規範のアクセント型と同様に、Xが無核型で、Zが無核である（「ワスレナガラ＝」、「ツカイタイ＝」、「ワスレサセル＝」など）場合は、規則 Ⅲ が働いていると考えられる。しかし、Xが無核で、Yの本来のアクセント核がZのアクセント核になる振る舞いは、規則 I に該当する。つまり、「マス」と同じく、Xのアクセント核の有無と関係なく、付属語のアクセントが実現し、「ワスレナ┐ガラ」、「ツカイタ┐イ」、「ワスレサセ┐ル」など）になる。

ただし、1 類の「ナイ」形におけるヴァリエーションは交替規則に基づいて説明できない。表4.2のように、「ナイ」本来のアクセント型は、「ナ」の前のモーラにアクセント核を置く。規則 I が適用されたとしたら、付属語のアクセントが実現し、＊「ツカワ┐ナイ」、＊「ワスレ┐ナイ」のようなアクセント型が予想されるが、実際に見られたのは、「ツカワナ┐イ」、「ワスレナ┐イ」であった。この現象は通時的にしか説明できないと思われるため、また 5 章で取り上げる。

表4.8は北海道方言特有の用言の動詞アクセント交替を示す。「レ」で終わる命令形は一段活用の動詞のみで現れる（つまり、東京方言で「ロ」で終わるもの）。また、統語意味論的な理由により、「―サル」が接続しにくい動詞もあるため、表4.8で使う代表例の語彙は4.2と異なる。

表4.8: 北海道方言の動詞アクセント交替表（北海道方言特有の形式）

	第 1 類（平板）		第 2 類（起伏）	
	入れる	押す	読む	食べる
サル形	イレラサ┐ル	オササ┐ル	ヨマサ┐ル	タベラサ┐ル
サル＋タ形	イレラサ┐ッタ	オササ┐ッタ	ヨマサ┐ッタ	タベラサ┐ッタ
サル＋ナイ形	イレラサンナ┐イ	オササンナ┐イ	ヨマサランナ┐イ	タベラサンナ┐イ

	あげる	寝る	見る	食べる
命令形（レ）	アゲレ┐	ネレ┐	ミレ┐	タベレ┐

北海道方言特有の用言に関しては、「―サル」という補助動詞は、語幹の動詞が有核・無核を問わず、「サ」にアクセント核を置くことから、付属語のアクセント核は「サ」にあり、規則 I が適用されていると考えられる。さらに「サル形」の動詞にタ形やナイ形の付属語をつけると、もともと有核である動詞（「作る」など）と同じ振る舞いを示す。要するに、「タ」形では語幹の最後である「サ」にアクセント核があり、「ナイ」形では接尾辞の「ナ」にある。

「レ」で終わる命令形に関して、単独で発音した場合は最後のモーラが高いのだが、文末に助詞の「よ」、「や」をつけて発音すると、「レ」から助詞にかけてピッチのの下降が窺われるので、「レ」にアクセント核であると考えられる。これも、Ｘの動詞のアクセント型と無関係で現れるパターンであるため、Ｚは規則 1 によって形成されると思われる。

形容詞

動詞に付属語のついた形式のアクセントに加え，形容詞活用形のアクセントも調査対象とした。動詞アクセントと同じく、形容詞は第 1 類（平板）と第 2 類（起伏）のものに分かれており、前者は無核で、後者は次末モーラにアクセント核を担う。また、その類に属する語彙に関して、北海道方言は東京方言に大きく類似しているとされている。表4.9は北海道方言におけるそれぞれの体系の活用形アクセントを示す。

表4.9: 北海道方言の形容詞アクセント交替表

	第 1 類（平板）		第 2 類（起伏）	
クテ形	アカ┐クテ	ヤサ┐シクテ	シ┐ロクテ シロ┐クテ	カワ┐イクテ カワイ┐クテ
カッタ形	アカ┐カッタ	ヤサ┐シカッタ	シ┐ロカッタ シロ┐カッタ	カワ┐イカッタ カワイ┐カッタ
クナル形	アカクナル＝	ヤサシクナル＝	シ┐ロクナル シロ┐クナル	カワ┐イクナル カワイ┐クナル
クナイ形	アカクナ┐イ	ヤサシクナ┐イ	シ┐ロクナイ シロ┐クナイ	カワ┐イクナイ カワイ┐クナイ
連体形	アカイ＝（もの）	ヤサシイ＝（もの）	シロ┐イ（もの）	カワイ┐イ（もの）
ケレバ形	アカ┐ケレバ	ヤサ┐シケレバ	シ┐ロケレバ シロ┐ケレバ	カワ┐イケレバ カワイ┐ケレバ

動詞のアクセントと異なり、形容詞活用形においては、アクセント核が付属語自体ではなく、語幹に現れるものが多い。また、アクセント核が語幹に現れても、終止形における位置と異なる場合も少なくない。そこで、付属語の本来のアクセント型を断定することが不明になり、Ｚのアクセント型がどちらの要素によって決まるかを断定することが難しい。

それにも関わらず、ここで取り上げた活用形のアクセント交替は主に 3 パターンが指摘できる。

表4.10: 動詞活用形におけるアクセント交替パターン

	第 1 類（無核）	第 2 類（有核）
クテ形、カッタ形、ケレバ形	-①*[12]、-②	-①、-②
クナイ形	S②	-①、-②
クナル形	⓪	-①、-②

まず、クテ形、カッタ形、ケレバ形が示すパターンがある。Ｘは無核型の場合は、アクセント核が-① か-② の位置に現れる。例えば、無核の「赤い」に「クテ」の付属語が接続する場合は、「アカ┐クテ」、つまり、語幹の最後のモーラ（-①）に現れる。ただし、無核の「ヤサシイ」において同様のパターンが見られるが、本来アクセント核を担う「シ」の母音が無声化するため、アクセント核が左にずれ、「ヤサ┐シクテ」となる (小林, 2003)。このように、無核型の形容詞におけるヴァリエーションは形容詞の分節音から予測できる。一方、有核型のＸの場合は、分節音と関係なく、アクセント核が語幹の最後のモーラ（-①：「シロ┐クテ」、「カワイ┐ケレバ」など）か語幹から左に数えて 2 番のモーラ（-②：「シ┐ロカッタ」、「カワ┐イクテ」など）に現れることがある。

クナイ形に関しては、Ｘが無核型であれば、アクセント核が付属語の「ナ」に置く（S②：「アカクナ┐イ」、「ヤサシクナ┐イ」など）。有核型であれば、クテ形、カッタ形などと同じパターンが見られる。つまり、アクセント核が語幹の最後のモーラ（-①：「シロ┐クナイ」など）か語幹から左に数えて 2 番のモーラ（-②：「カワ┐クナイ」など）に置く。

最後に、クナル形は無核型のＸで無核のままであるが、無核型のＸの振る舞いは他の付属語と同じである。

このヴァリエーションの動態は第 5 章に取り上げるが、動詞の活用形アクセントにおいて観察されたヴァリエーションとは性質が異なると考えられる。動詞の活用形アクセントは付属語の本来のアクセント型におけるアクセント変化による現象ではなく、適用される交替規則が話者によって異なると述べた。逆に、有核型の形容詞では、どの付属語が接続しても、同じパターンが見られた。つまり、形容詞の活用アクセントにおけるヴァリエーションは語彙レベルにあると思われる。

4.3　アクセントの音声実現

以上のように、北海道方言のアクセント体系は多型かつ式のない体系である。弁別的な特徴はピッチの下降をもたらすアクセント核（いわゆる下げ核）である。下げ核、の特徴により、最も類似した方言は同じ秋田方言や新潟方言や東京方言である。しかし、このアクセント体系の音声的な実現形について、まだ明らかになっていない点が多い。具体的に、アクセント単位（語か文節）全体がどのような音調をとるかについての見解は必ずしも一致していない。以下の表は先行研究における、単独で発音された単語の 3 モーラ語の音調を示す。

4.3.1　先行研究

表4.11は先行研究による、３モーラ名詞の場合のアクセントの音声実現をまとめる。まず、平山 (1957) と芳賀 (1961) によると、海岸方言はいわゆる「卓立調」を示す。すなわち、語頭の上昇はなく、アクセント核を担うモーラのみが高く発音される（無核語の場合、助詞のみが高い）。一方、海岸方言に所属する奥尻方言に関しては、小野 (1980b) が東京方言と一致する語頭上昇*[13]を報告している。海岸方言を対象にする最新の調査は小野 (1991) であり、個人差が大きいものの、○○○▲・○○●△などの音調が衰退しつつあることを示唆する根拠がうかがわれる。高年層（調査当時 75 歳、大正 4 年生まれ）の被験者がこのようなパターンを示すのに対して、中年層の被験者は（調査当時 36 歳、昭和 29 生まれ）○●●▲・○●●△である。平山 (1957) によると、内陸方言と同様に、音韻論的な示差的特徴は「さがりめ」の有無と「さがりめ」の位置のいかんとであって東京語などの場合と同じである。芳賀 (1961) もこの見解に同意する（p113）。また、海岸方言の代表的な函館方言に関して、小野 (1991) は卓立調を使う話者でも、「低から高へ移る部分、あるいは高く続く部分よりも、下がり目の位置が意味を有する」と述べている。

アクセント核を先行する上がり目はどのように説明すればよいのだろうか。実は、このような形式が言語インタビューよりくだけた場面でしか使われていないためか、現代の高齢者でも衰退して

*[13] 「上昇調」という用語は普段、モーラ内の上昇を指摘する。本節で記述するピッチ変動はモーラ間のもののみあるため、「上昇」・「上昇型」などを用いる。

表4.11: 先行研究によるアクセントの音声実現（3 モーラ名詞）

	内陸			海岸		
	調査地	⓪ 型	③ 型	調査地	⓪ 型	③ 型
平山（1954）	複数	○○○△	○●●△	複数	○○○▲	○○●△
芳賀（1961）	複数	○●●▲ ○○○△	○●●△	複数	○○○▲	○○●△
国立国語研究所（1965）	複数	○●●▲ ●●●▲	○●●△ ●●●△	複数	●●●▲	○○●△
小野（1980）				奥尻	○●●▲ ○○○▲	○●●△ ○○●△
尾崎（1984）	札幌	○●●▲	○●●△			
小野（1991）				函館高年齢 函館中年齢	○○○▲ ○●●▲	○○●△ ○●●△
竹本（2010）	帯広	○●●▲	○●●△			
高野（2011）	札幌	○●●▲	○●●△			

きたためか、このようなパターンを一貫して使う傾向は観察されなかった。アクセント核を担うモーラが卓立して聞こえる用例はいくつかあったが、これらは核を先行する予想的な上がり目の組み合わせで現れたパターンである可能性が十分あると考えられる。実は、同じ下げ核を有する東京方言でも、アクセント核を担うモーラの前にピッチが上がることもある（宮田 (1927) など）。この特徴を示す話者は核に続く下降を予想し、核を担うモーラを比較的高く発音するのである ((上野, 1977)。この現象は4.3.3節で詳しく取り上げる。

内陸諸方言に関しても、先行研究の解釈が一致しない。(平山, 1957) によると、無核の語は「低平調」で、上昇なく発音されるが、有核の語は東京方言と一致する。(芳賀, 1961) は札幌のアクセントは概ね東京と同じと述べているが、無核語では「低平調」が併用されていることも指摘した。また、国立国語研究所 (1965) の調査によると、多くの場合は音調が東京方言と一致するが、無核語と有核語のどちらの場合でも、高くはじまり、単語の最後、または核の位置まで平板に続く音調もあった。これより最近の研究は東京方言と一致する音調を報告している。

これらの見解が異なる点は、主に単語の冒頭部にどのような音調が現れるかということである。単語の冒頭部に現れるピッチの上がり目の観点から考えれば、上記の音調パターンを二つのパターンに分けることができる。平山 (1957) や国立国語研究所 (1965) は○○○△、●●●▲など、ピッチの動きを示さない音調の存在を報告する。しかし、ピッチの変動がない場合は、各モーラの相対的な高さ（○か●）はどのような基準に基づいて定まっているのかは不明である。しかし、Uwano (2012) の解釈を採用し、音調を低い・高いモーラの羅列より「動き」として捉えれば、この問題が消えてしまう。アクセント核が最初の 2 モーラにない場合でも、最初の 2 モーラが同じ高さで発音されるものは全て「非上昇」（○○○△、○○○] △など）として考えられる。しかし、これらの音調を理論的に「非上昇」として分類しても、どのような条件でこのパターンが現れるのかは今まで明らかになっていない。

4.3.2　語頭音調の音声具現

まず、東京方言などで見られる典型的な語頭上昇を示す例文（上昇型）がある。（56）〜（59）はその代表的なものを示す。

(56)　イ [カガオヨ] グ　（烏賊が泳ぐ）

(57)　イ [ト] ガカラ] ム　（糸が絡む）

(58)　サ [クラガサク　（桜が咲く）

(59)　オ [トコガク] ル　（男が来る）

その他には、最初の 2 モーラが同じ高さで発音されるパターン（非上昇型）が見つかった。このような音調は東京方言において見られるが、（60）と（61）のように、特殊モーラを含む重音節から始まる語のみで現れる。

(60)　トウキョウニイク　（東京に行く）

(61)　ロンブンヲカ] ク　（論文を書く）

北海道の内陸・海岸両方言では、重音節から始まる語は例外なく平板で現れる上に、2 つの軽音節から始まる語でもこのようなパターンを見た。（62）と（63）はその代表的な例を示す。この非上昇型は、(平山, 1957) や (国立国語研究所, 1965) が記述した○○○△、●●●▲、●●○△などに対応するものであると考えられる。4.3.4節でこの現象の分布と役割について考察する。

(62)　ヒモガユル] イ　（紐が緩い）

(63)　ケムリガデ] ル　（煙が出る）

4.3.3　アクセント核の音声具現

先行研究で見られたように、アクセント核の弁別的な特徴はピッチの下がり目であるが、必ずしもアクセント核を伴う音調は下降だけであるとは限らない。調査データの一部では、アクセント核を担うモーラの直前に小さなピッチのの上昇が見られる。（64b）と（65b）はこの現象を例証する。

(64)　(a) カガミ] がワレル　（鏡が割れる）
　　(b) カガ [ミ] がワレル　（鏡が割れる）

(65)　(a) ヒガシ] ニムカウ　（東に向かう）
　　(b) ヒガ [シ] ニムカウ　（東に向かう）

（64b）・（65b）のような、アクセント核を担うモーラの直前に上がり目があり、そのモーラが卓立して聞こえることは、単語の 1 モーラ目から 2 モーラ目に上昇がある場合でも見られる。（66）、

（67）の例は ③ の「ムスメ」（娘）と「オトコ」「男」から始まる例を示す。

(66) (a) ム [スメ] ガウマレル （娘が生まれる）

(b) ム [ス [メ] ガウマレル （娘が生まれる）

(67) (a) オ [トコ] ガク] ル （男が来る）

(b) オ [ト [コ] ガク] ル （男が来る）

本研究の調査でも、アクセント核を担うモーラの前に上がり目が現れるかどうかにおいてヴァリエーションが観察されたとしても、アクセント核が上昇のみをもたらし、下降を伴わない用例はなかった。この点について、内陸・海岸諸方言の間に違いはない。つまり、先行研究が指摘しているように、北海道方言は類の統合など、北奥方言の諸方言と共通点が多くても、弘前・青森・雫石方言など、近隣の地域に分布される上がり目（上げ核）の位置で弁別される方言と異なり、下げ核のみを持つ方言であることが確認できた。すなわち、今研究で見つけた下降の前の上昇はあくまでも下降を予想する二次的な特徴であり、音韻論的な役割を果たさない。

4.3.4 語頭の上がり目の分布と役割

以上のように、語の頭部に現れるピッチのパターンに多様性が見られる。語による一貫性はないため、京阪の方言などで見られる「式」(上野, 1989) と異なるが、音調の分布に明らかに傾向が見られる。全体的に見れば、上昇型は主流である。しかし、言語外的な要因による分布を見れば、道南の話者は非上昇型の使用率が比較的高いことが分かる（詳細は、第 6 章を参照されたい)。つまり、非上昇型は地域的な特徴として考えられる。他の地方では、話者の年齢が高いほど非上昇型を使う傾向がある。また、言語的な要因としては、単語が有核か無核であるかは語頭の上がり目の有無と大きくかかわる。（68）と（69）が例証するように、無核語においては、有核語と比べて非上昇型の出現率が遥かに高い。

(68) (a) ハナガタカ] イ （鼻が高い）

(b) ハ [ナ] ガサク （花が咲く）

(69) (a) クルマガハシ] ル （車が走る）

(b) タ [マ] ゴガカエル （卵が買える）

しかしこの傾向が特に強いのは、単語の第一子音は無声阻害音（/h/、/t/、/k/など）、の時である。アクセント型が同じく、分節音だけが異なる（70）の例がこの傾向を示す。

(70) (a) カニガハ] ウ （蟹が這う）

(b) エ [ビガタベラレ] ル（海老が食べられる）

子音が後続する母音の f0 に影響を与えることは広く知られている (Lehiste and Peterson (1961) など)。無声の阻害音は後続母音の f0 を高め，有声の阻害音は後続母音の f0 を低める傾向がある。北海道方言のデータはこの傾向に準ずると考えられる。つまり、無声阻害音が語頭モーラの F0 を高めることによって、1 モーラ目と 2 モーラ目のピッチの差が消えてしまうと思われる。しかし、この特徴の出現率は世代差・地域差が大きいことは、非上昇が単なる分節音による物理的な反応だけで解釈できないことを示唆する。

4.3.5 句について

川上 (1961) などが指摘したように、東京方言では、語頭の上昇が現れるのは単語が文の頭におかれた時に限るものである。例えば、文における位置が異なるだけで、(71a) の「カゼ」は○ [○であるのに対して、(71b) の「カゼ」は○○である。

(71) (a) カ [ゼ （風） （⓪）

(b) コ [ノカゼ （この風）

(72) (a) ヤ [マ （山） （②）

(b) コ [ノヤマ （この山）（上野 1977 から）

ここでは、アクセント核がもたらすピッチの下降と異なり、語頭の上がり目は単語自体の本来の特徴ではなく、より大きいレベルの単位に属するものである。これは「句」と呼び、その頭部に現

れる音調は句音調、あるいは句頭音調である。いくつかの語が連なって句を形成するが、その長さは一定ではい。句の切れ目をどこに入れるかは、話者が伝えたい意味に応じて変える。すなわち、句は語用論的なまとまりごとに付与され、句音調がそのまとまりの境目を表示する役割を持つ。このような、句の音調実現が必ずしもその中に含まれる語（文節）に関与しない方言は「文節非関与」の方言と呼ばれている (Uwano, 1999)。

一方で、岩手県雫石方言など「文節関与」の方言もある。雫石方言は、アクセント核が核を担うモーラを高くする「昇り核」(上野, 1992) の方言であり、ある文節の音調型がその文節が「言い切り」（句末）か「接続」（非句末、つまり後ろに何かを言い続ける）の位置にあるかによって異なる。「接続」では、アクセント核による上昇の後、高いままに続く。しかし、この「高」の延長は、アクセント核を含む文節の末まで続く、分節の境界を越えないのである (上野, 1989, p.192)。要するに、文末の境界は句の音調実現に直接な影響を及ぼす。

上記のように、北海道方言の句の音調実現は、話者が句頭の上昇を使うか否かによる。いつも句頭の上昇を使う話者は、句の音調実現は東京方言と一致し、表4.12の上段で示されている。なお、非上昇型を使う話者との聞き取り調査の結果で、句中での音調の振る舞いも明らかになった。要するに、xa のように、単独で非上昇で発音される語彙は句中でも平板のままである。一方、東京方言と同様に、単独で上昇で発音される語彙の場合は、句中で平板になることが分かる。すなわち、東京方言と同じく、語頭の上昇は語自体の特徴ではなく、その語が属する句の出だしに現れる特徴であると考えられる。以下の例では、<> が句の区切りを表す。

(73) (a) < ハナ > （鼻）⓪

(b) < コノハナ > （この鼻）

(74) (a) < ノ [ミ > （蚤）②

(b) < コノノミ > （この蚤）

最後に、発話の出だしでなくても、新しい句の始まりでは（例えば、発話中のポーズの後）、音調の振る舞いは発話の出だしのときと変わらないようである。

(75) (a) < ハナ > （鼻）⓪

(b) < ソレハ >< ハナダ > （それは鼻だ）

(76) (a) < ハ] シ > （箸）①

(b) < ソレハ >< ハ] シダ > （それは箸だ）

(77) (a) < ノ [ミ > （蚤）②

(b) < ソレハ >< ノ [ミ] ダ > （それは蚤だ）

「コノ」と同様に、「ソレ」は、無核、かつ単語の第一子音は無声阻害音、第二子音が共鳴音を持つ単語であるため、非上昇になりやすいと考えられる。さらに、名詞がフォーカスを担うことにより、先行する句のピッチレンジを狭くする効果もみられている可能性がある（東京方言に関しては、Maekawa (1997) を参照されたい）。

表4.12: 北海道方言における句音調の振る舞い

上昇型のみ使う話者の場合				
	○○	○○が	○○ま] で	この○○
⓪（無声阻害音）	○ [○	○ [○が	○ [○ま] で	こ [の○○
⓪（共鳴音）	○ [○	○ [○が	○ [○ま] で	こ [の○○
①	○] ○	○] ○が	○] ○まで	こ [の○] ○
②	○ [○	○ [○] が	○ [○] まで	こ [の○○

非上昇型のみ使う話者の場合				
	○○	○○が	○○ま] で	この○○
⓪（無声阻害音）	○○	○○が	○○ま] で	この○○
⓪（共鳴音）	○ [○	○ [○が	○ [○ま] で	この○○
①	○] ○	○] ○が	○] ○まで	この○] ○
②	○ [○	○ [○] が	○ [○] まで	この○○]

ここから、どちらの句頭音調を使っても、北海道方言は東京方言、秋田方言、新潟方言など、文節非関与の方言であり、より地理的に近い本州の最北端に分布されている昇り核をもつ、文節関与の方言と異なることが分かる。

4.3.6　北海道方言における句音調の振る舞いの通時的背景

非上昇型の存在とその出現を制御する条件を生み出した通時的な変遷はまだ不明であるが、他の日本の方言では、句音調の在り方が分節音に関わる事例はいくつか見られる。まず、東京方言でも、句頭後の 2 モーラ目が特殊モーラであれば、句頭の上昇が 1 モーラ目（撥音、長母音、母音連続）か 3 モーラ目（促音）に移動することがある。金沢方言はさらに句音調が語音と密着な関係を示す。大まかにいうと、この方言では、句頭語の 2 モーラ目が無声子音＋狭い母音から成る場合は、1 モ

ーラ目から高く発音される（詳細は上野・新田 (1983) を参照されたい）。また、松江方言では、通常は東京方言と同様に、句頭語の 1 モーラ目から 2 モーラ目にかけて上昇する。ただし、句頭語の 2 モーラ目が狭母音を含み、3 モーラ目が広母音を含む場合は、上昇が 2 モーラ目と 3 モーラ目の間に現れる。

上野 (2009) が説明しているように、もともと句頭の上昇がすべて 1 モーラ目にあり、2 モーラ目が「弱」の環境でその古い姿が保たれていると考える理由がいくつかある。つまり、非上昇の句頭の存在自体を通時的に説明することは問題がないと思われる。しかし、これらの方言と異なり、北海道方言では句頭語のアクセント型が句頭の音調を決めるのに一番重要な役割を演じる。

この点で、北海道方言の振る舞いに最も類似する方言は秋田方言である。(森下, 1988) は無核で発音される語類の語*[14]はすべて「低平調」で発音されると述べている。ただし、この特徴は「名」、「飴」、「布」、「岩」、「雪」などの語にも現れ、無声阻害音に始まる語に限定されていない。

もう一つの相違点として、北海道方言は前述の諸方言で見られるような音調がはっきり相補分布を示さず、それぞれの句頭音調の分布に傾向がある程度にとどまることが挙げられる。要するに、金沢方言、東京方言、秋田方言を話していた話者が北海道方言への移住者の中に混ざっていたため、これらの方言が北海道方言の基盤の一部をなすと考えられ、共通している特徴もあるが、直接の前例を指摘することが困難である。この点に関してはさらなる検討の継続が必要である。

4.4 音響的な記述

声の基本周波数（F0）は肺からの気流によって声帯を振動させて生じた音波の周波数である。F0 は Praat(Boersma and Weenink, 2007) を用いて測定した。

4.4.1 単語の音声表示

本節では、それぞれ句頭で上昇のみを使う話者 2 名（ck25f, ya61f）、及び非上昇型も示す話者 2 名（sa59m, ob63f）のアクセントの音声表示を音響学的な分析によって解明し、比較する。調査語彙は、1 モーラから 3 モーラまでの単語を用いた。＊がついた語彙は話者によって異なるアクセント

*[14] 1 モーラ語の I 類は、2 モーラ語の I ・ II 類。詳しく 5 章を参照されたい。

型で発音されていた。声帯を緊張・弛緩させることによって声帯の振動数波数を変えることができ

表4.13: 音響分析の調査語彙

	1 モーラ語	2 モーラ語	3 モーラ語
⓪（無声阻害音）	蚊・戸	紐・蟹・鼻	車・煙・子供
⓪（共鳴音）		海老・烏賊・牛	小豆・兎・鼠
①	木・酢	馬・山・耳	鮑＊・涙＊
②		絹・海・蛇	たまご・あわび＊・涙＊
③			頭・鏡・娘

るが、平均的な F0 は声帯の大きさなどの生理的な要因によって決まる。例えば、男性、女性、幼児の順で声帯が小さくなり、F0 が大きくなる（声が高く聞こえる）。また、声帯の大きさは個人でも異なっているため個人差が出る。そのため、複数の話者の F0 パターンを比べるために、このような個人差を解消する必要がある。本研究では、キャンベル (1997) に従い、Z スコアによる正規化を用いる*15。ある地点のＺスコアは、その地点の F0 の常用対数から話者の F0 平均値の常用対数を引き、それを話者の F0 の標準偏差の常用対数で割ることで、話者に依存しない F0 を取り出すことができる。話者の平均 F0 値より標準偏差分だけ高い F0 は 1 に、反対に標準偏差分だけ低い F0 は-1 として表している。

Praat で対象の語彙と後続する助詞を、有声が始まるところから、読み上げた文章から切り取った。ピッチ認識のエラーを手動で直し、ピッチ測定を行った。測定方法として、(Hirst, 2005) のスクリプトを一部変更したスクリプトを用いて、語彙＋助詞の 0%, 10%, 20%, 30%…の部分から F0 の値を抽出した。これにより、若干長さの異なる用例をお互いに比べることができる。対象語彙として語中に無声分節音がないものを選ぶことにしようとしたにも関わらず、語中に無声期間が生じる用例もある。無声期間のピッチの値は、両側の有声部分のピッチの値から補間した推定値を挿入した。つづいて、同じアクセント型の用例の F0 値を平均化した。平均化した数値は以下の図で示

*15 （実施例は松浦 (2008) を参照されたい）

されている。

1 モーラ語

図4.1: ck25f の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

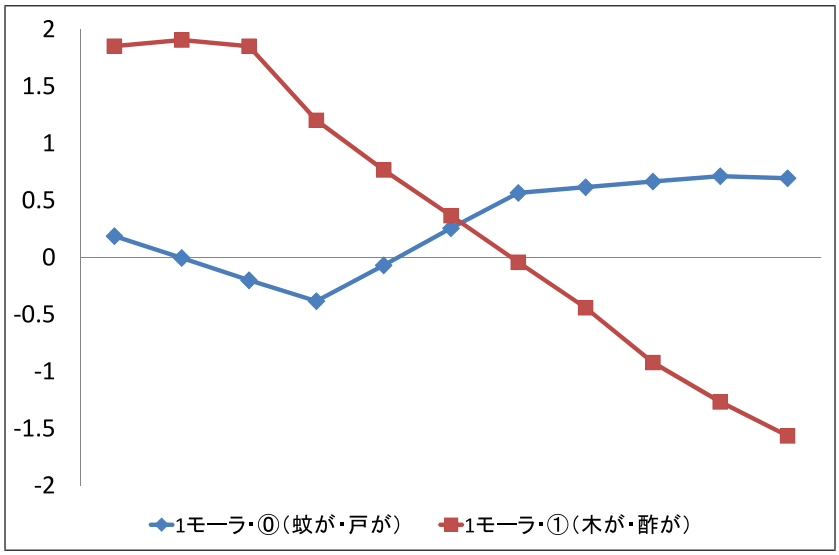


図4.2: ya61f の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

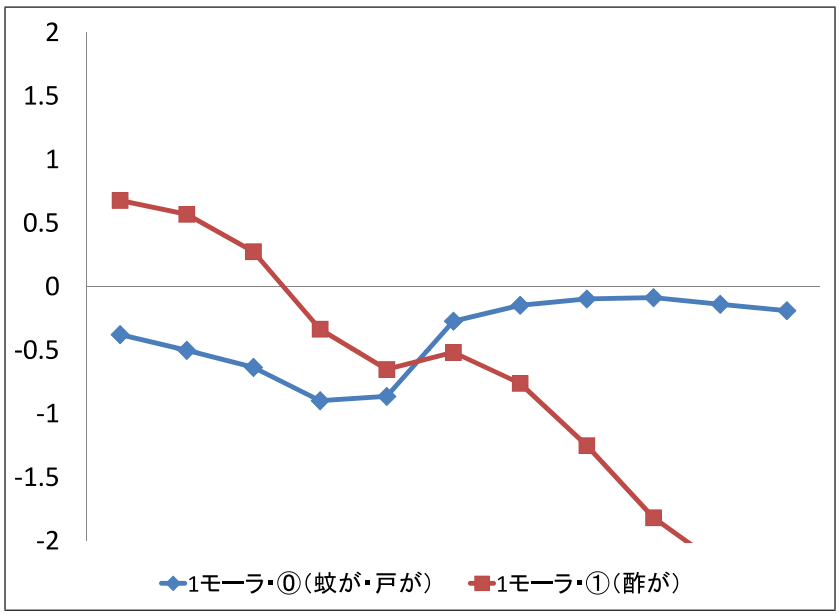


図4.3: sa59m の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

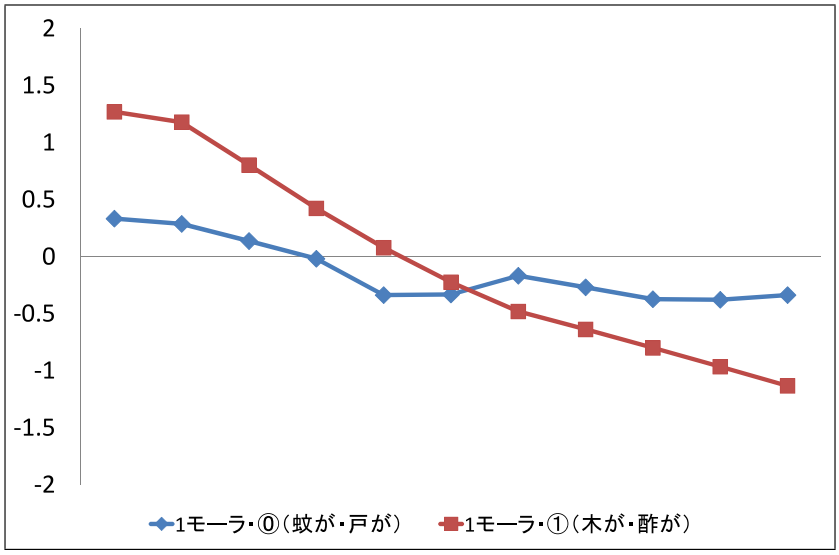
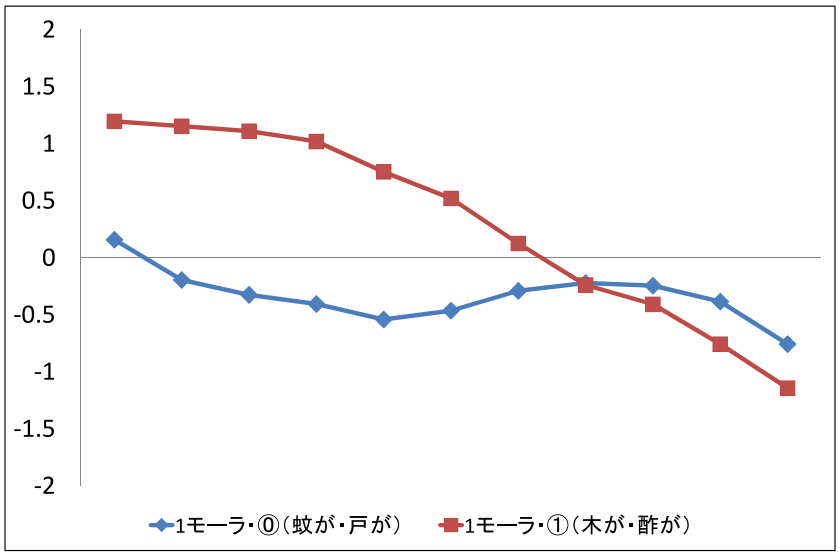


図4.4: ob63f の 1 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）



図から見れるように、句頭に上昇を使う ck25f と ya61f が発音した無核 1 モーラ語（蚊、戸）において、文節の前半（名詞に対応する部分）から後半（付属助詞に対応する部分）にかけて明らかな上昇がある。① の語において 1 モーラ目から 2 モーラ目にかけて F0 の下降が見られる。これはアクセント核によるものであると思われる。句頭に非上昇を使う話者は、ck25f と ya61f と同じく、① の語において 1 モーラ目から 2 モーラ目にかけてアクセント核がもたらす F0 の下降が見られる。

しかし、無核語は句音調による F0 の上昇を示さない（sa59m）、またはごく小さなもの（ob63f）を示す。

2 モーラ語

図4.5: ck25f の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

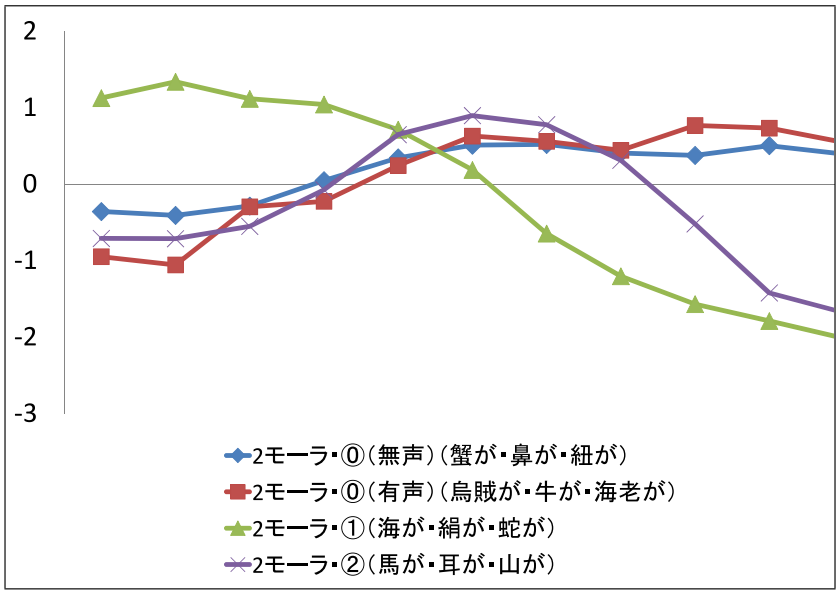


図4.6: ya61f の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

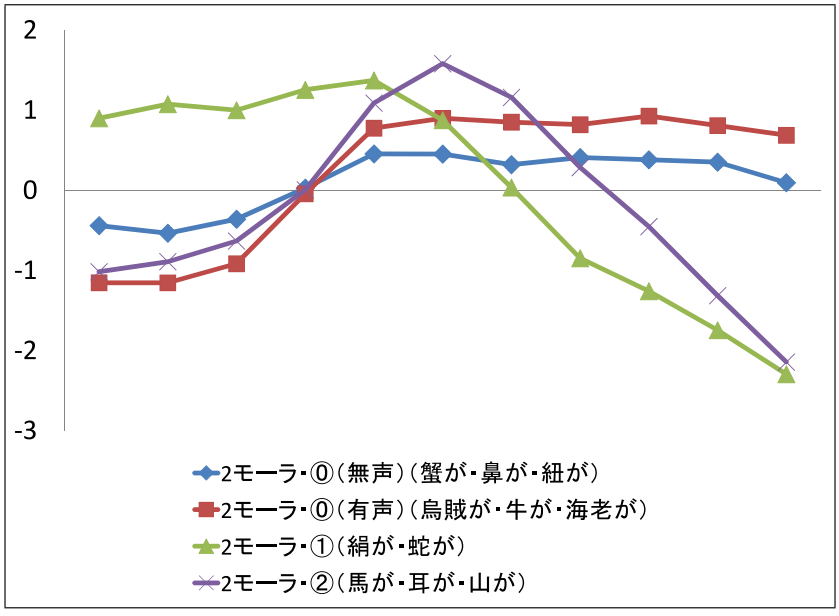


図4.7: sa59m の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

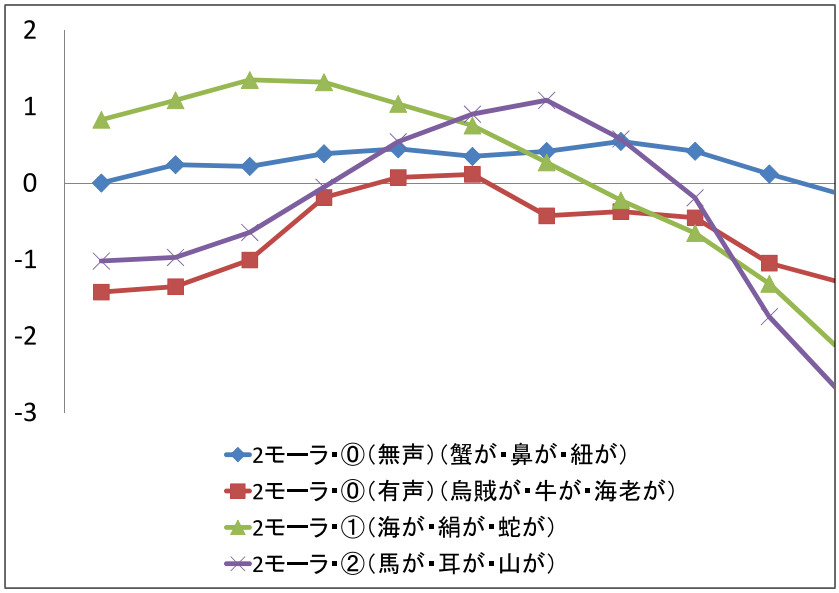
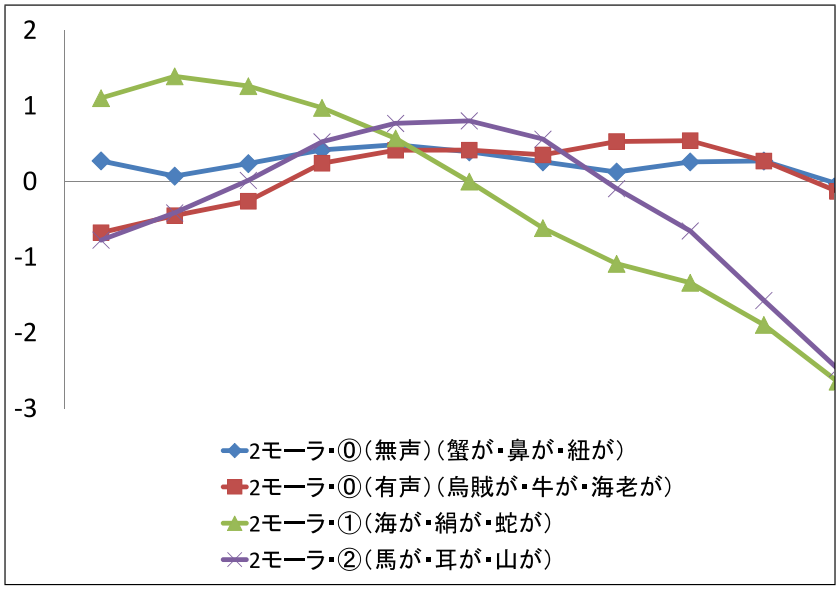


図4.8: ob63f の 2 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）



いずれの話者も ① 型と ② 型の語の曲線にそれぞれ 1 モーラ目と 2 モーラ目に位置するアクセント核に対応する F0 のピークを示す。ただし、⓪ 型の語において、F0 曲線の様子は話者と語彙の分節的特徴によって異なる。ck25f と ya61f は、無核の語が有声音か無声音から始まるのに関係なく、低く始まり、上昇する。それにたいして、sa59m と ob63f は、有声音から始まる語は出だしから上

昇するが、無声音から始まる語は明らかに平たい曲線を示す。これは、上記で記述した上昇・非上昇の区別を証明すると思われる。

3 モーラ語

図4.9: ck25f の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

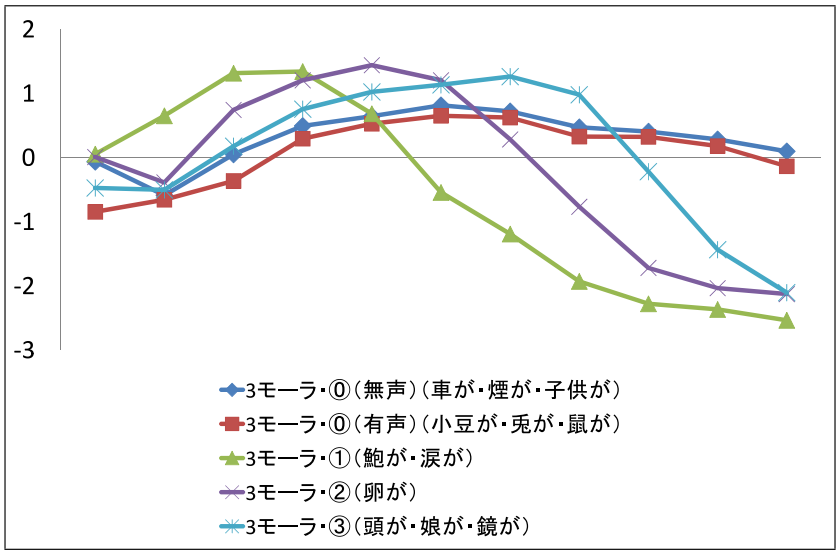


図4.10: ya61f の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

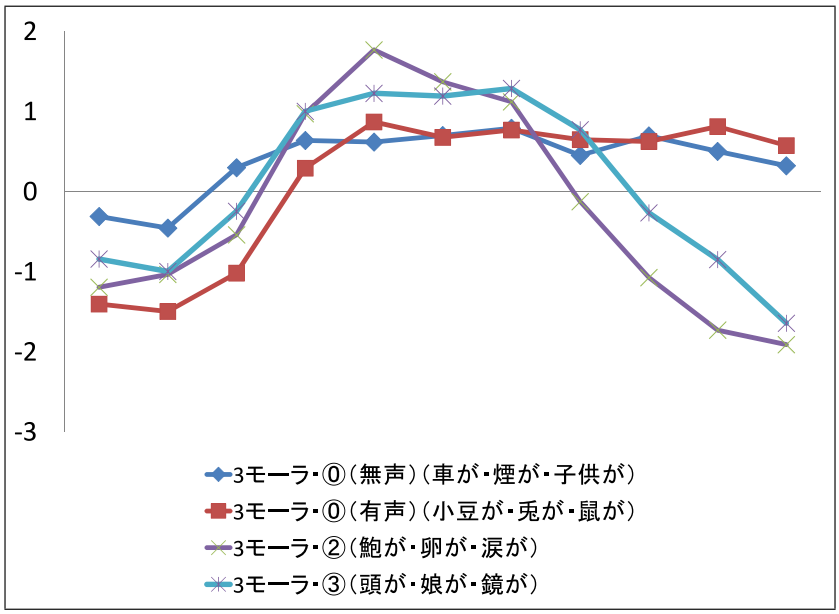


図4.11: sa59m の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）

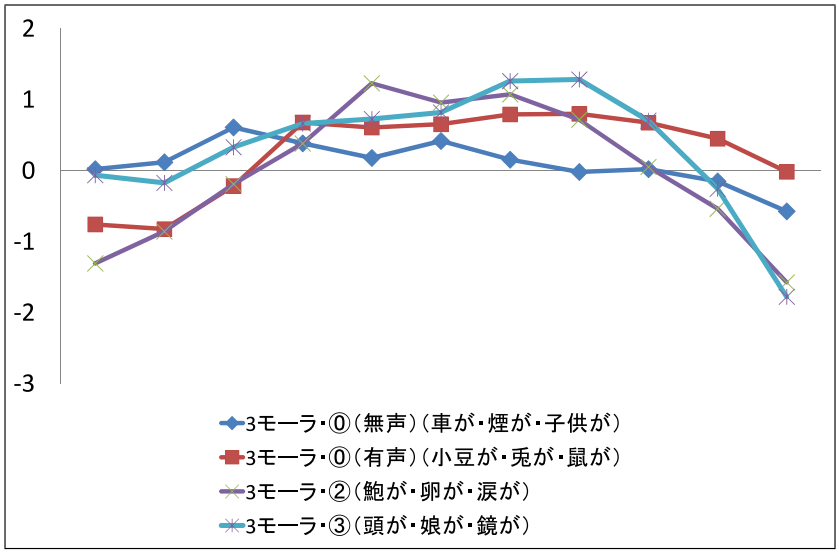
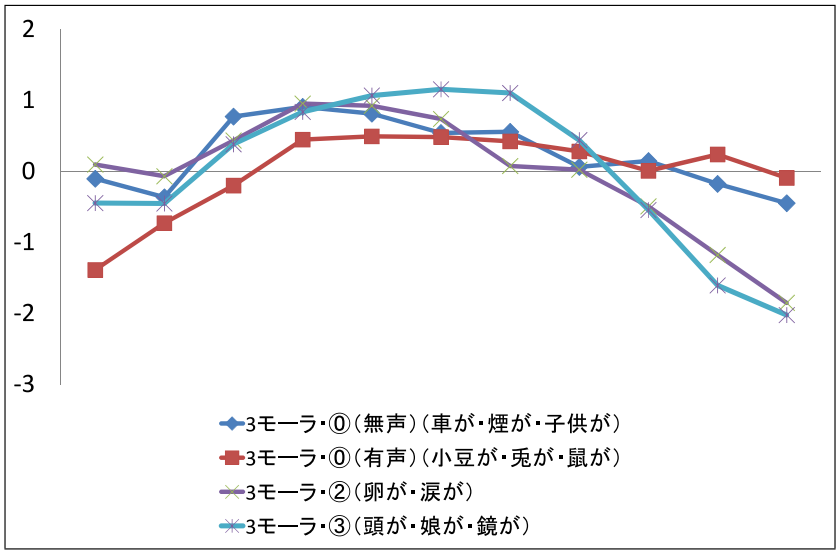


図4.12: ob63f の 3 モーラ語のピッチ曲線（正規化した）



2 モーラ語と同様に、① と ② の曲線にそれぞれ 1 モーラ目と 2 モーラ目に位置するアクセント核に対応する F0 のピークを示す*[16]。また ③ の語に関して、アクセント核が 3 モーラ目に位置するにもかかわらず、句音調による上昇がある。

⓪ の用例において、概ね 2 モーラ語に観察されたパターンが再び現れる。ck25f と ya61f は、無

*[16] sa59m と ob63f は ① で発音された 3 モーラ語の用例はなかった

核の語が有声音か無声音から始まるのに関係なく、低く始まり、上昇する。興味深いこととして、1・2 モーラ語に非上昇を示した ob63f もこのパターンを示した。これは、音調の分布ははっきり相補分布ではなく、使用率における傾向である点を裏付けると考えられる。ただし、sa59m は、有声音から始まる語と無声音から始まる語の間に明らかな差を示し、前者は上昇があり、後者は平たいのである。

4.4.2　アクセント句

最後に、語彙をそれぞれ句頭と句中の位置に発音された用例の F0 曲線を取ることにより、以上に記述した句音調の振る舞いを確認することができる。常に句頭の上昇を示す ck25f は、「蟹にが這う」の「蟹」を 1 モーラ目から 2 モーラ目にかけて上昇するように発音するが、「赤い蟹」のように、「蟹」が句頭以外の位置に現れたら、両モーラが同じ高さで発音される。一方、よく句頭を非上昇で生産する ob63f は、句頭でも句中でも、上昇がないことが確認できる。

図4.13: ck25f:「蟹が這う」のピッチ曲線

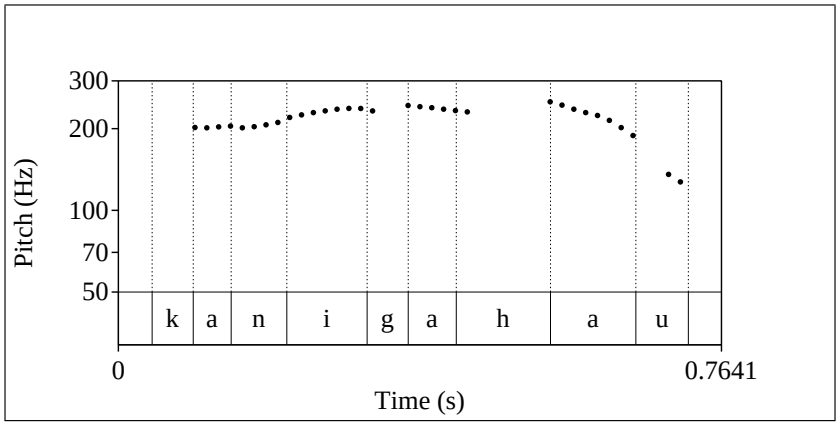


図4.14: ck25f:「赤い蟹」のピッチ曲線

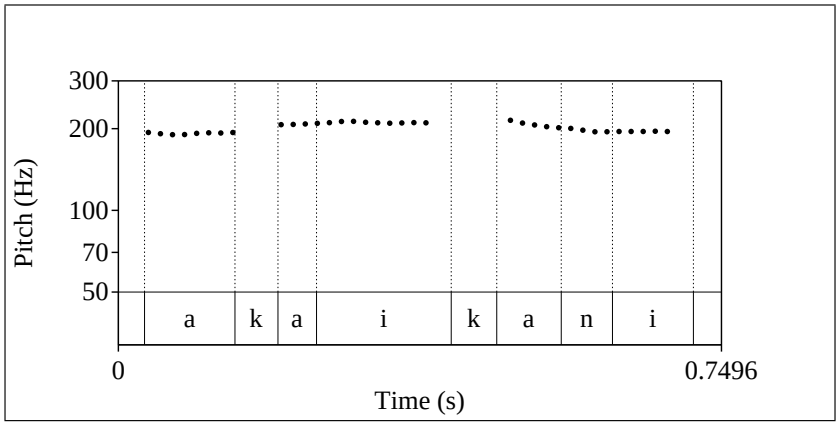


図4.15: ob63f:「蟹が這う」のピッチ曲線

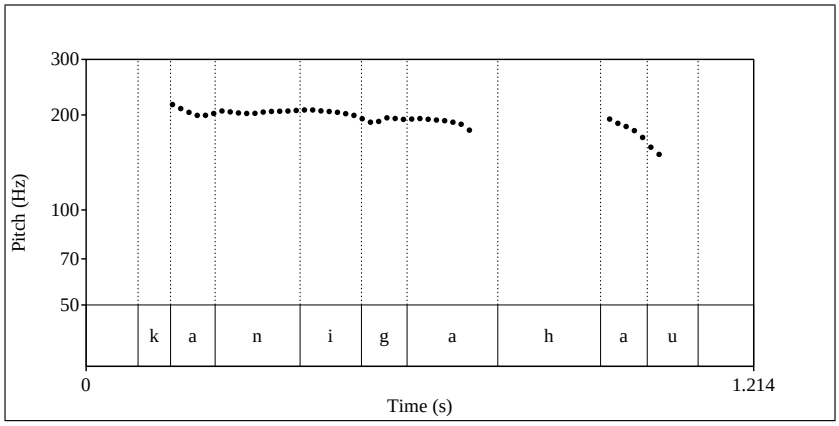
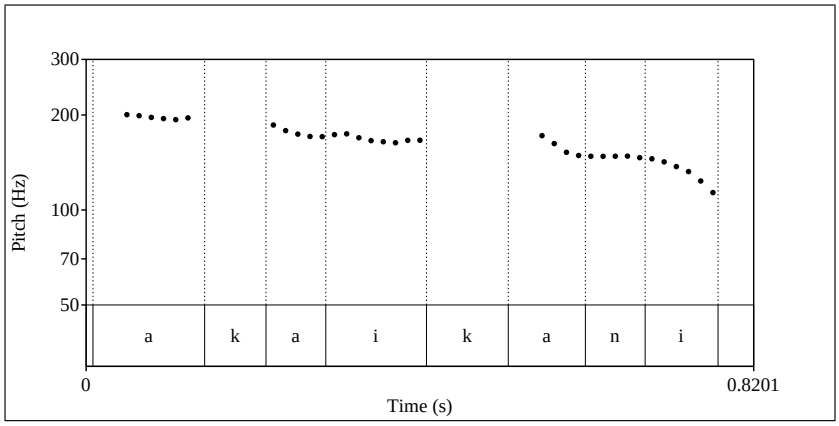


図4.16: ob63f:「赤い蟹」のピッチ曲線



第 5 章

アクセント変化の記述と考察

本章では、北海道の 4 つの地方（道央・道東・道北・道南）での現地調査から得たアクセントデータに基づいて、北海道方言における地方間・話者間のヴァリエーションを検討し、それぞれの品詞（和語名詞・動詞・形容詞）のアクセントにおいて観察される傾向を説明する。

5.1　語類について

和語名詞の分析は、金田一 (1973) が提案した語類に基づいて行う。語類とは、平安時代後期の京都方言のアクセントにより、1 モーラ～ 3 モーラの和語を分類したものである。1 モーラ名詞には 3 つの類があり、2 モーラ名詞は 5 類があり、3 モーラ名詞には 7 類ある。同じ類に属している語は同じアクセント型に発音される。例えば、東京方言（共通語）では、2 モーラ名詞 I 類の「紐」「星」「道」などは全て ⓪ 型で発音される。

ある語においてアクセント型の変化が起きたときには、同じ類に属する語彙も同じ方向に変化するとされている。そのため、語源において全然関係のない語の群が、一類をなして、A 方言ではそろって A 型に属しており、B 方言ではそろって B の型に属しているという事実がある (金田一, 1975, p.57)。つまり、多くの方言の間に、各語類ごとに規則的な対応関係がある。

5.2　1 モーラ名詞

5.2.1　先行研究

1 モーラ名詞に関しては、平山 (1957) は釧路、網走を含めた道北の方言と帯広、札幌を含めた道南の方言の間に区別をつける。前者は、Ⅰ・Ⅱ類が ⓪ 型、Ⅲ類が ① 型であり、東京方言と一致している。同じ地方の根室方言もこの傾向に準ずる (小野, 1992)。後者は、Ⅱ類が ① 型になり、Ⅲ類と統合している。尾崎 (1984) も札幌の高齢層の話者においてこの傾向を指摘した。しかし、同書によると、青年層において ① 型への一型化の傾向は阻止されている。それに伴い、最近の研究においてこのような傾向が見られない。例えば、帯広について、竹本 (2010) は「平山 (1957) で示された伝統的な体系は姿を消し、Ⅱ類が ① 型ではなく、⓪ 型となる」と述べている。

表5.1: 先行研究による語類とアクセント型の対応関係（1 モーラ名詞）

地域	アクセント型			
	⓪ 型		① 型	
東京*[1]	Ⅰ	Ⅱ		Ⅲ
帯広、札幌、函館 (平山, 1957)	Ⅰ		Ⅱ	Ⅲ
釧路、網走、北見など (平山, 1957)	Ⅰ	Ⅱ		Ⅲ
札幌（老年層）(尾崎, 1984)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰの一部 Ⅱの一部	Ⅲ
札幌（青年層）(尾崎, 1984)	Ⅰ	Ⅱ		Ⅲ
根室 (小野, 1992)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
古平 (小野, 1993)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
帯広 竹本 (2010)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	

5.2.2 調査結果（道央）

表5.2は道央（札幌）の調査結果を示す。表の数値は一人の話者が一つの調査項目を発音したアクセント型を表す。東京方言（共通語）でのアクセント型と異なる用例は、グレイでハイライトされている。表を見ると、多くのインフォーマントはⅠ類とⅡ類が⓪型であり、Ⅲ類が 1 であったことが分かる。cd62f と ch62f はⅡ類の「葉」が①型となった。これは (尾崎, 1984) に指摘された傾向と一致しているが、同じ年齢層のインフォーマント（ce66f、ch62f、ci59m）においてこの傾向は見られなかった。

表5.2: 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道央地方）

		札幌							
		ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
	戸	0	0	0	0	0	0	0	0
I 類	蚊	0	0	0	0	0	0	0	0
	血	0	0	0	0	0	0	0	0
	日	0	0	0	0	0	0	0	0
II 類	矢	1	1	1	1	1	1	1	1
	葉	0	0	1	0	1	0	0	0
	木	1	1	1	1	1	1	1	1
III 類	目	1	1	1	1	1	1	1	1
	酢	1	1	1	1	1	1	1	1

5.2.3 調査結果（道東）

道東（網走）の調査では、インフォーマントの多くは共通語や道東方言の先行研究 (平山, 1957),(小野, 1992) と一致した結果を示した。つまり、I 類と II 類が 0 であり、III 類が 1 であった。ただし、一部のインフォーマントは（eb15m、ec50f、ed69f, ej61m）は「葉」や「日」を ① 型で発音したことにより、II 類が主に ① 型となり、III 類と統合される。主にこの傾向は 50 代以上の話者で見られたが、eb15m も同じパターンであり、母親である ec50f から受け継いだ特徴である可能性があると考えられる。

表5.3: 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道東地方）

		網走										
		ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
	戸	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
Ⅰ類	蚊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
Ⅱ類	矢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	葉	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	木	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1
Ⅲ類	目	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1
	酢	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

5.2.4 調査結果（道北）

小平町の調査においては、共通語と異なる用例はなく、語類とアクセント型の対応関係も一致している。つまり、Ⅰ・Ⅱ類が 0、Ⅲ類が 1 である。名寄のインフォーマントは二人とも「木」を ⓪ 型で発音したが、基本的に語類とアクセント型の対応関係に変わりがないと思われる。

表5.4: 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道北地方）

		小平			名寄	
		na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
	戸	0	0	0	0	1
I 類	蚊	0	0	0	0	0
	血	0	0	0	0	0
	日	0	0	0	0	0
II 類	矢	1	1	1	1	1
	葉	0	0	0	0	0
	木	1	1	1	0	0
III 類	目	1	1	1	1	1
	酢	1	1	1	1	1

5.2.5 調査結果（道南）

道南地方の調査では、多少の例外が見られるものの、3 つの調査地でも語類とアクセント型の対応関係が安定していることが分かる。I・II 類は ⓪ 型で、III 類は ① 型である。すなわち、網走調査や道南方言に関する先行研究で観察された ① 型で発音する傾向はなった。興味深いことに、古平調査の fb80f と fc80f は II 類においてほかの話者と異なるパターンを示し、「日」が ① 型で、「矢」が ⓪ 型である。ただし、II 類の全体は ⓪ 型であり、他の話者と一致する。この話者は調査の最も年長のインフォーマントの二人であり、このパターンは古い使い方を反映している可能性がある。

表5.5: 1 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道南地方）

		古平			小樽		七飯					
		fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
	戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅰ類	蚊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ類	矢	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0
	葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	木	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Ⅲ類	目	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0
	酢	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1

5.2.6　例外的語彙

上記の調査結果を見ると、語類という概念は問題なく北海道方言に適用できることが分かる。すなわち、一人一人の話者につき、同じ類に属している語は同じアクセント型に発音される傾向は明らかである。しかし、個人に特有な発音やゆれ以外にも、平安時代後期の京都方言のアクセントに基づいてある語類にまとめられた語彙が、通時的な理由により、類の他の語彙と一貫して異なる振る舞いを示すようになったものがある。

1 モーラ名詞において、そのような語彙の一例としてⅡ類の「矢」が挙げられる。ただし、この例外は東京方言などでも見られるため、北海道方言特有の特徴ではないと思われる。それ以外は、「葉」と「日」も ① 型になりがちであったが、⓪ 型の用例は多数であった。

5.2.7　考察

1 モーラ名詞においては、インフォーマントの大部分は共通語と一致している対応関係を示したが、Ⅱ類が ① 型となり、Ⅲ類と統合されるインフォーマントは数人いた。この傾向は平山 (1957) や尾崎 (1984) によって指摘されたが、最近の調査でみられない。また、平山氏の結果に返して、Ⅱ・Ⅲのパターンは主に道東の網走に観察された。Ⅰ・Ⅱの統合は幅広い年齢層の話者において見られるのに対して、Ⅱ・Ⅲの統合を示したのは主に 60 代の話者であった。要するに、尾崎 (1984) が指摘したように、この特徴は衰退しつつあると考えられる。

5.3　2 モーラ名詞

5.3.1　先行研究

先行研究を参考にすると、内陸・海岸とも、語類とアクセント型の本来の対応関係は次のようであることが分かる。Ⅰ類・Ⅱ類が ⓪ 型、Ⅲ類が ② 型である。Ⅳ・Ⅴ類が 2 モーラ目の母音の性質によって分かれており、広いもの（/a/、/e/、/o/）は ② 型であり、狭いもの（/i/、/u/）は ① 型である。しかし、竹本 (2010) などの最近の調査は、東京方言と一致した結果を示す。小野 (1993) の均一化調査は、この変遷の進み具合において地域差があると述べている。

表5.6で見られるように、同じ時期に調査された函館・小平・札幌は異なる対応関係を示す。函館では、伝統的なパターンが保もたれており、変りがない。留萌管内にある小平町では、Ⅱ類の 2 モーラ目の母音の広い語が ② 型となり、東京方言と一致するようになった。また、札幌・旭川・帯広などの内陸の都市では、Ⅱ類が ② 型に安定している。当時は、Ⅳ・Ⅴ類が 2 モーラ目の母音の性質によって分かれる特徴が札幌などの内陸都市でも保たれていたが、竹本 (2010) の帯広調査によると、現在は東京方言と一致するパターンが優勢である。

表5.6: 先行研究による語類とアクセント型の対応関係（2 モーラ名詞）

地域	アクセント型							
	⓪ 型		① 型		② 型			
東京	I		Ⅳ	Ⅴ	Ⅱ	Ⅲ		
内陸・海岸 (平山, 1957)	I	Ⅱ	Ⅳ 狭	Ⅴ 狭		Ⅲ	Ⅳ 広	Ⅴ 広
内陸・海岸 (芳賀, 1961)	I	Ⅱ	Ⅳ 狭	Ⅴ 狭		Ⅲ	Ⅳ 広	Ⅴ 広
函館 (小野, 1993)	I	Ⅱ	Ⅳ 狭	Ⅴ 狭		Ⅲ	Ⅳ 広	Ⅴ 広
小平 (小野, 1993)	I	Ⅱ 狭	Ⅳ 狭	Ⅴ 狭	Ⅱ 広	Ⅲ	Ⅳ 広	Ⅴ 広
札幌・旭川・帯広 (小野, 1993)	I		Ⅳ 狭	Ⅴ 狭	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ 広	Ⅴ 広
帯広 (竹本, 2010)	I		Ⅳ	Ⅴ	Ⅱ	Ⅲ		

5.3.2 調査結果（道央）

以下の 5 つの表は道央（札幌）調査結果を類別で示す。表の数値は一人の話者が一つの調査項目を発音したアクセント型を表す。東京方言（共通語）でのアクセント型と異なる用例は、グレイでハイライトされている。まず、表5.7は第 I 類は全て ⓪ 型であり、例外はなかったことを示す。

Ⅱ 類において ci59m、cd62f と ce66f は ⓪ 型の用例が過半数であり、ch62f の用例は ⓪ 型と ② 型に均等に分かれていた。他のインフォーマントの用例はほとんど ② 型であったが、30 代の ca30f、cb33f、cj36f の「紙」、「橋」、「梨」において ⓪ 型の用例もいくつか見られた。Ⅱ 類を全体的に見れば、2 モーラ目の母音がアクセント型の選択に影響を及ぼす可能性があることが分かる。⓪ 型が最も使われる語彙は「紙」、「橋」、「梨」、「冬」、「石」など、狭母音で終わるものである。一方、「川」、「胸」、「旗」は ② 型が多い。ただし。「町」、「肘」はこの傾向の例外であり、殆ど ② 型で生産された。

Ⅲ 類の用例はほぼすべて ② 型であり、共通語と一貫している。例外は少ないが、「熊」と「栗」は明らかに他の項目と異なった振る舞いを示す。これはまた5.3.6節で取り上げる

表5.7: 2 モーラ和語名詞（① 型類）の調査項目のアクセント（道央地方）

	札幌							
	ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
海老	0	0	0	0	0	0	0	0
滝	0	0	0	0	0	0	0	0
烏賊	0	0	0	0	0	0	0	0
牛	0	0	0	0	0	0	0	0
皿	0	0	0	0	0	0	0	0
紐	0	0	0	0	0	0	0	0
蜂	0	0	0	0	0	0	0	0
蟹	0	0	0	0	0	0	0	0
酒	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻	0	0	0	0	0	0	0	0

表5.8: 2 モーラ和語名詞（Ⅱ 類）の調査項目のアクセント（道央地方）

	札幌							
	ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
冬	2	2	0	0	0	0	2	2
川	2	2	0	2	2	0	2	2
旗	2	2	2	0	2	0	2	2
梨	2	0	0	0	0	0	0	2
橋	0	0	0	0	0	0	2	2
町	2	2	2	2	2	0	2	2
石	2	2	0	0	0	0	2	2
紙	0	0	2	0	0	0	2	2
肘	2	2	2	2	2	2	2	2
胸	2	2	0	2	2	0	2	2

表5.9: 2 モーラ和語名詞（Ⅲ 類）の調査項目のアクセント（道央地方）

	札幌							
	ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
山	2	2	2	2	2	2	2	2
栗	0	0	0	0	0	0	0	0
熊	1	2	2	1	2	2	1	1
犬	2	2	2	2	2	2	2	2
米	2	2	2	2	2	2	2	2
耳	2	2	2	2	2	2	2	2
舌	2	2	2	2	2	2	2	2
花	2	2	2	2	2	2	2	2
靴	2	0	2	2	2	2	2	2
馬	2	2	2	2	2	2	2	2

Ⅳ ・ Ⅴ 類においては、ca30f、cb33f、cj36f、ck26f の用例はほぼすべて ① 型であったが、ci59m、ch62f、cd62f、ce66f は 2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まる傾向を保っていた。ただし、ch62f と ce66f はこの傾向が Ⅳ 類のみで窺われ、Ⅴ 類はほとんど ① 型で発音した。これは他の北海道諸方言でも見られる現象であるという。例えば、名寄方言に関して、小野 (1993, p.244) は「Ⅳ 類よりも Ⅴ 類の方が早く ① 型への統合傾向を見せている」と述べている。2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まるインフォーマントにおいても例外的な発音がある。例えば、「舟」、「鮭」の 2 モーラ目が広母音を含むのに、用例の大部分は ① 型であった。一方、狭母音で終わる「眉」は ② 型が多かった。

表5.10: 2 モーラ和語名詞（Ⅳ 類）の調査項目のアクセント（道央地方）

	札幌							
	ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
味噌	1	1	2	2	2	2	1	1
海	1	1	1	1	1	1	1	1
空	1	1	2	1	2	2	1	1
箸	1	1	1	1	1	1	1	1
糸	1	1	2	2	2	2	1	1
絹	1	1	1	1	1	1	1	1
肩	1	2	2	2	1	2	1	1
舟	1	1	1	1	1	2	1	1
針	1	1	1	1	1	1	1	1
鎌	1	2	2	1	0	2	1	1

表5.11: 2 モーラ和語名詞（Ⅴ 類）の調査項目のアクセント（道央地方）

	札幌							
	ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
牡蠣	1	1	1	1	1	1	0	1
猿	1	1	1	1	1	1	1	1
眉	1	1	2	2	2	2	1	0
秋	1	1	1	1	1	1	1	1
窓	1	1	2	1	1	2	1	1
蛇	1	1	1	1	1	1	1	1
蜘蛛	1	1	2	1	1	2	1	1
足袋	1	1	1	1	2	1	1	1
雨	1	1	2	1	1	2	1	1
鮭	1	1	2	1	1	1	1	1

5.3.3　調査結果（道東）

I 類は ① 型で、「紐」「滝」「蜂」を ② 型に発音したインフォーマントはいたが、類を全体的に見れば例外的な用例は非常に少ない。

II 類は、ed69f, eh69m, ej61m の用例は大部分が ⓪ 型で、他の話者は主に ② 型であった。しかし、主に ② 型を使う話者の回答においても ⓪ 型が残存している用例も多数あった。道央の話者と同様に、⓪ 型の用例は主に狭母音で終わる項目において多く見られ、「梨」と「紙」は特に顕著である。

III 類の語彙はほぼ全員が ② 型に発音し、ej61m のみが「犬」、「米」、「花」を ⓪ 型に発音した。ただし、道央の話者と同じく、「栗」は全員が ⓪ 型で発音したので、これは北海道方言全般の特徴的である可能性がある。また、アクセント型のヴァリエーションが多く見られる「熊」については、0、1、② 型の用例もあった。

IV 類は ea34f、eb15m、ec50f、ef58f、ek59f の用例は殆ど ① 型であり、共通語と一致しているパ

表5.12: 2 モーラ和語名詞（I 類）の調査項目のアクセント（道東地方）

	網走										
	ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
海老	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滝	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
烏賊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
牛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紐	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
蜂	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
蟹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
酒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表5.13: 2 モーラ和語名詞（Ⅱ類）の調査項目のアクセント（道東地方）

	網走										
	ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
冬	2	2	2	0	2	2	0	0	0	2	2
川	2	2	2	0	2	2	2	0	0	2	2
旗	2	2	2	2	0	2	2	0	0	2	2
梨	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
橋	2	1	2	0	2	2	2	2	2	2	2
町	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
石	2	2	2	0	0	2	0	0	2	2	0
紙	0	2	2	0	2	2	0	0	0	2	0
肘	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
胸	2	2	2	2	2	2	2	0	0	2	2

表5.14: 2 モーラ和語名詞（Ⅲ類）の調査項目のアクセント（道東地方）

	網走										
	ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
山	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
栗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熊	1	1	1	2	2	0	2	1	1	0	2
犬	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
米	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
耳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
舌	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
花	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2
靴	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
馬	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

表5.15: 2 モーラ和語名詞（Ⅳ 類）の調査項目のアクセント（道東地方）

	網走										
	ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
味噌	2	0	2	2	2	0	2	2	2	2	2
海	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
空	2	1	1	2	2	1	2	1	2	1	1
箸	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
糸	1	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2
絹	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
肩	1	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2
舟	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	2
針	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1
鎌	2	1	0	0	0	0	2	0	0	2	2

表5.16: 2 モーラ和語名詞（Ⅴ 類）の調査項目のアクセント（道東地方）

	網走										
	ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
牡蠣	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0
猿	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
眉	2	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2
秋	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1
窓	0	1	1	0	2	1	2	2	2	2	2
蛇	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1
蜘蛛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
足袋	1	2	1	1	1	1	1	1	0	1	1
雨	2	1	1	2	2	1	2	2	2	1	0
鮭	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

ターンである。他のインフォーマントは、道央の調査及び先行研究で指摘された語彙の 2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まる傾向が窺われた。さらに、ea34f など、主に ① 型を使用するインフォーマントも、特定の語彙において方言の特徴的な発音が保たれている。例えば、「味噌」は 9 人、「糸」は 8 人が ② 型で発音した。一方、2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まるインフォーマントにおいても例外がある。例えば、「舟」の 2 モーラ目が広母音を含むのに、① 型の発音が普通であった。最後に、「鎌」の用例は ⓪ 型が多かった。「鎌」の場合は「同音異アクセント語」による干渉がある可能性がある。単独で「鎌」を ② 型に発音したら、Ⅲ 類の「釜」と完全に同じ発音になる。混同を避けるため、「鎌」を ⓪ 型に発音することが好ましいかと思われる。

V 類は Ⅳ 類と似たパターンを示す。ea34f、eb15m、ec50f、ef58f、ek59f の用例はほぼ ① 型のみを使うのに対して、他のインフォーマントは類が 2 モーラ目の母音によって分かれている。しかし、V 類は Ⅳ 類よりゆれが多いと考えられる。例えば、広母音で終わる「蜘蛛」、「鮭」は殆ど ① 型であるが、狭母音で終わる「眉」は ② 型が多かった。

5.3.4　調査結果（道北）

第 I 類は例外なく ⓪ 型である。Ⅱ 類は、nb63m と na52f において主に ⓪ 型であり、I 類と統合している。一方、nc47f と ya61f は主に ② 型を使い、Ⅲ 類と統合される東京方言パターンである。yb63m は ⓪ 型と ② 型を併用しているが、他の調査で観察された、2 モーラ目の母音が広い語彙を中心に ⓪ 型が ② 型に変化する傾向はなかった。 Ⅲ 類の用例は殆ど ② 型であり、主な例外は「栗」のみである。これは他の調査と一致しているが、小平のインフォーマントの 2 人は ② 型であった。また、東京方言では ① 型と ② 型が認められる「熊」に関して、全員が ② 型に発音した。

Ⅳ 類は、インフォーマントの大部分は 2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まる傾向を示した。この傾向は明確であり、道東調査において例外となった「舟」も完全に ② 型であった。例外は「鎌」のみであり、アクセント型は共通語の ① 型ではなく、⓪ 型と ② 型に分かれていた。「鮭」の場合は「同音異アクセント語」による干渉が生じた可能性がある。助詞をつけず「鮭」を ② 型で発音したら、⓪ 型の「酒」と同じ音調型になるため、① 型が好ましいかと思われる。

V 類も、母音によってアクセント型が決まるパターンを示すが、Ⅳ 類よりヴァリエーションが多

表5.17: 2 モーラ和語名詞（I 類）の調査項目のアクセント（道北地方）

	小平			名寄	
	na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
海老	0	0	0	0	0
滝	0	0	0	0	0
烏賊	0	0	0	0	0
牛	0	0	0	0	0
皿	0	0	0	0	0
紐	0	0	0	0	0
蜂	0	0	0	0	0
蟹	0	0	0	0	0
酒	0	0	0	0	0
鼻	0	0	0	0	0

表5.18: 2 モーラ和語名詞（II 類）の調査項目のアクセント（道北地方）

	小平			名寄	
	na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
冬	2	2	0	2	2
川	0	0	2	2	2
旗	0	0	2	2	0
梨	0	0	0	2	0
橋	0	0	2	1	2
町	0	0	2	2	2
石	0	0	2	2	0
紙	0	0	2	0	2
肘	2	2	2	2	0
胸	2	0	2	2	2

表5.19: 2 モーラ和語名詞（Ⅲ 類）の調査項目のアクセント（道北地方）

	小平			名寄	
0	na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
山	2	2	2	2	2
栗	0	2	2	0	0
熊	2	2	2	2	2
犬	2	2	2	2	2
米	2	2	2	2	2
耳	2	2	2	2	2
舌	2	2	2	2	2
花	2	2	2	0	2
靴	2	2	2	2	2
馬	2	2	2	2	2

表5.20: 2 モーラ和語名詞（Ⅳ 類）の調査項目のアクセント（道北地方）

	小平			名寄	
	na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
味噌	2	2	2	2	1
海	1	1	2	2	1
空	2	2	2	2	2
箸	1	1	1	2	1
糸	2	2	2	1	1
絹	1	1	1	1	1
肩	2	2	2	2	1
舟	2	2	2	2	1
針	1	1	1	2	1
鎌	2	0	0	2	2

表5.21: 2 モーラ和語名詞（V 類）の調査項目のアクセント（道北地方）

	小平			名寄	
	na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
牡蠣	1	0	1	2	2
猿	1	1	1	1	1
眉	2	1	2	2	2
秋	1	1	1	1	1
窓	2	2	2	2	2
蛇	1	1	1	2	1
蜘蛛	2	2	2	2	1
足袋	1	2	1	2	1
雨	2	2	2	2	2
鮭	1	1	1	1	1

い。例えば、広母音で終わる「鮭」の用例は全て ① 型であるが、狭母音で終わる「眉」は ② 型が多かった。また、nb63m は狭母音で終わる「牡蠣」、「足袋」をそれぞれ ⓪ 型、② 型にした。

5.3.5 調査結果（道南）

I 類は ⓪ 型で安定していたが、sb41m が「鼻」を ② 型で発音し、「花」との区別はなかった。II 類は、古平調査の 3 人のインフォーマントは例外なく ⓪ 型を使った。他の調査では、ob63f sa59m、se41m も主に ⓪ 型であった。他の話者は ② 型を使ったが、sd60m は「旗」、「石」、「紙」、「梨」の 4 語は ⓪ 型で発音した。sf25f は「梨」に加えて、「橋」も ⓪ 型となった。⓪ 型と ② 型を併用している話者の回答を見ると、⓪ 型の用例は主に 2 モーラ目が狭母音で終わる語に現れた。つまり、他の調査でも見られたように、北海道諸方言においてアクセント核が狭母音の音節に置きにくい傾向があると考えられる。

III 類の用例は殆ど ② 型であり、東京方言に準じたが、ここも「栗」と「熊」は例外的な振る舞い

表5.22: 2 モーラ和語名詞（I 類）の調査項目のアクセント（道南地方）

	古平			小樽		七飯					
	fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
海老	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滝	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
烏賊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
牛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蜂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蟹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
酒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0

表5.23: 2 モーラ和語名詞（II 類）の調査項目のアクセント（道南地方）

	古平			小樽		七飯					
	fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
冬	0	0	0	2	0	0	2	2	2	0	2
川	0	0	0	2	0	0	2	2	2	0	2
旗	0	0	0	2	0	2	2	2	0	2	2
梨	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
橋	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0
町	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2
石	0	0	0	2	0	0	2	2	0	0	2
紙	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2
肘	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2
胸	0	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2

表5.24: 2 モーラ和語名詞（Ⅲ 類）の調査項目のアクセント（道南地方）

	古平			小樽		七飯					
	fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
山	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
栗	2	2	2	0	2	0	0	0	2	2	0
熊	2	2	2	1	2	0	1	1	2	2	1
犬	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
米	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
耳	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
舌	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2
花	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
靴	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
馬	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

を示した。

Ⅳ 類は oa30m, sb41m、sc33f、sf25f, の用例は殆ど ① 型であり、東京方言と一致しているパターンであった。他のインフォーマントは、典型的な 2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まるパターンを示した。

Ⅴ 類は Ⅳ 類と類似した様子を示す。oa30m、sb41m、sc33f、sd60m、sf25f の用例は殆ど ① 型であったのに対して、他の話者は 2 モーラ目が広母音を含む語を ② 型で発音する傾向を示した。しかし Ⅴ 類において、Ⅳ 類よりこの傾向に逆らう例外が多いと考えられる。例えば、広母音で終わる「蜘蛛」、「鮭」は殆ど ① 型であるが、狭母音で終わる「眉」は ② 型が多かった。

表5.25: 2 モーラ和語名詞（Ⅳ 類）の調査項目のアクセント（道南地方）

	古平			小樽		七飯					
	fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
味噌	2	2	2	1	2	2	1	1	2	2	1
海	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
空	2	2	2	1	2	1	1	1	2	2	1
箸	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1
糸	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2
絹	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
肩	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2
舟	2	2	2	1	2	0	1	1	1	2	1
針	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
鎌	2	2	2	1	0	1	1	1	2	2	2

表5.26: 2 モーラ和語名詞（Ⅴ 類）の調査項目のアクセント（道南地方）

	古平			小樽		七飯					
	fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
牡蠣	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1
猿	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
眉	1	2	2	1	1	2	1	1	2	2	2
秋	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
窓	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2
蛇	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1
蜘蛛	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1
足袋	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1
雨	2	2	2	1	2	2	2	1	1	1	1
鮭	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

5.3.6　例外的語彙

1 モーラ名詞と同様に、一人一人の話者につき、同じ類に属している語は同じアクセント型に発音される傾向は明らかであっても、類の他の語彙と一貫して異なる振る舞いを示す語彙がある。I 類は、このような例外は観察されなかった。II 類では、一見して「町」と「肘」が例外的な振る舞いを示す。つまり、話者によって、II 類の語彙が ⓪ 型か ② 型で発音される。しかし、⓪ 型を多く使う話者でも、「町」と「肘」が ② 型であるケースが少なくない（cd62f, ce66f, ch62f, ed69f, eh69m, sa59m, se41m など）。ただし、最も年長のインフォーマント（古平町の fa86f、fb80f、fc80f）の結果を見れば、「町」も「肘」も ⓪ 型になっているので、以下に詳しく説明する傾向に揃っていると思われる。

尾崎 (1984) でも指摘されたように、III 類の「栗」の用例は全て ⓪ 型であり、これは北海道方言の特徴的な発音として考えていいだろう。これも最も年長のインフォーマントの用例において見られないアクセント型であるが、III 類におけるより大きな傾向の一部ではない。また、「熊」のアクセントは他の方言でもヴァリエーションがあるものだが、北海道の話者は若いほど ① 型を使う傾向を示した。

IV ・ V 類は、一部の話者は 2 モーラ目が広母音を含む語を ② 型で発音する傾向を示すが、その中で「鎌」、「鮭」など、2 モーラ目の母音が広母音でも ① 型となる調査項目もあった。「鎌」は同じく 2 モーラ目の母音が IV ・ V 類語のアクセント型を決める特徴を持つ秋田方言でも ① 型があらやる年齢層で一般的である (森下, 1988)。また、「鮭」は生き物を ① 型で発音する傾向に準ずると考えられる（上野、2013, 私信）。一方、「眉」は狭母音で終わるにもかかわらず、② 型になりがちである。

5.3.7　考察

前節の調査データに基づいて語類とアクセント型の対応関係を調べてみた結果、表5.27の 4 つのパターンが共存していることがわかった。

表5.27: 2 モーラ和語名詞における語類とアクセント型の対応関係パターン

A パターン	Ⅰ・Ⅱ	⓪ 型
	Ⅲ	② 型
	Ⅳ（狭）・Ⅴ（狭）	① 型
	Ⅳ（広）・Ⅴ（広）	② 型
B パターン	Ⅰ・Ⅱ（狭）	⓪ 型
	Ⅱ（広）・Ⅲ	② 型
	Ⅳ（狭）・Ⅴ（狭）	① 型
	Ⅳ（広）・Ⅴ（広）	② 型
C グループ	Ⅰ	⓪ 型
	Ⅱ・Ⅲ	② 型
	Ⅳ（狭）・Ⅴ（狭）	① 型
	Ⅳ（広）・Ⅴ（広）	② 型
D グループ	Ⅰ	⓪ 型
	Ⅱ・Ⅲ	② 型
	Ⅳ・Ⅴ	① 型

表5.27のパターンを全国共通語（東京方言）との相違の度合い度合いの順に並らべると、A → B → C → D という順になる。A パターンは、表5.6でまとめた先行研究でも多く見られるパターン、北海道全地域の方言の伝統的なパターンであると考えられる。これは、北海道方言のみならず、外輪東京式アクセント方言の典型的な対応関係であり、秋田 (佐藤, 1982) や青森 (北条, 1982) 方言などで見られる。[*2]一方、Dパターンは共通語と一致する対応関係である。

言語変化と方向性

上述したAパターンとDパターンはそれぞれ言語変化の開始点と終点であり、BとCはその間の過渡期的段階であると解釈する。この解釈を支えるため、まずどの話者がどのパターンを使うかをまとめておく。

[*2] 徳川 (1978, p.545) によると、この対応関係は以下の前提から推論できる。

1. いわゆる二音節名詞のみについて考えている。
2. 現代日本語方言の二音節名詞のアクセントはすべて五つの類を区別するアクセントから変化したものと考える。
3. ＜統合の原則＞
   a. アクセントの五つの語類の区別は、時代とともに統合する方向にあり、いったん統合した類の区別が、再び元の区別を復元して分離することはなかったと考える。
   b. 五つの類を区別するアクセントを、第一次アクセントという。五つの類のうち二つが統合したアクセントを、第二次アクセントという。

5 つの類を区別する第一次アクセント（平安京都方言など）の Ⅳ ・ V 類が統合し、I/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ ・ V のアクセント類別を持つ X 方言が成立した。この前身方言の語類がさらに統合し、現代の中輪東京式（東京方言、静岡方言など）と外輪東京式（北奥羽方言、大分方言など）の第三次アクセントが成立した。前者の場合は、Ⅱ ・ Ⅲ 類が統合し、現代の I/Ⅱ ・ Ⅲ/Ⅳ ・ V パターンになった。後者は、Ⅰ ・ Ⅱ 類が統合し、A パターンのⅠ ・ Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ ・ V になった。Ⅳ ・ V 類が 2 モーラ目の母音によってアクセント型が決まる傾向については、Ⅳ ・ V 類に東京や大分のように ① 型に統合してから、アクセント核の一音節後退が起ったとされている。その際、狭母音音節は音節としての自立性が低く、核を担うことができなかったため、二音節目が広母音の語彙のみが ② 型となった (木部, 2008, p.68)。

表5.28は、2 モーラ名詞の語類とアクセント型の対応関係パターンによって調査のインフォーマントを分類したものを示す。[*3]。個人差が大きいものの、所属パターンはインフォーマントの生年（年齢）との強い関連性を示す。A のインフォーマントが最高齢であり、A　→　B　→　C　→　D の順にその平均年齢が低くなる。要するに、2 モーラ名詞の語類とアクセント型に関わる言語変異が，単なる自由変異ではなく，言語変異の「秩序のある異質性」（orderly heterogeneity, Weinreich et al. (1968)）を示す。

このような現象は、主に二つの捉え方がある。まず、それぞれの世代のことばの違いがその人たちがその言語を獲得した当時の実態をそのまま映し出していることを想定して（いわゆる「見かけ上の時間」解釈 (Sankoff (2006) などを参照されたい)、世代感の違いを進行中の「言語変化」の段階として捉えることができる。または、ことばの違いは個人語における「生涯変化」の結果であり、単に各年齢層に特有の一時的な言語特徴（例えば、「若者ことば」など）を反映する年齢階層として捉えることもできる。

本調査の結果を先行研究の結果と比べると、生涯変化は起きていないと思われる。小野 (1993, p.247) よると、共通語と一致するパターン（D）は主に当時の 30 代前半以下（現代の 50 代前半以下）の年層に共通しているものである。本調査では、例外もあるが、50 代前半以下のインフォーマントはおおよそ D パターンである。即ち、小野氏の調査から約 20 年経ったため、年齢の境がずれ

[*3] なお、各話者における語類とアクセント型の対応関係を断定する際、例外的な振る舞いを示す語や分節音による分離があることによって、単にある類の多数形アクセント型だけを基準として分けることが不適切だと考えられる。それ故に、以下の基準によって話者を分類した。

A	Ⅱ類：	2 番目の母音が広い語・狭い語においても ⓪ 型が多数形である
	Ⅳ類・Ⅴ類：	「鮭」以外、2 番目の母音が広い語において ② 型が多数形である
B	Ⅱ類：	2 番目の母音が狭い語において ⓪ 型が多数形である
	Ⅳ類・Ⅴ類：	「鮭」以外、2 番目の母音が広い語において ② 型が多数形である
C	Ⅱ類：	2 番目の母音が広い語・狭い語においても ② 型が多数形である
	Ⅳ類・Ⅴ類：	「鮭」以外、2 番目の母音が広い語において ② 型が多数形である
D	Ⅱ類：	2 番目の母音が広い語・狭い語においても ② 型が多数形である
	Ⅳ・Ⅴ類：	2 番目の母音が広い語・狭い語においても ① 型が多数形である

たが、世代のアクセント特徴がこの 20 年の間に安定していると考えられる。札幌方言のアクセント生涯変化に注目した高野 (2011) の結果もこの解釈と照応し、「大多数の話者において「生涯変化」と言えるほどの経年的変化は確認できなかった。本調査に関する限り、「見かけ上の時間」解釈に基づく言語変化研究の妥当性や言語の諸領域で最も変わりにくいのは音韻面だとする一般化を支持する結果が得られたと言える」と述べている（p.12）。

これが暗示するのは、A、B、C、D は北海道方言における進行中の言語変化の段階であることである。方言の語類とアクセント型の対応関係は、高年齢層のインフォーマントが所属する A パター

表5.28: 話者ごとの語類とアクセント型の対応関係（2 モーラ名詞）

対応関係パターン			
A	B	C	D
cd62f	ce66f	ee58f	ca30f
ci59m	ch62f*	el60f	cb33f
eh62f	ed69f	nc47f	cj36f
na52f	eg67m	ya61f	ck26f
nb63m	ej61m*	sd60m	ea34f
ob63f	sa59m		eb15m
fa86f	se41m		ec50f
fb80f			ef58f
fc80f			ek59f
			yb63m
			oa30m
			sb41m
			sc33f
			sf25f
話者の平均生年			
1945	1953	1955	1976

ンから、若年層が所属するDパターンに変遷しつつあり、移行期の間に4つのパターンが共存している。その変化の方向性について、B・Cのインフォーマントは、第Ⅱ類が⓪型である特徴を失い、第Ⅳ・Ⅴ類が2モーラ目の母音によって分かれている特徴を保っているのに対して、第Ⅳ・Ⅴ類が2モーラ目の母音によって分かれている特徴を失い、第Ⅱ類が⓪型である特徴を保っているインフォーマントはいなかった。これが示唆するのはⅡ類が②型になったことが（A → B → Cの変遷)、2モーラ目の母音が広い第Ⅳ・Ⅴ類の語が①型になったことに先行したということである。なお、Dグループに幅広い年齢層のインフォーマントが所属している。例えば、59歳のek59fも24歳のsf25fもDパターンである。そのため、C → Dへの変遷が起きた以来、更なるアクセント変化が起きていないと考えられる。即ち、アクセント型と語類の対応関係の面では、いわゆる「新方言」の成立を示唆する証拠はない。

内的変化と接触変化

上で指摘したアクセント変化は、方言の内部から自然に起きたものではないことが明らかである。金田一 (1975, p.95) によると、方言の内部で起きるアクセント変化において音韻変化に属するものがあり、そして形態変化に属するものがある。前者は、規則的な変化を起こす性質がある。しかし、以上で記述した変化は音韻的な規則性はないと考えられる。例えば、語彙の音韻的構造や音韻環境が同じであっても、Ⅳ・Ⅴ類の②型は①型に変化して行くのに対して、Ⅲ類の②型は①型に変化しない。また、形態変化に属する変化は、一定の範囲に限られている変化であり、2モーラ名詞において窺われた大幅な変化とは異なる。さらに、いったん統合したⅡ類とⅠ類の区別が、再び元の区別を復元して分離することは、上記にまとめた徳川 (1978) の統合の原則に違反する変化である。

そのため、以上に説明したアクセント変化は方言の外部で起きた変化、いわゆる「接触変化」(木部 (2008) などを参照されたい）として解釈したほうがいいことである。ここで記述した変化は、以前共通語と異なっていた類のみで起きたため、日本各地でみられる共通語（東京方言）との接触による外部的変化であると考えられる。即ち、北海道方言の話者がアクセントを取得した際、従来の北海道方言のアクセントより、徐々に比較的社会的な権威を持つ変種（共通語）を使うようになっ

た。これで、共通語のアクセント対応関係が北海道諸方言に移入したのである。[*4]。

語類とアクセント型の対応関係における変遷の原因は外部的であっても、それぞれの段階が存在することは、北海道方言の内部的特徴を反映していると思われる。ここまで見たように、北海道方言では、広母音と狭母音はそれぞれアクセント核を担うのに好ましい位置と好ましくない位置である。それ故にⅡ類において、狭母音がアクセント核を担うのに好ましくないため、2 モーラ目の広い語彙が先に東京方言の影響を受けて ② 型になった。

5.4　3 モーラ名詞

5.4.1　先行研究

1 ・ 2 モーラ名詞と比べ、3 モーラ語のアクセント型においてはばらつきが多い。例えば、根室方言に関して、小野 (1992) は「アクセントの型は必ずしも安定してはいない。世代によって違いがあるばかりでなく、同一世代でも、また同じ高年層話者であっても、同一個人の発話においてさえも、いろいろなものが聞かれるのが、根室方言・北海道方言の実情である。」と述べている (p.7)。表のように、安定しているⅠ類（⓪ 型）とⅣ類（③ 型）以外に、語類とアクセント型の対応関係がはっきりせず、先行研究の結果から傾向を導き出すことが難しい。しかし、主な傾向として、北海道方言は ② 型に所属する語類が多く、① 型に所属する語彙が少ないことが挙げられる。

[*4] この接触変化は、調査した全地方で認められたが、小野 (1993) が地方によって程度が異なることを指摘した。この点は 6 章で取り上げる

表5.29: 先行研究による語類とアクセント型の対応関係（3 モーラ名詞）

地域	アクセント型																				
	⓪ 型					① 型			② 型							③ 型						
東京	I			Ⅲ		Ⅵ	Ⅴ	Ⅶ								Ⅱ		Ⅳ			
内陸（都市）(平山, 1957)*[5]	I							Ⅶ				Ⅴ	Ⅵ					Ⅳ			
海岸（周辺地区）(平山, 1957)*[6]	I											Ⅴ	Ⅵ					Ⅳ			
旭川（小野、1968）	I					Ⅵ	Ⅴ	Ⅶ	Ⅲ							Ⅱ		Ⅳ			
奥尻（小野、1993）	I	Ⅱ						Ⅶ	Ⅲ				Ⅵ					Ⅳ	Ⅴ		
古平（小野、1993）	I					(Ⅵ)*[7]			Ⅲ			Ⅴ	(Ⅵ)	Ⅶ		Ⅱ		Ⅳ			
幌加内（小野、1993）	I			Ⅲ		Ⅵ				Ⅳ		Ⅴ		Ⅶ				Ⅳ			
帯広（竹本、2010）*[8]	I	(Ⅱ)				(Ⅵ)	Ⅴ			(Ⅳ)						(Ⅱ)		(Ⅳ)			Ⅵ

5.4.2 調査結果（道央）

I 類の用例が完全に ⓪ 型であった。Ⅱ類において、全員「東」を ⓪ 型、「二つ」、「娘」を ③ 型にした。「小豆」は、ca30f、cd62f が ③ 型で、他の話者が ⓪ 型であった。Ⅲ類において「小麦」、「岬」、「黄金」は例外なく ⓪ 型であった。ただし、「力」は ce66f と ci69m は ② 型、他は ③ 型を使用した。Ⅳ類は主に ③ 型であるが、「頭」は ② 型の用例も多かった。V 類は、主に ⓪ 型である「油」以外の項目において、明瞭な世代差が見られる。30 代以下の ca30f, cb33f, cj36f, ck26f は ① 型であるのに対して、50 代・ 60 代の cd62f、ce66f、ch62f、ci59m は ② 型を使った。Ⅵ類の多くは ⓪ 型であったが、「背中」において個人差が大きく、⓪ 型・ ② 型・ ③ 型の用例が見られた。Ⅶ類は、「卵」が ② 型で、他の語は ⓪ 型であるのが一般的なパターンであったが、「苺」において ① 型（ci59m）と ② 型（ce66f）の用例もあった。

表5.30: 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道央地方）

		札幌							
		ca30f	cb33f	cd62f	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f
Ⅰ類	子供	0	0	0	0	0	0	0	0
	桜	0	0	0	0	0	0	0	0
	煙	0	0	0	0	0	0	0	0
	車	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ類	二つ	3	3	3	3	3	3	3	3
	娘	3	3	3	3	3	3	3	3
	小豆	3	0	3	0	0	0	0	0
	東	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ類	力	3	3	3	2	2	2	3	3
	小麦	0	0	0	0	0	0	0	0
	岬	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄金	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅳ類	刀	3	3	3	2	3	2	3	3
	男	3	3	3	3	3	0	3	3
	鏡	2	3	3	0	0	2	3	3
	頭	3	3	3	2	2	2	2	3
Ⅴ類	アワビ	1	1	0	2	2	2	0	1
	枕	1	1	2	0	2	2	1	1
	油	0	0	0	2	0	0	0	0
	涙	1	1	0	0	2	2	1	1
Ⅵ類	兎	0	0	0	0	0	0	0	0
	狐	0	0	0	0	0	0	0	0
	背中	3	0	3	2	2	2	0	0
	鼠	0	0	0	0	3	2	0	0
Ⅶ類	卵	2	2	2	2	2	2	2	2
	苺	0	0	0	2	0	1	0	3
	辛子	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯨	0	0	0	0	0	0	0	0

5.4.3　調査結果（道東）

I 類は ⓪ 型であり、例外はない。Ⅱ類は「二つ」と「娘」が完全に ③ 型であるが、「小豆」全員は ⓪ 型である。「東」は ③ 型と ⓪ 型が共通語で認められているが、殆どのインフォーマントは ⓪ 型を使い、③ 型の用例は 2 つのみだった。その結果、Ⅱ類が ⓪ 型と ③ 型に分かれているのが一般的なパターンであった。Ⅲ類において、「力」は ⓪ 型、② 型、③ 型も見られたが、他の語は ⓪ 型で、例外は少なかった。

Ⅳ類は共通語で完全に ③ 型であるが、道東の話者は ② 型と ⓪ 型の用例も多く示し、ばらつきが激しい。「男」のみが安定したパターンを見せ、ほぼ例外なく ③ 型であった。一方、「頭」は特に非標準的な発音が多く、⓪ 型と ② 型は用例の過半数を占めた。V 類もヴァリエーションのレベルが高いが、「アワビ」、「枕」、「涙」を ② 型で発音する傾向が見られた。「油」は共通語に揃い、⓪ 型に発音したインフォーマントは 6 人いたが、他に ③ 型と ② 型は用例も観察された。Ⅵ類は主に ⓪ 型であり、例外は少ない。最後に、Ⅶ類において「鯨」と「卵」がそれぞれ ⓪ 型と ② 型に安定している。「苺」、「辛子」は ② 型や ③ 型の用例も少なくないが、⓪ 型が多数であった。

表5.31: 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道東地方）

		網走										
		ea34f	eb15m	ec50f	ed69f	ee58f	ef58f	eg67m	eh69m	ej61m	ek59f	el60f
Ⅰ類	子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	桜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	煙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅱ類	二つ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	娘	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3
	小豆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0
Ⅲ類	力	3	0	3	0	2	2	0	0	0	3	3
	小麦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅳ類	刀	3	3	2	3	0	3	0	0	0	3	0
	男	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	3
	鏡	3	2	3	2	2	0	2	3	3	3	0
	頭	3	2	2	3	0	3	0	0	3	3	0
Ⅴ類	アワビ	1	1	2	2	2	2	2	0	0	0	2
	枕	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2	0
	油	0	0	3	3	3	2	0	0	3	0	0
	涙	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	2
Ⅵ類	兎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	狐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	背中	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0
	鼠	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2
Ⅶ類	卵	2	2	2	2	2	3	2	2	0	2	2
	苺	0	0	0	0	2	3	1	0	2	0	0
	辛子	0	3	0	0	3	0	2	3	0	0	0
	鯨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5.4.4　調査結果（道北）

3 モーラ名詞は、I 類が完全に ⓪ 型である。II 類は他の調査でも見られた「小豆」、「東」を ⓪ 型、「二つ」と「娘」を ③ 型で発音するパターンが確認できたが、yb63m は「小豆」に共通語と一致する ② 型を使用した。III 類・ IV 類はぞれぞれ ⓪ 型と ③ 型であり、例外は少ない。

V 類は、「アワビ」において ② 型が優勢であるが、他の項目に関して、調査地によって回答が分かれた。小平の話者は、「枕」、「油」、「涙」は全て ③ 型であるのに対して、名寄の話者は「枕」と「涙」が ② 型で、「油」が ⓪ 型である。名寄の話者が見せたパターンは他の地域でも見られるが、小平のは異例である。VI 類は、地域差よりも、個人差が著しい。na52f は「狐」が ② 型、他の語は ③ 型であった。nc47f は全て ② 型であった。nb63m は「鼠」が ③ 型、他の語は ⓪ 型であった。また、名寄の 2 人は全項目 ⓪ 型であった。

最後に、VII 類にも型のばらつきが多い。全員「卵」を ② 型、「鯨」を ⓪ 型に発音したが、「苺」は nc47f が ③ 型、na52f が ② 型、他は ⓪ 型に発音した。「辛子」は nb63m、nc47f が ③ 型、na52f が ② 型に発音した。

表5.32: 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道北地方）

		小平			名寄	
		na52f	nb63m	nc47f	ya61f	yb63m
I 類	子供	0	0	0	0	0
	桜	0	0	0	0	0
	煙	0	0	0	0	0
	車	0	0	0	0	0
II 類	二つ	3	0	3	3	3
	娘	3	3	3	3	3
	小豆	0	0	0	0	3
	東	0	0	0	0	0
III 類	力	3	0	3	3	3
	小麦	0	0	2	0	0
	岬	0	0	0	0	0
	黄金	0	0	0	0	0
IV 類	刀	0	3	3	3	3
	男	3	3	3	3	3
	鏡	3	3	3	3	3
	頭	3	3	3	3	3
V 類	アワビ	2	0	2	2	2
	枕	3	3	3	2	2
	油	3	3	3	0	0
	涙	3	3	3	2	2
VI 類	兎	3	0	2	0	0
	狐	2	0	2	0	0
	背中	3	0	2	0	0
	鼠	3	3	2	0	0
VII 類	卵	2	2	2	2	2
	苺	2	3	0	0	0
	辛子	2	3	3	0	0
	鯨	0	0	0	0	0

5.4.5　調査結果（道南）

I 類は ⓪ 型で、例外は見られなかった。Ⅱ 類は「二つ」は完全に ③ 型であり、「娘」もおおよそ ③ 型であったが、古平の恒例の話者は ⓪ 型を使った。「小豆」と「東」の発音において多少の個人差があった。「東」は sa59m、sd60m、se41m 及び古平の話者が ③ 型、他は ⓪ 型であった。「小豆」は fa86f, oa30m, sd60m が ③ 型となったが、他には ⓪ 型が多く、他の調査でも見られた固有アクセントと思われる。

Ⅲ 類において、「黄金」が ⓪ 型で安定していた。「小麦」と「岬」は ⓪ 型が多く、「力」は ③ 型が主流であった。ここでも、古平調査の話者が例外的な様子を見せ、全員が「岬」を ② 型、「力」を ③ 型にした。Ⅳ 類の語ではほぼすべての ③ 型であるが、⓪ 型の用例もいくつか見られた。Ⅴ 類において、古平の話者が「アワビ」を ⓪ 型他の項目を ③ 型で発音した。他の地域の話者では、「油」が ③ 型、他の項目が ② 型というパターンだったが、① 型や ③ 型の用例もいくつか窺われた。

Ⅵ 類は主に ⓪ 型であり、例外は少なかったが、古平の fa86f, fb80f 及び七飯調査の se41m が「背中」、「鼠」、「兎」を ② 型と発音した。最後に、Ⅶ 類は「鯨」が例外なく ⓪ 型であったが、他の語においてまとまりが少なかった。「辛子」と「卵」はそれぞれ ② 型と ③ 型が多数であったが、⓪ 型と ② 型の用例もあった。「鯨」と「苺」の用例は ⓪ 型と ① 型に分かれていた。

表5.33: 3 モーラ和語名詞の調査項目のアクセント（道南地方）

		古平			小樽		七飯					
		fa86f	fb80f	fc80f	oa30m	ob63f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f
I 類	子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	桜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	煙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II 類	二つ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	娘	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
	小豆	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	東	3	3	3	0	0	3	0	0	3	3	0
III 類	力	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
	小麦	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
	岬	2	2	2	0	0	0	0	0	3	3	0
	黄金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IV 類	刀	3	0	0	3	3	3	3	3	3	3	0
	男	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	鏡	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	頭	3	3	0	0	3	0	3	3	3	3	3
V 類	アワビ	0	0	0	1	0	3	2	2	2	2	2
	枕	3	3	3	1	2	2	2	2	3	2	2
	油	3	3	3	0	3	3	3	0	3	3	0
	涙	3	3	3	1	3	2	2	2	2	2	1
VI 類	兎	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	狐	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0
	背中	2	2	0	0	0	0	0	3	0	2	0
	鼠	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
VII 類	卵	2	2	0	2	2	0	2	2	2	2	0
	苺	1	1	1	1	1	0	2	0	0	2	0
	辛子	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	0
	鯨	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

5.4.6　考察

3 モーラ名詞のアクセント型を全体的に見れば、② 型が比較的多いことが顕著である。これは尾崎 (1984)（札幌方言）、小野 (1993)（幌加内方言）、鈴木 (1994) など、北海道諸方言を対象にする先行研究にも指摘された特徴である。一方、東京方言でよく見られる ① 型の用例はかなり少ない。2 モーラ和語名詞や外来語名詞などから、① 型が北海道方言のアクセント体系において可能であることが分かるが、この結果から、北海道方言の多くの話者にとって有標な形式であることも明らかである。

次に、各語類・調査項目のアクセントにおいてまとまりが少ないことが明らかである。まず考慮すべきなのは、北海道諸方言の研究において、これは決して珍しい現象ではないことである。例えば、小平町と同じ留萌支庁に位置する増毛町の調査 (北海道方言研究会, 1978) では、一つの調査項目に対して、○●●、○●○、●●○、○○●、●○○などのアクセント型が観察されることがあった（p.50）。[*9]。以下、類ごとの特徴について述べる。

I 類　例外なく ⓪ 型である。これは他の東京式アクセントの方言と共通している特徴であり、北海道方言を対象にした先行研究でも先行研究でも広く指摘されている（表5.29を参照されたい）。

II 類　「二つ」と「娘」はほぼ例外なく ③ 型であるが、古平の話者だけ「娘」を ⓪ 型にした。「東」と「小豆」は主に ⓪ 型であるが、約 2 割の回答は ③ 型であった。

[*9] なぜ 3 モーラ名詞においてアクセント型のばらつきが特に多いのかはまだ明らかではないが、アクセントの弁別的な機能と関わるかもしれない。Kitahara (2001) は、認識実験を通じて、日本語の 2 モーラ語において聞き手の認識のためにアクセント核の位置が最も基礎的な手がかりであることを示す。一方、3 モーラ語においてアクセント核の有無がより重要であるという。そのため、3 モーラ語においてアクセント核の位置が比較的重要な役割を果たさなく、位置のゆれが多く生じる可能性がある。

Ⅲ類　「黄金」は例外なく ⓪ 型である。「岬」は主に ⓪ 型であるが、② 型（古平）と ③ 型（他地域）の例外もあった。「小麦」も ⓪ 型が主流であるが、② 型もうかがわれた。「力」は主に ③ 型であるが、高齢の話者において ⓪ 型と ② 型の用例も見られた。

Ⅳ類　「男」は例外なく ③ 型である。「刀」「鏡」「頭」は主に ③ 型であるが、高齢の話者において「刀」を ⓪ 型や ② 型にする傾向が見られた。「鏡」「頭」も ⓪ 型と ② 型の例もあったが、特定の地域や年齢層に限られていない。

Ⅴ類　「油」は ⓪ 型と ③ 型があり、高齢ほど ③ 型を使う傾向が見られた。同様に、「アワビ」、「枕」、「涙」は主に ① 型か ② 型であるが、① 型は主に若年層において窺われた。

Ⅵ類　主に ⓪ 型であるが、② 型と ③ 型の用例も少なくない（小平の話者においてこの傾向は顕著である）。

Ⅶ類　「鯨」と「卵」はそれぞれ ⓪ 型と ② 型であるが、古平の話者だけ「鯨」を ① 型にした。「辛子」と「苺」は ⓪ 型が多数であるが、ばらつきが激しく、① 型・② 型・ ③ 型の用例も見られた。

部分的に、類の特徴は、表5.29でまとめた先行研究の結果と一致している。例えば、平山 (1957) や小野 (1993) で述べているように、Ⅵ類およびⅤ類において ② 型が多いことが分かった。しかし、語類のアクセント型においてまとまりが少なさのため、直接の比較は難しい。ただし、ばらつきがあるものの、これは完全にランダムではなく、話者の社会的属性に対応する傾向がある。例えば、一つの調査地域でしか見られないパターンがある。小平の調査では、Ⅵ類は ② 型が多く、古平では、Ⅴ類は主に ③ 型である*[10]。しかし、2 モーラ名詞と同様に、アクセントを最も左右する要因は話者の年齢であると思われる。表5.35はインフォマントを年齢順に並べ、特定の調査項目のアクセントと話者の年齢の関連性を表す。

*[10] 一つの調査地域でしか見られないパターンがあるにも関わらず、この地域の方言の不変の特徴と捉えることができない。小平と古平の場合は、若年層のインフォーマントはないため、この結果が地域の方言の全体像を表すとは限らない。

表5.35: 年齢とアクセント型の関連性（3 モーラ和語名詞）

	力	刀	アワビ	枕	油	涙
fa86f	0	3	0	3	3	3
fb80f	0	0	0	3	3	3
fc80f	0	0	0	3	3	3
ed69f	0	3	2	2	3	2
eh69m	0	3	2	2	0	2
eg67m	0	0	2	2	0	1
ce66f	2	2	2	1	2	1
nb63m	0	3	3	3	3	3
yb63m	3	3	2	2	0	2
ya61f	3	3	2	2	0	2
cd62f	3	3	2	2	0	2
ch62f	2	3	2	2	2	2
ej61m	0	0	2	1	3	1
ob63f	3	3	0	2	0	3
el60f	3	3	2	3	0	2
sd60m	3	3	2	3	3	2
ek59f	3	3	2	2	0	1
ci59m	2	2	2	2	0	2
sa59m	3	3	3	2	3	2
ee58f	2	0	2	2	3	2
ef58f	2	3	2	2	2	1
na52f	3	3	2	3	3	3
ec50f	3	2	2	1	3	1
nc47f	3	3	2	3	3	3
sb41m	3	3	2	2	3	2
se41m	3	3	2	2	3	2
ea34f	3	3	1	1	0	1
cj36f	3	3	2	1	0	1
cb33f	3	3	1	1	0	1
sc33f	3	3	2	2	0	2
ca30f	3	3	1	1	0	1
oa30m	3	3	1	1	0	1
sf25f	3	0	2	2	0	1
ck26f	3	3	1	1	0	1
eb15m	3	3	1	1	0	1

表が示すように、話者が高齢なほど共通語でのアクセント型と異なる用例が多い。大まかにいうと、「刀」と「力」において 60 代半ば以上の話者が非標準的が形式を使い、「アワビ」、「枕」、「油」、「涙」において 40 代以上の話者が非標準的が形式を使う。つまり、2 モーラ和語名詞でも見られたように、3 モーラ名詞のアクセントにおいて言語変化が進行中であると考えられる。

ここで記述した変化も、以前共通語と一致するアクセント型を持つ語彙において起きていないため、全国共通語との接触による外部的変化であると考えられる。しかし、2 モーラ語において見られた変化と大切な相違点がある。語類とその所属語彙を定めた 金田一 (1973) では、V 類（「命」類）の語（「涙」、「枕」、「アワビ」など）は東京方言で ② 型であるとされている。しかし、新明解日本語アクセント辞典 (秋永・金田一, 2001a) によると、これらの語は ① 型である。この変化は北海道方言において見られた世代差を反映している。つまり、3 モーラ名詞のアクセントは 2 モーラ名詞のアクセントのように共通語に統合したのではなく、共通語の基盤となる東京方言と並列的に変化してきた可能性があると思われる。

5.5　動詞

本節では、動詞を対象にし、終止形及び4.2.3節で分析した活用形のアクセントにおける話者間の変異を検討し、その変異の動態を明らかにする。調査対象のインフォーマントは、札幌の ce66f、ch62f、ci59m、cj36f、ck26f 及び七飯・名寄の全員であった。

5.5.1　先行研究

4.2.3節で見たように、北海道方言の動詞には主に無核型（第 I 類）と有核型（第 II 類）がある。前者は終止形でピッチの下がりをもたらすアクセント核がなく、平板に発音される。後者は終止形で次末モーラに核を置くものである（○┐○、○○┐○、○○○┐○など）。また、両類のアクセント型は語形の変化に伴ってそれぞれのパターンに従って変化する。語類と単語の対応関係に関して、多くの場合は北海道方言が共通語（東京方言）と一致する (平山, 1957)。ただし、小野 (1982,1993 など）は第 I 類の一部が有核になっていく傾向を指摘した。また、4.2.3で述べたように、第 I 類において複数のアクセント型が見られる動詞形式がある。これは斎藤・白尾 (2007) でも指摘されている。

5.5.2　調査結果（終止形）

動詞終止形の結果は表5.36及び5.37に示す。項目の規範のアクセント型[*11]と異なる例はグレイでハイライトされている。

表5.36と5.37が示すように、第 I 類の項目の一部が有核で発音されているが、一貫した傾向はなく、第 I 類と第 II 類の対立が概ね保たれている。第 II 類の語は、規範のアクセントと殆ど変わらないが、「数える」、「見える」、「聞こえる」においてピッチの下降が右から 3 番目のモーラに現れる用例もいくつか窺われた。この場合は、「え」など単独の母音のみから成るモーラはアクセント核を担うのに好ましくないため、アクセント核が左にずれたと思われる。

[*11] 平山 (1960) を基準とする

表5.36: 動詞（I 類・終止形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	yb61f	yb63m
寝る	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
煮る	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生む	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
着る	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0
行く	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
上げる	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
使う	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
借りる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入れる	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
捜す	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0
洗う	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
消える	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
与える	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
忘れる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
聞こえる	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	3	0
迎える	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0

表5.37: 動詞（Ⅱ類・終止形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	yb61f	yb63m
書く	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
来る	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
膿む	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
見る	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
読む	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
作る	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
動く	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
受ける	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
思う	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
投げる	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
盗む	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2
見える	2	2	2	2	2	1	2	2	1	2	2	0	2
起きる	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
務める	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
数える	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
集める	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0
離れる	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3

5.5.3　調査結果（活用形）

動詞活用形の結果は表5.38,5.39,5.40,5.41に示す。項目の規範のアクセント型[*12]と異なる例はグレイでハイライトされている。

4.2.3で説明したように、動詞に付属語が接続した全体のアクセント型をＺとし、Ｚを構成している要素を前部要素（Ｘ）と後部要素（Ｙ）に分けて考えると、アクセント交替規則は次のようにまとめることができる。

表5.42: 動詞のアクセント交替規則（(李, 2010) による）

規則Ⅰ	Ｙ決定型
規則Ⅱ	Ｘ＝無核型 ⟶ Ｙ決定型、Ｘ＝有核型 ⟶ Ｘ決定型
規則Ⅲ	Ｘ＝無核型 ⟶ Ｘ決定型、Ｘ＝有核型 ⟶ Ｙ決定型

表5.38から表5.41における規範のアクセントと異なる例は、他の活用形にも個人的なゆれがあるものの、主に無核型（使う、忘れる）の「セル」、「ナイ」、　「タイ」、「ナガラ」形において見られた。Ｘが有核型の時にＺのアクセント型が一定していることから、付属語の本来のアクセント型におけるアクセント変化による現象ではないと考えられる。「セル」、「タイ」、「ナガラ」の場合は、形適用される交替規則が話者によって異なると考えられる。東京方言の規範のアクセント型と同様に、Ｘが無核型で、Ｚが無核である（「ワスレナガラ＝」、「ツカイタイ＝」、「ワスレサセル＝」など）場合は、規則Ⅲが働いていると考えられる。しかし、Ｘが無核で、Ｙの本来のアクセント核がＺのアクセント核になる振る舞いは、規則Ⅰに該当する。つまり、「マス」と同じく、Ｘのアクセント核の有無と関係なく、付属語のアクセントが実現し、「ワスレナ┐ガラ」、「ツカイタ┐イ」、「ワスレサセ┐ル」など）になる。結果としてⅠ類動詞とⅡ類動詞との間で型の対立が中和してしまう。

ただし、1類の「ナイ」形におけるヴァリエーションは交替規則に基づいて説明できない。表4.2のように、「ナイ」本来のアクセント型は、「ナ」の前のモーラにアクセント核を置く。規則Ⅰがてき

[*12] 平山 (1960) を基準とする

表5.38: 「使う」（活用形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	ya63m
使って	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
使ったり	4	4	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2
使いたい	4	0	4	4	4	0	0	4	0	0	0	4	4
使いながら	0	4	4	0	4	4	0	4	4	0	0	4	4
使わない	0	4	0	4	4	0	4	0	0	0	0	4	4
使わせる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4
使う（連体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
使えば	0	3	0	3	3	3	3	3	0	0	2	3	2
使え	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

表5.39: 「忘れる」（活用形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	ya63m
忘れて	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
忘れたり	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0
忘れたい	4	4	4	4	4	4	0	4	4	0	0	4	0
忘れながら	0	4	4	0	4	0	0	4	0	4	4	4	4
忘れない	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0
忘れさせる	0	5	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5
忘れる（連体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
忘れれば	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0	4	4
忘れろ	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4

表5.40: 「作る」（活用形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	ya63m
作って	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
作ったり	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
作りたい	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
作りながら	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
作らない	3	3	3	3	3	0	3	3	4	4	3	4	3
作らせる	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
作る（連体）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
作れ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
作れば	2	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

表5.41: 「離れる」（活用形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	ya63m
離れて	2	0	3	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0
離れたり	2	2	2	2	2	0	0	2	2	4	2	2	2
離れたい	4	4	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
離れながら	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5
離れさせる	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
離れない	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4
離れる（連体）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
離れれば	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
離れろ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

ようされたとしたら、付属語のアクセントが実現し、*「ツカワ┐ナイ」、*「ワスレ┐ナイ」のようなアクセント型が予想されるが、実際に見られたのは、「ツカワナ┐イ」、「ワスレナ┐イ」であった。ここでも、Xが有核型の時にZのアクセント型においてヴァリエーションがないので、付属語の本来のアクセント型が変化していないようである。そのため、この変化は動詞に付属語が接続した全体のアクセント型に作用するもので、原因は類推であると考えられる。つまり、1 類の「ナイ」形は、「セル」形、「タイ」形、「ナガラ」形という関連する形式からの類推によって、付属語の最初のモーラにアクセント核を置くという特徴を持つようになった。それ故に、「ツカワナ┐イ」、「ワスレナ┐イ」のアクセント型は、主に「セル」形、「タイ」形、「ナガラ」形などを有核に発音する話者のみによって生産された。

言語変化の方向性と特性

上述のような変化は、北海道方言のみならず、各地の東京式アクセントの方言に現れるようである。例えば、「タイ」と「ナガラ」に関しては、首都圏の若年話者を対象とした調査（栗木 2012, 那須 (2014) の引用による）や、長野県千曲市（北信方言、外輪式）の高・中年層話者を対象にした調査 (那須, 2014) でも報告されている。同氏は、田中 (2005) の分類に基づいて、「タイ」と「ナガラ」は「声調式」から「支配式」の付属語に変わってきたと述べている。本論文の用いている用語に言い換えると、規則 Ⅲ が適用されるものから規則 I が適用されるものに変わったということであり、本節で指摘したプロセスと同じである。この変化の本質的な原因としては、那須 (2014) は体系の単純化に進む指向性が変化を支える要因として働いていると見るべきであると述べている。すなわち、原因は調査対象の方言の言語体系に内的である。これも、本研究で指摘したヴァリエーションの原因として妥当であると考えられ、共通語との接触という外的な原因による和語名詞アクセントの変化とは異なる。なお、動詞の活用形アクセントは年齢との関連性を示さないため、変化の方向性は明らかでない。通時的にどのように変化したのか、さらに詳細に分析することが今後の課題といえる。

5.6　形容詞

本節では、形容詞を対象にし、終止形及び4.2.3節で分析した活用形のアクセントにおける話者間の変異を検討し、その変異の動態を明らかにする。

5.6.1　先行研究

北海道方言の形容詞アクセントを取り上げる研究はまだ少ないのだが、動詞と同じく、形容詞アクセントは主に無核型（第 1 類）と有核型（第 2 類）がある。前者は終止形でピッチの下がりをもたらすアクセント核がなく、平板に発音される。後者は終止形で次末モーラに核を置くものである（○┐○、○○┐○、○○○┐○など）。また、両類のアクセント型は語形の変化に伴ってそれぞれのパターンに従って変化する。

終止形に関しては、道北の幌加内方言について、小野 (1993) は全ての形容詞を有核で発音する傾向があると述べている。この「起伏化」は東京方言（小林 (2003)、田中 (2010) など）を含め、他の東京式方言でも見られる。それに加えて、活用形のアクセントにも変異が東京方言 (小林, 2003) や北信方言 (那須, 2014) において指摘されてきた。

5.6.2　調査結果（終止形）

表5.43および表5.44は形容詞終止形の結果を示す。第 II 類の項目においては、アクセント核がほぼ例外なく次末モーラにあり、類の規範のアクセントと一致している。一方、第 I 類は規範の無核型と異なり、主に次末モーラにアクセント核を置く有核型となっているため、第 I 類と第 II 類の対立がほぼ中和している。全体的にみると、この傾向は特に 4 モーラ語に顕著であるが、3 モーラ語でも有核型が多数である。この点では個人差が大きく、特に道南の調査では 3 モーラ語を主に無核型で発音する話者（sb41m、sc33f、se41m）もいる。ただし、和語名詞アクセントで見られたような年齢との関連性が窺われない。

表5.43: 形容詞（I 類・終止形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	yb63m
赤い	2	2	2	2	2	2	0	2	0	0	2	0	2
浅い	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0
厚い	2	2	2	2	0	2	0	0	2	0	2	0	2
甘い	2	2	2	2	2	2	0	0	2	0	0	2	2
薄い	2	2	2	2	2	2	0	0	2	0	2	2	0
遅い	2	2	2	2	2	2	0	0	2	0	0	2	2
堅い	0	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2	0
遠い	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0
軽い	2	2	2	2	2	0	0	0	2	0	0	0	2
辛い	2	2	0	2	2	0	2	0	2	0	0	0	2
悲しい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
やさしい	3	3	0	3	3	3	3	3	2	3	0	3	3
宜しい	3	3	3	3	3	0	3	3	0	3	0	3	3
卑しい	3	3	3	3	3	3	3	3	0	3	3	3	3
怪しい	3	3	3	3	3	3	3	0	3	3	3	3	3
明るい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	3	3

表5.44: 形容詞（Ⅱ類・終止形）の調査項目のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	yb63m
無い	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
良い	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
熱い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
多い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
黒い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
寒い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
白い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
深い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
古い	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
悪い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
凄い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
低い	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
かわいい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
正しい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
嬉しい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	3	3
寂しい	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

5.6.3　調査結果（活用形）

形容詞活用形の結果は表5.45,5.46,5.47,5.48に示す。項目の規範のアクセント型*[13]と異なる例はグレイでハイライトされている。

表5.45と表5.46から、第 I 類の形容詞の活用形アクセントは大きな変異を示しておらず、規範形のアクセントが保たれていることが分かる。例えば、「やさしい」の終止形は主に有核であったが、連体形では無核のアクセントが保持されている。「赤い」の「カッタ」形だけにヴァリエーションが見られ、「アカ] カッタ」と「アカカ] ッタ」の用例が観察された。

一方、第 II 類の活用形アクセントにおいて規範的なアクセントと異なる用例がほとんどであった。具体的に言えば、第 II 類の「クテ」・「カッタ」・「クナイ」・「クナル」・「ケレバ」形において、従来の語幹次末のモーラにアクセント核がくるパターン（「シ] ロクテ」、「カワ] イカッタ」など）が衰退し、語幹末のモーラにアクセント核がくるパターン（「シロ] クテ」、「カワイ] カッタ」*[14]など）が優勢である。つまり、終止形のアクセントと同様に、語幹の最後のモーラにアクセント核が付与される傾向が強い。

前に記述した動詞アクセントにおける変異と同じく、年齢などの社会的な要因による効果はなく、この現象は方言の内的な原因によって起きたと考えられる。同様な変異を示す東京方言に関しては、小林 (2003) はこの現象は「第 I 類・第 II 類の違いをなくし、さらに活用形によって異なるアクセントのパターンを語幹の最後のモーラに統一して形容詞のアクセント体系を単純化しようとする自然な流れともいえる」と述べている。すなわち、第 I 類の終止形アクセントの「起伏化」と第 II 類活用形におけるアクセント変遷は同じ単純化プロセスの別の側面と考えられる。このような活用体系を単純化させるのは類推による変化一種である。北信方言について (那須, 2014) が指摘しているように、「動詞＋付属語からなる節でのアクセント変化は形容詞活用形アクセントにおいて生じている変化と本質的な機序を共有していると言える。いずれにおいても前接活用語の式表示に依存しないアクセント形成へと向かう変化が見られるからである」(p.102)。

*[13] 平山 (1960) を基準とする

*[14] 「かわいい」の最初の「イ」が独立しているモーラとして捉えていると考えられる。

和語名詞アクセントでは、話者の年齢とアクセントの関連性が、北海道方言の話者がアクセントを取得した際、従来の北海道方言のアクセントより、徐々に比較的社会的な権威を持つ共通語のアクセントを使うようになったことを示唆する。それ故に、動詞・形容詞の活用形アクセントは年齢との関連性を示さない結果から、類推による内的変化が話者のアクセントにおける生涯変化を起こしているという可能性が浮かび上がってくる。しかし、生涯変化を確認するには、話者のアクセントを定期的に調べるパネル調査が必要であると考えられるため、ここで指摘したヴァリエーションの正確な性質と方向性は今後の課題である。

表5.45: 「赤い」（活用形）のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	yb63m
赤い（連体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
赤かった	3	2	3	2	2	3	2	2	3	2	3	2	2
赤くて	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
赤くない	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
赤くなる	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
赤ければ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

表5.46: 「やさしい」（活用形）のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	yb63m
やさしい（連体）	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
やさしかった	4	2	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
やさしくて	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
やさしくない	5	5	5	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5
やさしくなる	5	5	5	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5
やさしければ	2	3	2	2	2	4	2	2	2	2	2	4	4

表5.47: 「白い」（活用形）のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	yb63m
白い（連体）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
白かった	2	2	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	2
白くて	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
白くない	2	2	2	4	2	2	1	1	1	2	2	4	5
白くなる	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2
白ければ	2	1	2	2	2	2	3	2	2	1	1	2	2

表5.48: 「かわいい」（活用形）のアクセント

	ce66f	ch62f	ci59m	cj36f	ck26f	sa59m	sb41m	sc33f	sd60m	se41m	sf25f	ya61f	yb63m
かわいい（連体）	0	0	0	0	3	3	3	3	3	3	0	3	3
かわいかった	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2
かわいくて	2	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
かわいくない	2	2	5	2	3	3	0	3	5	2	2	5	3
かわいくなる	3	3	2	3	3	3	2	3	3	2	3	3	4
かわいければ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

第 6 章

アクセント変化の定量分析

6.1　2 モーラ名詞アクセントの共通語化

本章では、先述した現象を取り上げて、北海道方言のアクセントにおける言語変化を統計的に分析し、この変化の社会的な背景について考察する。

6.1.1　定量分析の目的

第 5 章では、北海道方言の和語名詞のアクセントにおけるヴァリエーションは進行中の言語変化を反映していることを指摘した。2 モーラ和語名詞に関して、第 Ⅱ 類の語彙が ⓪ 型から ② 型に変化してきたことと、第 Ⅳ ・ Ⅴ 類における 2 モーラ目が広母音（/a/、/e/、/o/）を含む語彙が ② 型から ① 型に変化してきたことを示した。また、この変化の原因は、北海道方言と全国共通語との接触による「共通語化」であると述べた。

以上、言語変化を語類とアクセント型の対応関係に基づいて説明した。しかし、このアプローチの一つの弱点は、各類における代表的なアクセント型のみに注目しており、それ以外の用例の数を考慮しないことである。さらに、より詳しく共通語との接触によるアクセント変化のメカニズムを明らかにするためには、話者の年齢以外に様々な言語内的および言語外的（社会的）な要因の影響を検討する必要がある。このように複数の要因の影響度を判断することは重要な問題を抱えている。例えば、本調査のインフォーマントの平均年齢は、道央では 51 才、道東では 58 才である。そのため、地域間に共通語化の程度が異なるとしたら、その差が地域、それとも年齢の結果で現れたかを判断することが難しい。そのため、多変量の統計分析を用いて、それらの要因の相対的な影響を計算する。

6.1.2　分析方法

ロジスティック回帰という統計的手法を使って分析を行う。ロジスティック回帰は，他の要因の影響を考慮した上で，個々の要因の影響をより正確に割り出すことができる点で有用である (南部他, 2014)。先行研究では、このようなモデルは北海道方言のガ行鼻音の衰退過程 (南部他, 2014) や東京方言の形容詞アクセントにおける変化 (小林, 2003) を分析するために用いられている。

分析対象のデータは、以上で指摘した変化を受けている調査項目のみである。つまり、2 モーラ名詞 Ⅱ 類の全ての調査項目（10 個）および Ⅳ ・ Ⅴ 類の中から広母音で終わる調査項目（10 個）である。これらは表6.1で示す。

表6.1: 2 モーラ和語名詞アクセントの共通語化の統計分析に使われた調査項目

Ⅱ 類	冬、川、旗、梨、橋、町、石、紙、肘、胸
Ⅳ 類	味噌、空、糸、肩、舟、鎌
Ⅴ 類	窓、蜘蛛、雨、鮭

対象のインフォマントは 35 人、分析対象の用例は合計で 700 個がある。分析した要因グループは話者の生年の他に、語類（Ⅱ、Ⅳ ・ Ⅴ）[*1]、単語の親密度[*2]、話者のジェンダー（男、女）及び調査地域（道央、道東、道南、道北）とを仮定する。ロジスティック回帰は、目的変数（分析対象の変数）は 2 値変数でなければならない。しかし、2 モーラ語のアクセントの場合は、可能な値が 2 つ以上ある（⓪ 型、① 型、② 型）。そのため、高野 (2011) に従い、あるトークンは共通語と一致するかどうかを目的変数に設定した。

以上の主要因に加えて、要因間の交互作用[*3]を検討するため、主要因の交互作用項を含んだモデルも試した。AIC[*4]によるモデル選択を行い、モデルの当てはまりに改善しない交互作用をモデルから外した結果、有効な交互作用項はなかった。分析にあたって、統計解析環境 R(R Core Team, 2017) 上でロジスティック回帰を行う glm 機能を利用した。探索的な解析は、rbrul パッケージ (Johnson, 2009) を利用し、図は visreg パッケージは (Breheny and Burchett, 2013) によって作成した。

[*1] 同じアクセント型を有し、同じ方向に変化するため、Ⅳ 類と Ⅴ 類を一つの要因にまとめた

[*2] 調査語彙の親密度は、日本語語彙特性 (天野・近藤, 1999) から抜粋した。単語親密度とは, ある単語がどの程度なじみがあると感じられるかを表した指標である。これは単語親密度が高い単語であるほど、言語の話者がそれを認識するのが速いことを意味している。単語親密度は, ある単語を複数の人に見せたり聞かせたりして、そのなじみの程度を 1 から 7 までの数字（1：なじみがない – 7：なじみがある）で答えてもらい、その平均をとって求める。調査語彙においては、親密度の数値は 4.844（鎌）から 6.656（冬）までの範囲である。単語親密度単は単語使用頻度とかかわっているが、高密度の単語は必ずしも高頻度であると限らない。(寺田他, 2008)

[*3] 回帰における交互作用（interaction）とは、ある要因（説明変数）が目的変数に与える効果が、他の説明変数がどんな値をとるかによって異なることである。

[*4] 赤池情報量規準（Akaike Information Criterion）

6.1.3　分析結果

分析の結果は表6.2の通りである。各要因グループ（年齢、モーラ数など）の p 値を示す。p 値は、その要因グループによる効果がないという条件の下で、今回得られた結果が偶然に生じる可能性を示す尺度である。すなわち、p 値が小さいほど、その要因グループによる効果が単なる偶然とは考えにくいと言える。

カテゴリー型要因グループ（語類、ジェンダー、調査地域）の要因がどのように目的変数に影響を与えるかは、対数オッズで表す。対数オッズが正の数の場合には参照値（共通語と一致するアクセント）の出現を促す要因として作用していることになる。反対に負の数の場合には，共通語と一致するアクセントの出現を妨げる要因と解釈される。対数オッズが ±1 に近いほど、関連性が強いと言える。

連続型変数（年齢、親密度）の影響はロジスティック回帰係数で表されている。ロジスティック回帰係数は，当該要因が 1 単位増大したとき，参照値（共通語と一致するアクセント）のあり対なしの対数オッズがどれだけ増大するかを表している。カテゴリー型要因と応用に、正の数、参照値との相関関係があり、負の数であれば逆相関関係がある。

表6.2を見ると、$p < 0.05$ の水準で、話者のジェンダー以外の要因である話者の生年、調査地域、単語親密度および語類は共通語と一致するアクセントの出現率に統計的に有意な影響を与えると判断されたことが分かる。

言語外的要因

まず、他の要因の影響を考慮した分析においても、話者の年齢が共通語アクセントの出現に大きな影響を及ぼしていることが分かる。これは言語外的要因の中で最も重要な要因である。生年が新しくなるほど、共通語と一致するアクセントの出現率が高くなる。以上 5 章で述べたように、この傾向は進行中の言語変化を反映していると考えられる。

次に、調査地域によって共通語化の程度が異なることも分かった。道央と道東に比べて、道南と

道北の話者が共通語と一致するアクセントを生産する確率が低い。図6.1*[5]はこの要因と話者の年齢との関連性を表す。要するに、アクセントの共通語化は全地域で進んでいるため、生年が新しくなるほど、共通語と一致するアクセントの出現率が高くなる。ただし、与えられた年齢の話者に対して、道南・道北よりも、道央・道東の方がアクセントの共通語化の進歩が速いようである。

一方、話者のジェンダー（社会上の性別）は有意義な要因となっていない。男女による共通語アクセントと一致するアクセントの割合だけを見れば、女性の方が出現が率高く、これはTrudgill (1972) などで多く指摘された女性の標準形志向に照応している。しかし、$p < 0.05$ の水準で、共通語アクセントの出現率に有意な影響を与えなかったようで、調査結果における男女差が他の要因によって説明できると考えられる。

言語内的要因

言語内容的な要因として、調査語彙の語類が共通語と一致するアクセントの使用に有意義な影響を与えることが分かった。5 章の分析を裏付けて、Ⅳ・Ⅴ類よりⅡ類の方がアクセントの共通語化プロセスが進んでいることを示した。図6.2*[6]はこの要因と話者の年齢との関連性を表す。図を見ると、調査地域と同様に、話者の生年が新しくなるほど、共通語と一致するアクセントの出現率が高くなるが、与えられた年齢の話者に対して、Ⅱ類の方が共通語と一致するアクセントで発音される予測確率が高い。最後に、調査語彙の親密度が増えるとともに、共通語アクセントが現れる確率が増えていくことが分かった。

*[5] 図6.1は、ジェンダーを「女性」、「語類」を「Ⅱ類」、親密度を「6.024」（平均値）に設定した場合の予測確率を表すが、どの設定の組み合わせでも、類似したパターンを示す。

*[6] 図6.2は、ジェンダーを「女性」、「調査地域」を「道東」、親密度を「6.024」（平均値）に設定した場合の予測確率を表すが、どの設定の組み合わせでも、類似したパターンを示す。

表6.2: ロジスティック回帰分析の結果（2 モーラ名詞アクセントの共通語化）

要因グループ	p 値	要因	対数オッズ	例数（n）	全体の割合
話者の生年	6.33×10^{-33}		+1 = 0.0697		
語類	4.93×10^{-07}	第 II 類	0.453	350	0.657
		第 IV ・ V 類	-0.453	350	0.471
調査地域	1.90×10^{-04}	道東	0.542	220	0.636
		道央	0.181	160	0.669
		道南	-0.293	220	0.486
		道北	-0.430	100	0.410
単語親密度	0.034		+1 = 0.468		
有意義なし：ジェンダー (0.308)					
モデル情報					
自由度	y 切断	総合割合	逸脱度	AIC	R^2
8	0.288	0.564	759.102	775.102	0.343

図6.1: 共通語アクセント使用の予測確率（話者の年齢・調査地域）

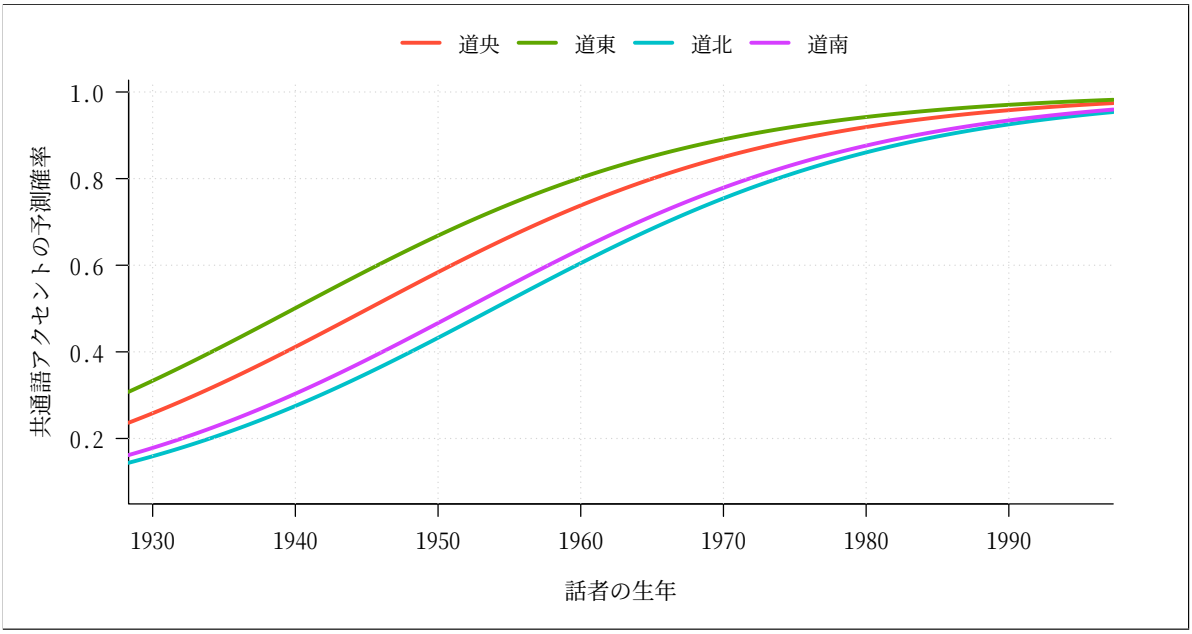
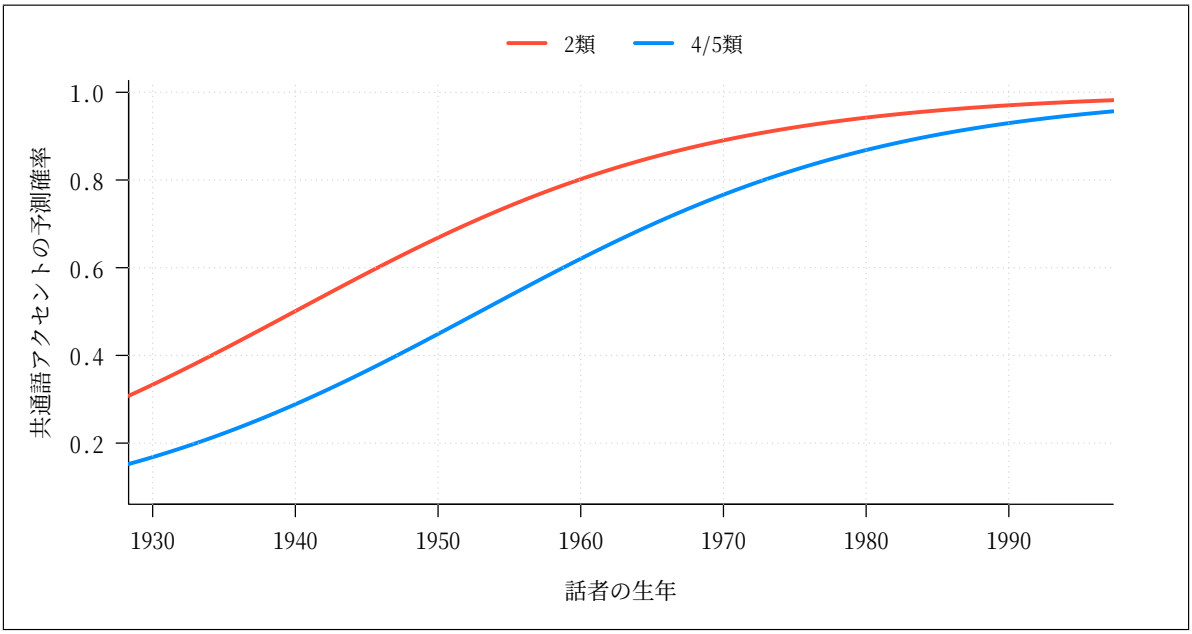


図6.2: 共通語アクセント使用の予測確率（話者の年齢・調査項目の語類）



6.1.4 考察

分析結果をまとめると、共通語アクセントは調査語彙の親密度が高いほど現れやすいことと、Ⅳ・Ⅴ類よりもⅡ類の方が共通語化が進んでいることが分かった。また、話者の属性に関しては、話者の年齢が共通語と一致するアクセントの出現と強く関連していることが確認できた。それに加えて、与えられた年齢に対して、道南・道北の話者よりも、道央・道東の話者の方が共通語と一致するアクセントを使う確率が高い。以下、この情報をもとにし、アクセント変化のメカニズムについて論じる。

言語内的要因

まず、語彙の親密度と共通語アクセントの出現確率の関連性は、共通語化というプロセスの性質を反映すると思われる。5 章で述べたように、北海道方言の話者がアクセントを取得した際、従来の北海道方言形のアクセントより、徐々に社会的な権威を持つ形式（共通語と一致するアクセント）の使用を好むようになってきたことが分かる。すなわち、共通語アクセントが北海道方言の話者に意識された状態で普及した（上からの変化、(Labov, 2001) など）。語彙の親密度（すなわち、意識している度合い）が高いほど権威を持つ形式を使う心理的な刺激が強いと思われる。

Ⅳ・Ⅴ類においてⅡ類よりアクセントの共通語化が遅れていることについて、考えられる理由として、類のそれぞれのアクセント変化プロセスと母音の関連性が挙げられる。4 章で述べたように、北海道方言では、広い母音がアクセント核を担う位置として好ましい。Ⅳ・Ⅴ類は、2 モーラ目の母音が狭いものは以前から共通語と一致している ① 型なので、共通語化の対象になる語彙は、2 モーラ目の母音が広いもののみである。これらの語のアクセント型は、② 型から ① 型に変わってきた。したがって、語の 1 モーラ目が狭母音で、2 モーラ目が広母音である場合は、*[7]は、アクセント核が音韻論的に比較的好ましい位置から好ましくない位置に移動することになる。このような「不自然」な移動はⅣ・Ⅴ類の相対的な「遅れ」に繋がったと思われる。

*[7] 味噌、糸、舟、蜘蛛など

言語外的要因

4 章では、北海道方言におけるアクセント変化を「接触変化」として描いた。このプロセスにおいて、北海道方言を対象にする先行研究は、テレビをはじめとするマスメディアによる接触を強調する傾向が認められる。例えば、尾崎 (1984) は「戦後、特にテレビが一般家庭に普及しはじめた頃から、アクセントの共通語化が全国各地で進んできているようである」と述べている。つまり、1950 年代後半以降生まれの話者がテレビから共通語を聞きながら育ち、共通語的な特徴を使用する傾向を示すとされている。

しかし、この問題を詳しく取り上げたOta and Takano (2014) が指摘しているように、日本の方言に関する文献において、テレビの普及と共通語化の関連性は前提として提示されていることが多い。実は、具体的な関連性を分析する研究がまだ少なく、その性質についてまだ不明な点が多い（p.175）。また、西洋の社会言語学文献において、テレビなどのマスコミは言語変化において最大でも従属的な役割を果たしていると見做されている (チェインバーズ, 2003)。それ故に、アクセントの共通語化プロセスを検討するには、マスメディア以外の要因も考慮する必要があると考えられる。

日本のテレビ放送は 1953 年に始まり、1960 年からテレビの普及率が急増してきた (井田, 2004)。ただし、この普及は日本社会における大幅な変革と同時に起きた。戦後の国内人口移動は、時に北海道への影響が大きかった。食料や石炭の増産に伴う労働者の受入れにより、北海道の人口は、飛躍的に増加していった (北海道庁, 2001)。入植者の支庁別内訳を見ると、上川支庁 (17.2%)、網走支庁 (11.9%)、十勝地方 (11.6%)、根室支庁 (9.2%) と特に道東地方が多かった (田端他, 2010)。道央の札幌市も、他地方からの人口流入によって、急激な増加をみせた。人口流入とともに、方言接触の機会も増えてきたと思える。石垣 (1983, p.382) はこの点について次のように述べている。「内陸には最近数十年の間に、本州各府県から多数の移民が入りこんだので、アクセントも全国各地のアクセントが移入された」。

本研究で記述したアクセントの共通語化プロセスに関して、多くの特徴は「テレビ説」と「接触説」のどちらとでも整合する。ただし、地域間の共通語アクセント使用率は、よりよく話者間の直接な接触によって説明されると考えられる。北海道のテレビ局は、北海道内全域で視聴可能にする事を前提として放送免許が与えられている。つまり、どの地域の話者でも、テレビに伝わる共通語

に触れる機会が同じである。それに対して、自分より社会的地位の高い話し方を使う相手に言葉を合わせる（アコモデーション、Trudgill (1986) などを参照されたい）機会は比較的移植者が集中していた道央・道東では多かったと思われる。

もちろん、この地域差はアクセント共通語化とマスメディアの関連性がないことを示す証拠と見るべきではない。例えば、Ota and Takano (2014) が北海道を含めて、日本の各地から事例を集め、共通語化におけるテレビの役割を解明した。しかし、この結果は、テレビの役割を前提として提示すべきではなく、歴史的な背景など、地域ごとの特徴を考慮することも重要であることを示す。

6.2 句頭音調

6.2.1 定量分析の目的

4 章では、北海道方言におけるアクセント句の音調実現は、句頭の 1 モーラ目から 2 モーラ目にかけてのピッチ上昇の有無として現れると述べた。ピッチ上昇の有無は、主に句頭語のアクセント型と語頭分節音によって左右されることがわかった（表6.3）。ここでは、それ以外の言語内的・外的な要因も考慮した定量分析を用いて、4 章で得られた結果を検証する。

表6.3: 北海道方言における句音調の振る舞い

上昇型のみ使う話者の場合				
	○○	○○が	○○ま] で	この○○
⓪（無声阻害音）	○ [○	○ [○が	○ [○ま] で	こ [の○○
⓪（共鳴音）	○ [○	○ [○が	○ [○ま] で	こ [の○○
①	○] ○	○] ○が	○] ○まで	こ [の○] ○
②	○ [○	○ [○] が	○ [○] まで	こ [の○○

非上昇型のみ使う話者の場合				
	○○	○○が	○○ま] で	この○○
⓪（無声阻害音）	○○	○○が	○○ま] で	この○○
⓪（共鳴音）	○ [○	○ [○が	○ [○ま] で	この○○
①	○] ○	○] ○が	○] ○まで	この○] ○
②	○ [○	○ [○] が	○ [○] まで	この○○]

6.2.2　分析方法

2 モーラ和語名詞と 3 モーラ和語名詞を対象に、収録したデータから句頭音節が無声化したり、助詞がフォーカスを担ったり、言いよどみがあったりしたため句頭音調が同定できなかった例を除外した。また、語頭にアクセント核がある語など上昇が聴覚的に感知できない場合が多いため、語頭核ではない例（⓪ 型、② 型、③ 型）のみを分析対象とした。その結果、分析対象の用例は合計で 2020 個ある。ある例が上昇調であるかどうかを目的変数に設定した。

言語内的な要因（説明変数）として、句頭語のアクセント型（2 モーラ語 ⓪ 型、2 モーラ語 ② 型、3 モーラ語 ⓪ 型、3 モーラ語 ② 型、3 モーラ語 ③ 型）、句頭語の語頭子音（無声阻害音、共鳴音、なし）、句頭語の第 2 子音（無声阻害音、有声阻害音、共鳴音）、句頭語の語頭モーラの母音（狭、中、

広)、句頭語の 2 モーラ目の母音（狭、中、広)、句頭語の親密度とを仮定する。言語外的な要因として話者の生年、ジェンダー（男・女）と調査地域（道央、道東、道南、道北）を仮定する。

以上の主要因に加えて、要因間の交互作用を検討するため、主要因の交互作用項を含んだモデルも試した。AIC によるモデル選択を行い、モデルの当てはまりに改善しない交互作用項をモデル外した。その結果、以上の主要因に加えて、「生年＊地域」の交互作用項を含んだモデルを選択した。分析にあたって、統計解析環境 R(R Core Team, 2017) 上でロジスティック回帰を行う glm 機能を利用した。探索的な解析は、rbrul パッケージ (Johnson, 2009) を利用し、図は visreg パッケージは (Breheny and Burchett, 2013) によって作成した。

6.2.3 分析結果

言語内的要因

分析の結果は表6.4の通りである。言語内的な要因の中で、最も有意となった要因は句頭語アクセントであった。語彙のモーラ数を問わず、有核の語が上昇調の出現を促すのに対して、無核語が上昇調の出現を妨げる。すなわち、無核語は上昇なしで具現する確率がより高い。

句頭語の分節音として、語頭子音の種類のみならず、より少ない程度に第 2 子音の種類も句頭の上昇の有無に有意義な影響を及ぼすことが分かった。語頭子音は、共鳴音から始まる語や子音がなく、母音から始まる語は、無声阻害音から始まる語に比べて上昇が現れる確率が高い。一方、2 モーラ目の子音は、無声阻害音が上昇の出現を促し、共鳴音及び有声阻害音が上昇の出現を妨げる要因である。語頭子音とアクセント型の効果は図6.3*[8]に示される。

最後に、句頭語の第 1 音節の母音も有意義な要因となった。p 値は他の要因グループに比べて高いが、要因の効果としては、広母音及び中母音が上昇調の出現を促し、狭母音が上昇調の出現を妨げると指摘されている。

*[8] 図6.3は、第 2 子音の種類を「共鳴音」、親密度を「6.249」（平均値)、ジェンダーを「女性」、調査地域を「道南」、語頭音節の母音を「広」、第 2 音節の母音を「狭」、生年を「1954」（平均値）に設定した場合の予測確率を表すが、どの設定の組み合わせでも、類似したパターンを示す。

言語外的要因

言語外的要因の中から、有意義となったのは、「調査地域＊生年」の交互作用項のみである。交互作用であるため、説明変数（要因）が目的変数に与える効果が、他の説明変数がどんな値をとるかによって異なる。この場合には、話者の生年が句頭上昇の出現に与える影響は、調査地によって異なる。この効果は、図6.4[*9]に示されている。道東と道央では、生年が新しくなるほど、句頭上昇の予測確率が高くなる傾向が明らかである。一方、道南と道北はそれぞれ句頭上昇が現れる確率が高い地域と低い地域であるものの、どちらの地域でも年齢と句頭上昇出現の関連性が薄い。道北の場合は、インフォーマントは全員 40 から 60 代であるため、それ以外の年齢での使用確率はあくまでも予測で、より必ずしも実態を表すわけではない。一方、道南の場合には、インフォーマントの年齢範囲も広く、全年齢層において句頭上昇を使う確率が比較的低い。

[*9] 図6.4は、語頭子音の種類を「無声阻害音」、第 2 子音の種類を「共鳴音」, 親密度を「6.024」（平均値）, ジェンダーを「女性」、アクセント型を「2 モーラ語 ⓪ 型」、語頭音節の母音を「広」、2 モーラ目の母音を「狭」に設定した場合の予測確率を表すが、どの設定の組み合わせでも、類似したパターンを示す。

表6.4: ロジスティック回帰分析の結果（句頭上昇の出現）

要因グループ	p 値	要因	対数オッズ	例数（n）	全体の割合
アクセント型	4.06×10^{-57}	2 モーラ語 ② 型	1.522	656	0.947
		3 モーラ語 ② 型	0.646	145	0.897
		3 モーラ語 ③ 型	0.437	228	0.895
		3 モーラ語 ⓪ 型	-1.068	469	0.695
		2 モーラ語 ⓪ 型	-1.537	522	0.621
調査地域＊生年	6.87×10^{-12}	道央	+1 = 0.18600		
		道東	+1 = 0.00275		
		道南	+1 = -0.07475		
		道北	+1 = -0.11400		
語頭子音	2.27×10^{-09}	なし	0.665	478	0.891
		共鳴音	-0.070	388	0.879
		無声阻害音	-0.595	1154	0.726
2 モーラ目の子音	4.13×10^{-04}	無声阻害音	0.3960	773	0.836
		有声阻害音	-0.0477	374	0.778
		共鳴音	-0.3483	873	0.765
語頭モーラの母音	0.0353	広	0.169	926	0.805
		中	0.083	331	0.743
		狭	-0.252	763	0.805
有意義なし：ジェンダー (p = 0.232), 親密度 (p = 0.436), 2 モーラ目の母音 (p = 0.751)					

モデル情報

自由度	y 切断	総合割合	逸脱度	AIC	R^2
22	3.175	0.795	759.102	1304.595	0.787

図6.3: 句頭上昇の予測確率（アクセント型・語頭子音の種類）

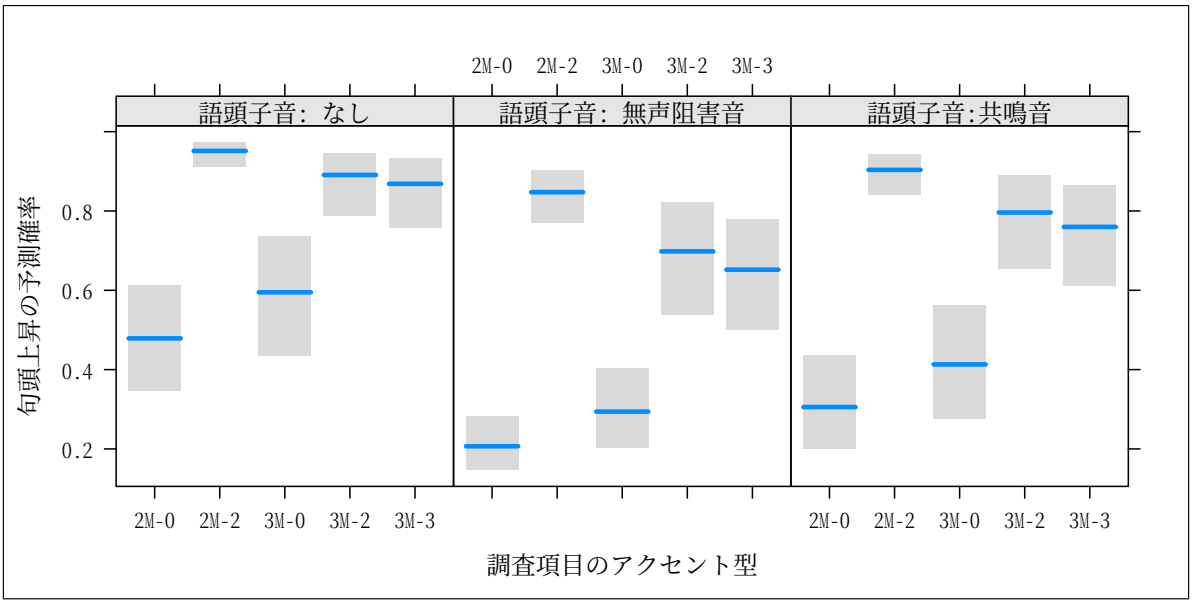
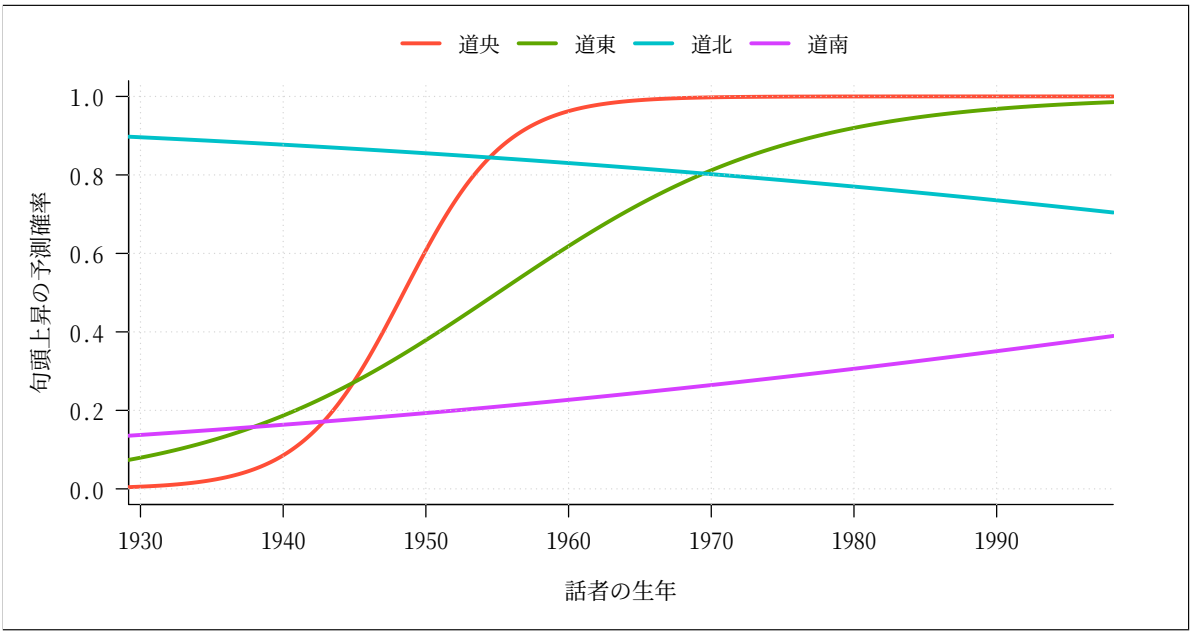


図6.4: 句頭上昇の予測確率（話者の年齢・調査地域）



6.2.4　考察

言語内的要因

分析の結果は、4 章の解釈を裏付けたと考えられる。つまり、(78)、(79) のように、無核語においては非上昇型の出現率が遥かに高く、その傾向は句頭語の語頭子音が無声阻害音の時にさらに強い。

(78)　(a) ハナガタカ] イ　（鼻が高い）

(b) ハ [ナ] ガサク　（花が咲く）

(79)　(a) カニガハ] ウ　（蟹が這う）

(b) エ [ビガタベラレ] ル（海老が食べられる）

統計分析の結果、句頭語のアクセント型と語頭子音に加えて、語頭モーラの母音と 2 モーラ目の子音も句頭上昇の有無に影響を与えることが指摘された。以下、この結果を総合的に踏まえて考察する。

第 4 章で述べたように、分節音が音声の F0（基本周波数）に影響を与えることが広く知られている。無声の阻害音は後続母音の F0 を高め、有声の阻害音は後続母音の F0 を低める傾向がある。北海道方言の場合は、子音が語頭の F0 を高め、2 モーラ目の F0 を下げると、語頭モーラと第 2 モーラの間のピッチ差が縮み、句頭上昇が具現しにくくなると思われる。

子音と同様に、母音の特性が F0 に作用があることが広く報告されている（Lehiste and Peterson (1961)、Ohala (1976) など）。一般に、母音の開口度が狭いほど F0 が高くなる傾向にあることが知られており、この現象は日本語を含めた様々な言語で確認されている (Whalen and Levitt, 1995)。この傾向は統計分析で得られた結果と整合的である。具体的に、語頭モーラがを狭母音を含む場合は、F0 が上がり、第 2 モーラとのピッチの差が小さくなるため、上昇の実現を妨げると思われる。

このように、本研究で明らかにした分節音と句頭上昇の関係は分節音のそれぞれの内在的特徴に照応している。しかし、なぜ分節音の影響がほとんど無核語のみで見られるかという疑問に答えることは重要である。考えられる理由として、アクセント核の役割を挙げたい。最初のアクセント核

を担うモーラは文の最も韻律的に顕著な部分であり、一般的に文の最もピッチが高い部分でもある。それ故に、句頭語が有核である場合は、アクセント核がピッチの「山」を生み出し、句頭の上昇を補強する。それに対して句頭語が無核の場合は、アクセント核を担うモーラを際立たせる必要はなく、分節音による F0 への影響を受けやすい。

言語外的要因

以上、句頭語の音声的な特性がいかに句頭上昇の出現に影響を与えるかを説明してみた。ただし、この音声的な特徴が他の方言でも存在するにもかかわらず、そのほとんどが非上昇型を示さない。また、北海道方言の中でも、常に上昇のみを使う話者もいる。これが示唆するのは、非上昇が単なる分節音による物理的な反応だけで解釈できないということである。むしろ、方言自体の特徴であり、その特徴を持つ話者のみで上記のメカニズムが働く。ひとつの解釈として、非上昇を示す話者では、句頭で指定されている音調がもともと小さいため、分節音の影響によってかき消されやすいという可能性が挙げられる。これは、斎藤 (2004) の「全国共通語のイントネーションの基本音調は前半高から、なだらかな下り型であるのに対して、北海道共通語は、全体ピッチ幅の狭い平板調で、文全体の音調としては「文頭抑え込み後あげ型」(p.1) という主張と一致する。しかし、このような説明を検証するためには、さらに詳しい音響分析などが必要であり、今後の課題にする。

もう一つの課題として、句頭の上昇・非上昇に対する意識がある。道東と道央では、生年が新しくなるほど、句頭上昇の予測確率が高くなるという傾向は、共通語化と一致するパターンである。このプロセスが共通語化であれば、句頭の上昇が社会的な権威を持つ形式として認められており、道東・道央の話者に意識された状態で普及したことを暗示する（上からの変化）。それに対して、全年齢層において句頭上昇を使う確率が比較的低い道南では、非上昇がこの地方の方言の'marker' (Labov, 1972) として認められていることになる。文法、分節音、などの面では道南の話者が伝統的な方言形式を保つ傾向は多く指摘されているので、句頭音調もこの傾向に沿っている可能性がある。

この点は本研究の短所の一つを浮き彫りにし、今後の研究への問題提起になると思われる。本研究では、話者が生成するアクセント形式のみに注目し、話者がどのようにこれらの形式を見做しているかを検討していない。ここで指摘した言語変化過程の全体像を理解するためには、「方言形式」や「共通語形式」などが北海道方言の話者にとってどのような社会的な意味・機能を持っているか

を解明しなければならない。また、高野 (2013) が述べているように、今日の比較的若い世代は明らかに二方言（共通語と方言形）併用能力に長けており，場面や状況，話者の社会心理（アイデンティティーなど）などと深く結びつきながらどちらかのコードが選択される (p.27)。今後は方言形のアクセント・音調を使う話者の心理や意図を分析する研究も行うと、より細かな分析が可能になると思われる。

第 7 章

結論

7.1　本論文のまとめ

本論文は、北海道方言のアクセント特徴を記述したものである。北海道の様々な地域で行ったアクセント調査の結果に基づいて、その特徴や実態について考察してきた。第 2 章では、先行研究による北海道方言の成立・下位分類・日本語諸方言の中での位置付けについて述べ、さらに本論文においての用語の捉え方について説明した。第 3 章では、本論文執筆のために行った現地調査について、インフォーマントの情報や、調査方法について確認した。

第 4 章では、調査で得たデータの例に基づいて、北海道方言アクセントの共時的特徴について次のようなことが明らかになった。すなわち、北海道方言アクセントは「式」の対立がない多形アクセントであり、弁別的な特徴はピッチの下降をもたらすアクセント核（下げ核）であることを確認した。また、単純和語名詞の場合は、アクセント核の有無と位置が恣意的であると考えられるが、複合名詞、外来語、動詞・形容詞の活用形などにおいては、アクセント核の有無と位置が規則によって予測できることを示した。概ね、これらのアクセント規則は全国共通語と一致するが、一部の外来語では、アクセント核の位置が共通語と比べて 1 つ右のモーラに現れることがわかった。また、動詞・形容詞の活用形において、アクセントの交替規則が必ずしも一定しているのではなく、ゆれもあることを示した。最後に、自発性を表す北海道方言の「ラサル」形式は、前接動詞の無核・有核を問わず、接尾辞の「サ」にアクセント核を有することを確認した。

アクセントの音声具現に関しては、アクセント句の頭部に現れるピッチパターンにおける多様性が確認できた。東京方言などで一般的である上昇型に加えて、句頭語の最初の 2 モーラが同じ高さで発音されるパターン（非上昇型）が見つかり、その要因について次のようなことが分かった。すなわち、非上昇型が無声阻害音から始まる無核語において現れやすいことが浮き彫りになり、音響学的な分析を用いて、さらに非上昇型の存在を支持する証拠を得た。

第 5 章では、北海道方言話者の間のアクセント変異について考察を行い、名詞・動詞・形容詞における通時的なアクセント変化の動態を捉えようとした。最もはっきりした変化プロセスは、2 モーラ和語において見られた。具体的には、第 Ⅱ 類の語彙が ⓪ 型から共通語と一致する ② 型に変化してきたことと、第 Ⅳ ・ Ⅴ 類における 2 モーラ目が広母音を含む語彙が ② 型から共通語と一致す

る ① 型に変化してきたことを示した。すなわち、各地で話者の年齢が低いほど全国共通語と一致するアクセント型を使用する傾向を示していることを指摘した。これは、共通語との接触による進行中の接触変化（共通語化）と解釈し、変化プロセスの段階を説明した。3 モーラ名詞に関して、全国共通語と比べて、② 型が比較的多いという特徴が認められた。語類とアクセント型の対応関係が明確ではないが、特定の語彙において明らかな共通語化傾向が見られた。

動詞では、終止形アクセントにおいて話者間のヴァリエーションが少なく、第 I 類と第 II 類の規範のアクセントが保たれて、特定の付属語がつく場合は、興味深いパターンを示した。すなわち、前接動詞のアクセントと関係なく、付属語のアクセントが実現することが多かった。結果として、これらの形式において I 類動詞と II 類動詞の間のアクセント対立が中和してしまう。この変化は、名詞アクセントの共通語化と異なり、他の方言でも平行に進んでいる、アクセント体系の単純化として解釈した。

形容詞アクセントも単純化傾向を示した。終止形では、第 I 類は規範の無核型と異なり、語幹の最後のモーラ（-①）にアクセント核を担う有核型となっていたため、第 I 類と第 II 類の対立がほぼ中和している。活用形アクセントでは、第 II 類の従来の語幹次末のモーラにアクセント核がくるパターンが衰退し、語幹末のモーラにアクセント核がくるパターンが優勢であった。つまり、終止形アクセントの同様に、語幹の最後のモーラにアクセント核が付与される傾向が強い。しかし、動詞・形容詞アクセントにおける変異は、話者の年齢との関連性を示さないため、通時的な方向性は判明できなかった。

第 6 章では、第 4 ・ 5 章の分析を補うため、２モーラ語の和語名詞のアクセント変化及び句頭音調の使用を定量的観点から分析してみた。その結果、名詞アクセントにおいて、アクセント変化対象の語類は異なるペースで共通語化していくことが分かった。また、年齢の他に、話者が住む地域も共通語化の進む具合に関わることが明らかになった。与えられた年齢の話者に対して、道南・道北よりも、道央・道東の方がアクセントの共通語化の進歩が速いようである。この差は、それぞれの地域の歴史的背景に由来する可能性を挙げた。

句頭音調の定量分析は、第４章の分析を裏付け、非上昇が無声阻害音から始まる無核語で現れやすいことが確認できた。それに加えて、語頭モーラの母音と２モーラ目の子音も句頭上昇の有無に

影響を与えることが指摘された。要するに、句頭語が無核語である場合は、分節音による F0 への影響が語頭モーラと第 2 モーラの間のピッチ差を縮め、上昇を具現しにくくすると思われる。

7.2　今後の課題

本論文では北海道方言のアクセント特徴について論じたが、まだ取り上げられていない課題もいくつか残っているといえる。まず、北海道方言におけるアクセント単位の音声具現に関して、いくつかの先行研究は「卓立調」の存在を報告した。しかし、本研究ではこのようなパターンが観察されなかった。地方共通語化・全国共通語化の流れで、そのパターンが衰退した可能性があるが、今回の調査方法が北海道方言の全体像を把握できなかったという可能性も否定できない。そのため、今後、本研究で採用した読み上げ形式に加えて、より自然な話し方を引き出せる方法も使う必要がある。

北海道方言のアクセントの通時的な発展について、動詞・形容詞のアクセントにおいて指摘した変異をどのように捉えればいいかがまだ不明である。名詞アクセントの共通語化と異なり、言語変化のプロセスを推測することが難しい。そのため、話者のアクセントを定期的に調べるパネル調査を行い、その変異の性質と方向性が明らかにすることが今後の課題である。それに加えて、本論文で分析した言語内外的要因を考慮しても、説明できない個人差が少ない。そのため、話者のアクセントの使い方のみならず、話者がどの視点で方言のアクセントを捉えているかを分析の射程とする研究を行えば、アクセントの使用を左右する要因のより細かな分析が可能になるだろう。

最後に、本論文は北海道方言のアクセント特徴を対象にして分析を行ったが、アクセント以外の韻律的特徴を記述する必要もある。例えば、フォーカス、文末イントネーション、文全体の韻律的振る舞いなどがまだ未確認である。今後、本論文の研究成果を踏まえ、これらの課題となった現象の明解に努める。

参考文献

Boersma, P and D Weenink (2007) "Praat: doing phonetics by computer (Version 4.5.)[Computer program]," *Retrieved from http://www.praat.org/*, Vol. 5, No. 9/10, pp. 341–345.

Breheny, Patrick and Woodrow Burchett (2013) "Visualization of Regression Models Using visreg."

Hirst, Daniel (2005) "get_pitch [Praat Script]," *Retrieved from https://uk.groups.yahoo.com/neo/groups/praat-users/conversations/topics/2130?l=1*.

Igarashi, Yosuke, Yukinori Takubo, Yuka Hayashi, and Tomoyuki Kubo (2011) "How many tonal constraints in Ikema Ryukyan?," in *17th International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS XVII)*, No. August, pp. 930–933.

Johnson, Daniel Ezra (2009) "Getting off the GoldVarb Standard: Introducing Rbrul for Mixed-Effects Variable Rule Analysis," *Language and Linguistics Compass*, Vol. 3, No. 1, pp. 359–383, jan.

Kawahara, Shigeto (2011) "The phonology of Japanese accent," in *The Handbook of Japanese Language and Linguistics: …*, Chap. 12, pp. 1–50.

Kitahara, M (2001) "Category structure and function of pitch accent in Tokyo Japanese," Ph.D. dissertation, Indiana University.

Kubozono, Haruo (2006) "Where does loanword prosody come from?: A case study of Japanese loanword accent," *Lingua*, Vol. 116, No. May 2004, pp. 1140–1170.

——— , Junko Ito, and Armin Mester (1997) "Nonfinality in Japanese Phonology," in *Proceedings of the 16th International Congress of Linguists*.

Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*, Vol. 2: University of Pennsylvania Press, pp.344.

——— (1978) *Sociolinguistic patterns*: Blackwell.

——— (2001) "How linguistic change happens," in *Principles of Linguistic Change*, Vol. iii: Blackwell, pp. 498 – 518.

Lehiste, Ilsa and Gordon E Peterson (1961) "Some basic considerations in the analysis of intonation," *The Journal of the Acoustical Society of America*, Vol. 33, No. 4, pp. 419–425.

Maekawa, Kikuo (1997) "Effects of Focus on Duration and Vowel Formant Frequency in Japanese," in Sagisaka, Yoshinori, Nick Campbell, and Norio Higuchi eds. *Computing Prosody: Computational Models for Processing Spontaneous Speech*, New York, NY: Springer US, pp. 129–153.

McCawley, J (1964) "The Accentual System of Standard Japanese," Ph.D. dissertation, Massachusetts Institute of Technology.

Ohala, John J. (1976) "Explaining the intrinsic pitch of vowels," *The Journal of the Acoustical Society of America*, Vol. 60, No. May 2014, p. S44.

Ota, Ichiro and Shoji Takano (2014) "The media influence on language change in Japanese sociolinguistic contexts," in Androutsopoulos, Jannis ed. *Mediatization and sociolinguistic change*: Walter de Gruyter, pp. 171–204.

Poser, WJ (1990) "Evidence for foot structure in Japanese," *Language*, Vol. 66, No. 1, pp. 78–105.

R Core Team (2017) *R: A Language and Environment for Statistical Computing*, R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria.

Sankoff, Gillian (2006) "Age: Apparent time and real time.," *Encyclopedia of Language and Linguistics. Oxford, UK: ...*, pp. 1–16.

Sasaki, Kan and Akie Yamazaki (2006) "Two types of detransitive constructions in the Hokkaido dialect of Japanese," in Abraham, Werner and Larisa Leisio eds. *Passivization and Typology: Form and function*, Amsterdam: John Benjamins, pp. 352–372.

Trudgill, Peter (1972) "Sex, covert prestige and linguistic change in the urban British English of Norwich," *Language in Society*, Vol. 1, No. 02, p. 179.

——— (1986) *Dialects in Contact*, Oxford: Blackwell, pp.174.

Uwano, Zendo (1999) "Classification of Japanese accent systems," in Kaji, Shigeki ed. *Proceedings*

of the Symposium Cross-linguistic Studies on Tonal Phenomena, Tonogenesis, Typology and Related Topics, Tokyo: ILCAA, pp. 151–178.

——— (2012) "Three types of accent kernels in Japanese," *Lingua*, Vol. 122, No. 13, pp. 1415–1440, oct.

Weinreich, U, W Labov, and M I Herzog (1968) *Empirical Foundations for a Theory of Language Change*: University of Texas Press.

Whalen, D. H. and Andrea G. Levitt (1995) "The universality of intrinsic F0 of vowels," *Journal of Phonetics*, Vol. 23, No. 3, pp. 349–366.

秋永一枝・金田一春彦 (2001a) 『新明解日本語アクセント辞典』，三省堂.

——— (2001b) 「東京アクセントの習得方法」，『新明解日本語アクセント辞典』，三省堂，東京.

天野成昭・近藤公久 (1999) 『NTT データベースシリーズ日本語の語彙特性』，三省堂.

李連珠 (2010) 「動詞活用形におけるアクセント交替規則」，上野善道（編）『日本語研究の 12 章』，明治書院，第 11 章，444 – 457 頁.

五十嵐三郎 (1982) 「日本共通語と北海道-共通語と文学」.

池田史子・玉岡賀津雄 (2013) 「山口方言の特殊モーラを含む語の産出におけるアクセント核の位置に関する世代間比較」.

石垣福雄 (1982) 「北海度沿岸部の方言」，飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学４ - 北海道・東北地方の方言』，国書刊行会，65–91 頁.

——— (1983) 『北海道方言辞典』，北海道新聞社.

井田美恵子 (2004) 「テレビと家族の 50 年" テレビ的" 一家団らんの変遷」，『NHK 放送文化研究所年報』，第 48 巻，111–144 頁.

上野善道 (1977) 「日本語のアクセント」，『音韻』，岩波書店，281–321 頁.

——— ・新田哲夫 (1983) 「金沢方言におけるアクセントと語音の関係」，『日本海文化』，第 10 号，p1–43 頁.

——— (1984) 「青森市のアクセント素の所属語彙–1 ～ 3 音節体言」，『日本海文化』，第 11 号，p1–42 頁.

——— (1989)「日本語のアクセント」, 杉藤美代子・宮地裕（編）『日本語の音声・音韻』, 明治書院.

——— (1992)「昇り核について」,『音聲學會會報』, 第 199 巻, 1–13 頁.

——— (1997)「複合名詞から見た日本語諸方言のアクセント」,『アクセント, イントネーション, リズムとポーズ』, 231–270 頁.

——— (2009)「通時的にしか説明できない共時アクセント現象 - 句頭の上昇と語音との関係」,『言語』, 第 38 巻, 第 2 号, 74–81 頁.

大塚惠子 (2008)「日本語方言アクセントの多様性–新潟市方言の外国地名と外来語のアクセントをめぐって」.

尾崎喜光 (1984)「札幌市のアクセント」,『北海道方言研究会会報』, 第 7 巻.

小野米一 (1974)「北海道方言研究史稿」,『北海道教育大学紀要. 第一部. A, 人文科学編』, 第 25 巻, 第 1 号, 26–40 頁.

——— (1980a)「北海道における標準語意識」,『国語教育研究』, 483–498 頁.

——— (1980b)「北海道奥尻島方言の研究」,『北海道教育大学紀要. 第一部. A, 人文科学編』, 第 30 巻, 第 2 号, 1–24 頁.

——— (1991)「北海道函館方言のアクセント」, 佐藤和之（編）『東日本の音声: 研究成果報告書』, 第 2 巻, 東北大学文学部.

——— (1992)「北海道根室方言のアクセント」,『北海道方言研究会会報』, 第 44 巻.

——— (1993)『北海道方言の研究』, 学芸図書.

——— (1997)「北海道の歴史と北海道方言の成立」, 平山輝男（編）『北海道のことば』, 明治書院.

——— (2001)『移住と言語変容ー北海道方言の形成と変容ー』, 渓水社.

川上蓁 (1961)「言葉の切れ目と音調」,『國學院雜誌』, 第 62 巻, 第 5 号, 67–75 頁.

木部暢子 (2008)「内的変化による方言の誕生」,『シリーズ方言学 1 方言の形成』, 岩波書店, 東京, 43–81 頁.

キャンベルニック (1997)「プラグマティック・イントネーション：韻律情報の機能的役割」,『文法と音声』, くろしお出版, 55–74 頁.

金田一春彦 (1973)『国語アクセントの歴史研究－原理と方法』, 塙書房.

——— (1975)『日本の方言: アクセントの変遷とその実相』，教育出版.

——— (1977)「アクセントの分布と変遷」，大野晋・柴田武（編）『方言』，岩波書店，144–157 頁.

国立国語研究所 (1965)『共通語化の過程: 北海道における親子三代のことば』，国立国語研究所報告，第 27 号，秀英出版.

——— ・江川清 (1997)『北海道における共通語化と言語生活の実態 (中間報告)』，国立国語研究所.

小林めぐみ (2003)「東京語における形容詞アクセントの変化とその要因」，『音声研究』，第 7 巻，第 2 号，101–113 頁.

斎藤昭夫 (2004)「北海道共通語の考察（９)―文末抑揚について―」，『北海道方言研究会報』，第 79 号.

——— ・白尾燿子 (2007)「北海道共通語の考察（１３)―形容詞・動詞のアクセントについて―」，『北海道方言研究会報』，第 84 号.

佐藤稔 (1982)「秋田県の方言」，飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学４ - 北海道・東北地方の方言』，国書刊行会，271–295 頁.

柴田武 (2003)「日本全土の方言」，『月刊言語』，第 32 巻，第 1 号，26–29 頁.

島田武・橋本邦彦・寺田昭夫・塩谷亨 (2013)「椴法華方言における「リ」の具現について―「リ」と「ル」の区別の消失と残存―」，『北海道言語文化研究』，第 11 号，3–8 頁.

杉藤美代子 (1983)「アクセントの「ゆれ」」，『日本語学』，第 2 巻，第 8 号，15–26 頁.

鈴木眞喜男 (1994)「北海道奥尻島方言のアクセントについて」，井上史雄・篠崎晃一・小林隆・大西拓一郎（編）『北海道方言考』，ゆまに書房.

高野照司 (2011)「札幌方言名詞アクセントの実時間研究～山鼻地区パネル調査第一次報告～」，『北海道方言研究会会報』，第 88 号，40–58 頁.

——— (2013)「北海道方言の共通語化・新方言の半世紀後の様相～実時間トレンド調査から読みとる変化のプロセスと変異の現況～」，『北星学園大学文学部北西論集』，第 44 巻，第 1 号，73–83 頁.

竹本拓也 (2010)「北海道帯広市方言のアクセント」，『方言・音声研究』，第 4 号，1–53 頁.

田中宣廣 (2005)『付属語アクセントからみた日本語アクセントの構造』，おうふう.

田中ゆかり (2010)『首都圏における言語動態の研究』，笠間書院.

田端宏・桑原真人・船津功・関口明 (2010)『北海道の歴史』，県史，第 1 号，山川出版社，第 2 版.

チェインバーズ，JK (2003)「テレビのせいで話し方がみんな似てきた」，Bauer, Laurie and Peter Trudgill eds.『言語学的にいえば・・・: ことばにまつわる「常識」をくつがえす』，研究社，第 15 章，186 – 198 頁.

寺田・博視・田中・久美子 (2008)「単語親密度と単語頻度の関係に関する一考察」，『言語処理学会第１４回年次退会発表論文集』.

徳川宗賢 (1978)「日本諸方言アクセントの系譜」，柴田武・加藤正信・徳川宗賢（編）『日本の言語学第 6 巻』，大修館書店，543–569 頁.

那須昭夫 (2014)「アクセントの世代差と対立の中和－長野県千曲市での臨地調査から－」.

南部智史・朝日祥之・相澤正夫 (2014)「ガ行鼻音の衰退過程とその要因について――札幌と富良野の言語調査データを利用して――」，『国立国語研究所論集』，第 7 巻，167–185 頁.

芳賀綏 (1961)「方言の実態と共通語化の問題点」，『方言学講座第 2 巻』，100–127 頁.

服部四郎 (1955)「音韻論から見た国語のアクセント」，『国語研究』，第 2 号，jan 月.

日高水穂 (2016)「方言と言語・標準語・生活語」，井上史雄・木部暢子（編）『はじめて学ぶ方言学: ことばの多様性をとらえる 28 章』，ミネルヴァ書房，第 1 章，11–18 頁.

平山輝男 (1953)「北海道方言の性格とその研究の意識」，『言語民俗論叢: 金田一博士古稀記念』，三省堂，5 – 18 頁.

――― (1957)『日本語音調の研究』，明治書院.

――― (1960)『全国アクセント辞典』，東京堂.

北条忠雄 (1982)「東北方言の概説」，飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学４ - 北海道・東北地方の方言』，国書刊行会，149–177 頁.

北海道新聞情報研究所 (1997)『北海道まるごと早わかり』，北海道新聞社.

北海道庁 (2001)「将来人口の推計にみる少子高齢化」，『２０２５年北海道のすがた』，第 1 章，4 – 26 頁.

北海道方言研究会 (1978)『共通語化の実態: 北海道増毛町における 3 地点全数調査』，北海道方言

研究会叢書，第 1 号，北海道方言研究会.

松浦年男 (2008)「長崎方言における語音調の音韻論」，博士論文，九州大学.

——— (2014)「日本語の複合語におけるアクセント移動は言語構造によるものか」,『日本言語学会第 148 回大会第』.

宮田幸一 (1927)「新しいアクセント観とアクセント表記」,『音声の研究』，第 1 号.

村上敬一 (2016)「共通語化」，井上史雄・木部暢子（編）『はじめて学ぶ方言学: ことばの多様性をとらえる 28 章』，ミネルヴァ書房，第 6 章，61–69 頁.

森下喜一 (1988)「年代別にみる秋田方言アクセント–1 ・ 2 音節語 (名詞) を中心に」,『岩手医科大学教養部研究年報』，第 23 号，p119–129 頁.

安田泰次郎 (1941)『北海道移民政策史』，生活社.

柳田國男 (1933)「北海道の方言」,『方言』，第 3 巻.

鑓水兼貴 (2009)「共通語化過程の計量的分析:『方言文法全国地図』を中心として」.

和田実 (1980)「辞のアクセント」，徳川宗賢（編）『アクセント』，有精堂出版.

付録 A

和語名詞のアクセント資料

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
戸	1モーラI類	5.188	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
蚊	1モーラI類	4.969	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
血	1モーラI類	5.094	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
日	1モーラII類	4.844	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
矢	1モーラII類	5.312	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
木	1モーラIII類	5.844	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
滝	2モーラI類	5.906	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
紐	2モーラI類	5.625	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
蜂	2モーラI類	5.469	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
蟹	2モーラI類	6.219	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
酒	2モーラI類	6.25	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
冬	2モーラII類	6.656	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
川	2モーラII類	6.375	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
旗	2モーラII類	5.656	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
梨	2モーラII類	6.062	ca30f	女	1983	札幌	2/0	2	Y	Y
橋	2モーラII類	5.906	ca30f	女	1983	札幌	2	0	N	Y
町	2モーラII類	6.219	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
石	2モーラII類	6.312	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
紙	2モーラII類	5.969	ca30f	女	1983	札幌	2	0	N	N/A
肘	2モーラII類	6.062	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
胸	２モーラ Ⅱ 類	5.938	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
山	２モーラ Ⅲ 類	6.375	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラ Ⅲ 類	5.688	ca30f	女	1983	札幌	2	0	N	Y
熊	２モーラ Ⅲ 類	6.188	ca30f	女	1983	札幌	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラ Ⅲ 類	6.438	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	N/A
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ca30f	女	1983	札幌	3/0(新)	0	Y	N/A
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ca30f	女	1983	札幌	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ca30f	女	1983	札幌	1/0(古)	0	Y	N/A
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	N/A
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ca30f	女	1983	札幌	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ca30f	女	1983	札幌	3	3	Y	N/A
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ca30f	女	1983	札幌	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	ca30f	女	1983	札幌	0	3	N	N
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	ca30f	女	1983	札幌	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
苺	3モーラ Ⅶ類	5.844	ca30f	女	1983	札幌	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ Ⅶ類	5.75	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	ca30f	女	1983	札幌	0	0	Y	Y
戸	1モーラⅠ類	5.188	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
蚊	1モーラⅠ類	4.969	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
血	1モーラⅠ類	5.094	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
日	1モーラⅡ類	4.844	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
矢	1モーラⅡ類	5.312	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
葉	1モーラⅡ類	4.625	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
木	1モーラⅢ類	5.844	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
牛	2モーラⅠ類	6.156	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
紐	2モーラⅠ類	5.625	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
蜂	2モーラⅠ類	5.469	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
蟹	2モーラⅠ類	6.219	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
酒	2モーラⅠ類	6.25	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
冬	2モーラⅡ類	6.656	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
川	2モーラⅡ類	6.375	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
旗	2モーラⅡ類	5.656	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
梨	2モーラⅡ類	6.062	cb33f	女	1980	札幌	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	cb33f	女	1980	札幌	2	0	N	N/A
町	2モーラⅡ類	6.219	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
石	２モーラⅡ類	6.312	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	cb33f	女	1980	札幌	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	cb33f	女	1980	札幌	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	cb33f	女	1980	札幌	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	cb33f	女	1980	札幌	2	0	N	Y
馬	２モーラⅢ類	6.344	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
海	２モーラⅣ類	6.312	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
箸	２モーラⅣ類	5.5	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
絹	２モーラⅣ類	5.969	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	cb33f	女	1980	札幌	1	2	N	Y
舟	２モーラⅣ類	6.156	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	cb33f	女	1980	札幌	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
猿	２モーラⅤ類	6	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラⅤ類	5.25	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
秋	２モーラⅤ類	6.406	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	N/A
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	cb33f	女	1980	札幌	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	cb33f	女	1980	札幌	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	cb33f	女	1980	札幌	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	cb33f	女	1980	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	cb33f	女	1980	札幌	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	cb33f	女	1980	札幌	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
背中	3モーラ VI 類	6.344	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
鼠	3モーラ VI 類	6.281	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
卵	3モーラ VII 類	6.5	cb33f	女	1980	札幌	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII 類	5.844	cb33f	女	1980	札幌	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ VII 類	5.75	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
鯨	3モーラ VII 類	6.281	cb33f	女	1980	札幌	0	0	Y	Y
戸	1モーラ I 類	5.188	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
蚊	1モーラ I 類	4.969	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N
血	1モーラ I 類	5.094	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
日	1モーラ II 類	4.844	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
矢	1モーラ II 類	5.312	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
葉	1モーラ II 類	4.625	cd62f	女	1951	札幌	0	1	N	N/A
木	1モーラ III 類	5.844	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
目	1モーラ III 類	6.344	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
酢	1モーラ III 類	5.594	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
海老	2モーラ I 類	6.469	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
滝	2モーラ I 類	5.906	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラ I 類	6.25	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
牛	2モーラ I 類	6.156	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
皿	2モーラ I 類	6.375	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N
紐	2モーラ I 類	5.625	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N
蜂	2モーラ I 類	5.469	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
蟹	2モーラ I 類	6.219	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N
酒	2モーラ I 類	6.25	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N
鼻	2モーラ I 類	6.312	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
冬	2モーラ II 類	6.656	cd62f	女	1951	札幌	2	0	N	N
川	2モーラ II 類	6.375	cd62f	女	1951	札幌	2	0	N	N
旗	2モーラ II 類	5.656	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
梨	２モーラⅡ類	6.062	cd62f	女	1951	札幌	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	cd62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	cd62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	cd62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	cd62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	cd62f	女	1951	札幌	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
舟	２モーラⅣ類	6.156	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
猿	２モーラ Ｖ 類	6	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ｖ 類	5.25	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ｖ 類	6.406	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ｖ 類	6.406	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ｖ 類	6.25	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ｖ 類	6.156	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ｖ 類	4.969	cd62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ｖ 類	6.469	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ｖ 類	5.812	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N/A
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	cd62f	女	1951	札幌	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	cd62f	女	1951	札幌	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	cd62f	女	1951	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	N/A
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	cd62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ｖ 類	6.125	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ｖ 類	6.031	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
油	３モーラ Ｖ 類	6.188	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
涙	3モーラ V類	6.312	cd62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
兎	3モーラ VI類	6.375	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
狐	3モーラ VI類	6.062	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
背中	3モーラ VI類	6.344	cd62f	女	1951	札幌	0	3	N	Y
鼠	3モーラ VI類	6.281	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
卵	3モーラ VII類	6.5	cd62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII類	5.844	cd62f	女	1951	札幌	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ VII類	5.75	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
鯨	3モーラ VII類	6.281	cd62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
戸	1モーラI類	5.188	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
蚊	1モーラI類	4.969	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
血	1モーラI類	5.094	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
日	1モーラII類	4.844	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
矢	1モーラII類	5.312	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
木	1モーラIII類	5.844	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
滝	2モーラI類	5.906	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
紐	2モーラI類	5.625	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
蟹	2モーラI類	6.219	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
酒	2モーラI類	6.25	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
冬	２モーラⅡ類	6.656	ce66f	女	1947	札幌	2	0	N	N
川	２モーラⅡ類	6.375	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	ce66f	女	1947	札幌	2	0	N	N
梨	２モーラⅡ類	6.062	ce66f	女	1947	札幌	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	ce66f	女	1947	札幌	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ce66f	女	1947	札幌	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	ce66f	女	1947	札幌	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	N
胸	２モーラⅡ類	5.938	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ce66f	女	1947	札幌	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	ce66f	女	1947	札幌	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ce66f	女	1947	札幌	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
箸	２モーラⅣ類	5.5	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	ce66f	女	1947	札幌	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	ce66f	女	1947	札幌	1	2	N	Y
舟	２モーラⅣ類	6.156	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ce66f	女	1947	札幌	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ce66f	女	1947	札幌	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ce66f	女	1947	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ce66f	女	1947	札幌	3	0	N	N
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ce66f	女	1947	札幌	3/0(新)	0	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ce66f	女	1947	札幌	3	2	N	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ce66f	女	1947	札幌	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ce66f	女	1947	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ce66f	女	1947	札幌	3	2	N	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ce66f	女	1947	札幌	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ce66f	女	1947	札幌	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ce66f	女	1947	札幌	3	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ce66f	女	1947	札幌	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ce66f	女	1947	札幌	0	2	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ce66f	女	1947	札幌	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	ce66f	女	1947	札幌	0	2	N	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	ce66f	女	1947	札幌	2	2	Y	N
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	ce66f	女	1947	札幌	0/1(?)	2	N	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	ce66f	女	1947	札幌	0	0	Y	N
戸	１モーラ Ⅰ類	5.188	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ類	4.969	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ類	5.094	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ類	4.844	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ類	5.312	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ類	4.625	ch62f	女	1951	札幌	0	1	N	N/A
木	１モーラ Ⅲ類	5.844	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ類	6.344	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ類	5.594	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ類	6.469	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ類	5.906	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N/A
烏賊	２モーラ Ⅰ類	6.25	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
牛	２モーラ Ⅰ類	6.156	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
皿	２モーラ Ⅰ類	6.375	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
紐	２モーラ Ⅰ類	5.625	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
蜂	２モーラ Ⅰ類	5.469	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
蟹	２モーラⅠ類	6.219	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	ch62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	N/A
梨	２モーラⅡ類	6.062	ch62f	女	1951	札幌	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	ch62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ch62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	ch62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ch62f	女	1951	札幌	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	ch62f	女	1951	札幌	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ch62f	女	1951	札幌	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ch62f	女	1951	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ch62f	女	1951	札幌	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ch62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ch62f	女	1951	札幌	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ch62f	女	1951	札幌	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ch62f	女	1951	札幌	3	2	N	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ch62f	女	1951	札幌	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ch62f	女	1951	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ch62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ch62f	女	1951	札幌	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ch62f	女	1951	札幌	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ch62f	女	1951	札幌	3	2	N	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ch62f	女	1951	札幌	0	2	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ch62f	女	1951	札幌	1	2	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	ch62f	女	1951	札幌	0	2	N	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	ch62f	女	1951	札幌	0	3	N	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	ch62f	女	1951	札幌	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	ch62f	女	1951	札幌	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	ch62f	女	1951	札幌	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ 類	6.344	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ 類	5.594	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ 類	6.469	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ 類	5.906	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	２モーラ Ⅰ 類	6.25	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	N/A
牛	２モーラ Ⅰ 類	6.156	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
皿	２モーラⅠ類	6.375	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
紐	２モーラⅠ類	5.625	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	N
蜂	２モーラⅠ類	5.469	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	ci59m	男	1954	札幌	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	N/A
紙	２モーラⅡ類	5.969	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ci59m	男	1954	札幌	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	ci59m	男	1954	札幌	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
馬	２モーラⅢ類	6.344	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ci59m	男	1954	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ci59m	男	1954	札幌	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ci59m	男	1954	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ci59m	男	1954	札幌	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ci59m	男	1954	札幌	3/0(新)	0	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ci59m	男	1954	札幌	3	2	N	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ci59m	男	1954	札幌	2/0(新)	0	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ci59m	男	1954	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ci59m	男	1954	札幌	3	2	N	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ci59m	男	1954	札幌	3	3	Y	N/A
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ci59m	男	1954	札幌	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ci59m	男	1954	札幌	3	2	N	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ci59m	男	1954	札幌	1	2	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	ci59m	男	1954	札幌	0	2	N	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	ci59m	男	1954	札幌	0	2	N	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	ci59m	男	1954	札幌	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	ci59m	男	1954	札幌	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	ci59m	男	1954	札幌	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ類	5.188	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ類	4.969	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ類	5.094	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ類	4.844	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ類	5.312	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ類	4.625	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ類	5.844	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ類	6.344	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ類	5.594	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ類	6.469	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
滝	２モーラⅠ類	5.906	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	２モーラⅠ類	6.25	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
牛	２モーラⅠ類	6.156	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
皿	２モーラⅠ類	6.375	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
紐	２モーラⅠ類	5.625	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
蜂	２モーラⅠ類	5.469	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	cj36f	女	1979	札幌	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	cj36f	女	1979	札幌	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	cj36f	女	1979	札幌	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	cj36f	女	1979	札幌	1	0	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	cj36f	女	1979	札幌	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	cj36f	女	1979	札幌	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	cj36f	女	1979	札幌	3	0	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	cj36f	女	1979	札幌	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	cj36f	女	1979	札幌	3	3	Y	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	cj36f	女	1979	札幌	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	cj36f	女	1979	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	cj36f	女	1979	札幌	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	cj36f	女	1979	札幌	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	cj36f	女	1979	札幌	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	cj36f	女	1979	札幌	3	2	N	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	cj36f	女	1979	札幌	1	2	N	N/A
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	cj36f	女	1979	札幌	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	cj36f	女	1979	札幌	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	cj36f	女	1979	札幌	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	cj36f	女	1979	札幌	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
目	1モーラ Ⅲ類	6.344	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
酢	1モーラ Ⅲ類	5.594	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
海老	2モーラ Ⅰ類	6.469	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
滝	2モーラ Ⅰ類	5.906	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラ Ⅰ類	6.25	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
牛	2モーラ Ⅰ類	6.156	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
皿	2モーラ Ⅰ類	6.375	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
紐	2モーラ Ⅰ類	5.625	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
蜂	2モーラ Ⅰ類	5.469	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
蟹	2モーラ Ⅰ類	6.219	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
酒	2モーラ Ⅰ類	6.25	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
鼻	2モーラ Ⅰ類	6.312	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
冬	2モーラ Ⅱ類	6.656	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
川	2モーラ Ⅱ類	6.375	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
旗	2モーラ Ⅱ類	5.656	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
梨	2モーラ Ⅱ類	6.062	ck26f	女	1989	札幌	2/0	2	Y	Y
橋	2モーラ Ⅱ類	5.906	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
町	2モーラ Ⅱ類	6.219	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
石	2モーラ Ⅱ類	6.312	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
紙	2モーラ Ⅱ類	5.969	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
肘	2モーラ Ⅱ類	6.062	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
胸	2モーラ Ⅱ類	5.938	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
山	2モーラ Ⅲ類	6.375	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
栗	2モーラ Ⅲ類	5.688	ck26f	女	1989	札幌	2	0	N	Y
熊	2モーラ Ⅲ類	6.188	ck26f	女	1989	札幌	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	2モーラ Ⅲ類	6.438	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
米	2モーラ Ⅲ類	6.5	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
耳	2モーラ Ⅲ類	6.531	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ck26f	女	1989	札幌	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
二つ	3モーラⅡ類	5.844	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
娘	3モーラⅡ類	6.344	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
小豆	3モーラⅡ類	6	ck26f	女	1989	札幌	3	0	N	Y
東	3モーラⅡ類	6.281	ck26f	女	1989	札幌	3/0(新)	0	Y	Y
力	3モーラⅢ類	6.062	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
小麦	3モーラⅢ類	5.812	ck26f	女	1989	札幌	2/0(新)	0	Y	Y
岬	3モーラⅢ類	5.562	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
黄金	3モーラⅢ類	4.719	ck26f	女	1989	札幌	1/0(古)	0	Y	Y
刀	3モーラⅣ類	5.906	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
男	3モーラⅣ類	6.438	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
鏡	3モーラⅣ類	6.344	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
頭	3モーラⅣ類	6.375	ck26f	女	1989	札幌	3	3	Y	Y
アワビ	3モーラⅤ類	6.125	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
枕	3モーラⅤ類	6.031	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
油	3モーラⅤ類	6.188	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
涙	3モーラⅤ類	6.312	ck26f	女	1989	札幌	1	1	Y	N/A
兎	3モーラⅥ類	6.375	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
狐	3モーラⅥ類	6.062	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
背中	3モーラⅥ類	6.344	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
鼠	3モーラⅥ類	6.281	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
卵	3モーラⅦ類	6.5	ck26f	女	1989	札幌	2	2	Y	Y
苺	3モーラⅦ類	5.844	ck26f	女	1989	札幌	0/1(?)	3	N	Y
辛子	3モーラⅦ類	5.75	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
鯨	3モーラⅦ類	6.281	ck26f	女	1989	札幌	0	0	Y	Y
戸	lモーラⅠ類	5.188	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
蚊	lモーラⅠ類	4.969	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
血	lモーラⅠ類	5.094	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
日	lモーラⅡ類	4.844	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
矢	1モーラII類	5.312	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
木	1モーラIII類	5.844	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラI類	5.906	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
紐	2モーラI類	5.625	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	N
蟹	2モーラI類	6.219	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
酒	2モーラI類	6.25	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラII類	6.656	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
川	2モーラII類	6.375	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
旗	2モーラII類	5.656	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
梨	2モーラII類	6.062	ea34f	女	1979	網走	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラII類	5.906	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
町	2モーラII類	6.219	ea34f	女	1979	網走	2	0	N	Y
石	2モーラII類	6.312	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
紙	2モーラII類	5.969	ea34f	女	1979	網走	2	0	N	Y
肘	2モーラII類	6.062	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
胸	2モーラII類	5.938	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
山	2モーラIII類	6.375	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
栗	2モーラIII類	5.688	ea34f	女	1979	網走	2	0	N	Y
熊	2モーラIII類	6.188	ea34f	女	1979	網走	2(新)/1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
犬	２モーラ Ⅲ 類	6.438	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	ea34f	女	1979	網走	1	2	N	Y
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	ea34f	女	1979	網走	1	2	N	Y
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ea34f	女	1979	網走	1	2	N	Y
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ea34f	女	1979	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ea34f	女	1979	網走	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ea34f	女	1979	網走	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
桜	３モーラⅠ類	6.406	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
煙	３モーラⅠ類	6.156	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
車	３モーラⅠ類	6.469	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
二つ	３モーラⅡ類	5.844	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラⅡ類	6.344	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラⅡ類	6	ea34f	女	1979	網走	3	0	N	Y
東	３モーラⅡ類	6.281	ea34f	女	1979	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラⅢ類	6.062	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラⅢ類	5.812	ea34f	女	1979	網走	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラⅢ類	5.562	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラⅢ類	4.719	ea34f	女	1979	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラⅣ類	5.906	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	Y
男	３モーラⅣ類	6.438	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	Y
頭	３モーラⅣ類	6.375	ea34f	女	1979	網走	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
枕	３モーラⅤ類	6.031	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
油	３モーラⅤ類	6.188	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
涙	３モーラⅤ類	6.312	ea34f	女	1979	網走	1	1	Y	N/A
兎	３モーラⅥ類	6.375	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
狐	３モーラⅥ類	6.062	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	N/A
背中	３モーラⅥ類	6.344	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
鼠	３モーラⅥ類	6.281	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
卵	３モーラⅦ類	6.5	ea34f	女	1979	網走	2	2	Y	Y
苺	３モーラⅦ類	5.844	ea34f	女	1979	網走	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラⅦ類	5.75	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
鯨	３モーラⅦ類	6.281	ea34f	女	1979	網走	0	0	Y	Y
戸	１モーラⅠ類	5.188	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
蚊	1モーラI類	4.969	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
血	1モーラI類	5.094	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
日	1モーラII類	4.844	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
矢	1モーラII類	5.312	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	eb15m	男	1998	網走	0	1	N	N/A
木	1モーラIII類	5.844	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラI類	5.906	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
紐	2モーラI類	5.625	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
蜂	2モーラI類	5.469	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラI類	6.219	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
酒	2モーラI類	6.25	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラII類	6.656	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
川	2モーラII類	6.375	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
旗	2モーラII類	5.656	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
梨	2モーラII類	6.062	eb15m	男	1998	網走	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラII類	5.906	eb15m	男	1998	網走	2	1	N	N/A
町	2モーラII類	6.219	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
石	2モーラII類	6.312	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
紙	2モーラII類	5.969	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
肘	2モーラII類	6.062	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
胸	2モーラII類	5.938	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
山	２モーラ Ⅲ 類	6.375	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラ Ⅲ 類	5.688	eb15m	男	1998	網走	2	0	N	Y
熊	２モーラ Ⅲ 類	6.188	eb15m	男	1998	網走	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラ Ⅲ 類	6.438	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	eb15m	男	1998	網走	1	0	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	eb15m	男	1998	網走	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	eb15m	男	1998	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	eb15m	男	1998	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	eb15m	男	1998	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	eb15m	男	1998	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	eb15m	男	1998	網走	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	eb15m	男	1998	網走	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	eb15m	男	1998	網走	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	eb15m	男	1998	網走	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	eb15m	男	1998	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	eb15m	男	1998	網走	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	eb15m	男	1998	網走	3	2	N	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	eb15m	男	1998	網走	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	eb15m	男	1998	網走	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	eb15m	男	1998	網走	0/1(?)	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
辛子	3モーラ Ⅶ類	5.75	eb15m	男	1998	網走	0	3	N	Y
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	eb15m	男	1998	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラⅠ類	5.188	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
蚊	1モーラⅠ類	4.969	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
血	1モーラⅠ類	5.094	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
日	1モーラⅡ類	4.844	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
矢	1モーラⅡ類	5.312	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラⅡ類	4.625	ec50f	女	1963	網走	0	1	N	N/A
木	1モーラⅢ類	5.844	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラⅠ類	6.156	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラⅠ類	6.219	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
酒	2モーラⅠ類	6.25	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラⅡ類	6.656	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
川	2モーラⅡ類	6.375	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
旗	2モーラⅡ類	5.656	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	N/A
梨	2モーラⅡ類	6.062	ec50f	女	1963	網走	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
町	2モーラⅡ類	6.219	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
石	2モーラⅡ類	6.312	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
紙	２モーラⅡ類	5.969	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ec50f	女	1963	網走	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	ec50f	女	1963	網走	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ec50f	女	1963	網走	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
箸	２モーラⅣ類	5.5	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
絹	２モーラⅣ類	5.969	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
舟	２モーラⅣ類	6.156	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	ec50f	女	1963	網走	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	ec50f	女	1963	網走	1	0	N	Y
猿	２モーラⅤ類	6	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラⅤ類	5.25	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
秋	２モーラⅤ類	6.406	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラⅤ類	6.406	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ec50f	女	1963	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ec50f	女	1963	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ec50f	女	1963	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ec50f	女	1963	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ec50f	女	1963	網走	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ec50f	女	1963	網走	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ec50f	女	1963	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ec50f	女	1963	網走	3	2	N	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ec50f	女	1963	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ec50f	女	1963	網走	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ec50f	女	1963	網走	3	2	N	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ec50f	女	1963	網走	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ec50f	女	1963	網走	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ec50f	女	1963	網走	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
鼠	3モーラ VI類	6.281	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	N
卵	3モーラ VII類	6.5	ec50f	女	1963	網走	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII類	5.844	ec50f	女	1963	網走	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ VII類	5.75	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
鯨	3モーラ VII類	6.281	ec50f	女	1963	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラI類	5.188	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
蚊	1モーラI類	4.969	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
血	1モーラI類	5.094	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
日	1モーラII類	4.844	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
矢	1モーラII類	5.312	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	ed69f	女	1954	網走	0	1	N	N/A
木	1モーラIII類	5.844	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
滝	2モーラI類	5.906	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
紐	2モーラI類	5.625	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラI類	6.219	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
酒	2モーラI類	6.25	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
鼻	2モーラI類	6.312	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラII類	6.656	ed69f	女	1954	網走	2	0	N	N
川	2モーラII類	6.375	ed69f	女	1954	網走	2	0	N	N
旗	2モーラII類	5.656	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
梨	2モーラII類	6.062	ed69f	女	1954	網走	2/0	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
橋	２モーラⅡ類	5.906	ed69f	女	1954	網走	2	0	N	N
町	２モーラⅡ類	6.219	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ed69f	女	1954	網走	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	ed69f	女	1954	網走	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ed69f	女	1954	網走	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	ed69f	女	1954	網走	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
馬	２モーラⅢ類	6.344	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	N
箸	２モーラⅣ類	5.5	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	N
舟	２モーラⅣ類	6.156	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	ed69f	女	1954	網走	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラⅤ類	6	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ed69f	女	1954	網走	1	0	N	N
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ed69f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N/A
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ed69f	女	1954	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ed69f	女	1954	網走	3	3	Y	N
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ed69f	女	1954	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ed69f	女	1954	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ed69f	女	1954	網走	3	0	N	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ed69f	女	1954	網走	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ed69f	女	1954	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ed69f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ed69f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ed69f	女	1954	網走	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ed69f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ed69f	女	1954	網走	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ed69f	女	1954	網走	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
兎	3モーラ VI類	6.375	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
狐	3モーラ VI類	6.062	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	N
背中	3モーラ VI類	6.344	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
鼠	3モーラ VI類	6.281	ed69f	女	1954	網走	0	3	N	Y
卵	3モーラ VII類	6.5	ed69f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII類	5.844	ed69f	女	1954	網走	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ VII類	5.75	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
鯨	3モーラ VII類	6.281	ed69f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラI類	5.188	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
蚊	1モーラI類	4.969	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
血	1モーラI類	5.094	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
日	1モーラII類	4.844	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
矢	1モーラII類	5.312	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
木	1モーラIII類	5.844	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラI類	5.906	ee58f	女	1955	網走	0	2	N	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
紐	2モーラI類	5.625	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラI類	6.219	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
酒	2モーラI類	6.25	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラII類	6.656	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
川	２モーラⅡ類	6.375	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	ee58f	女	1955	網走	2	0	N	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	ee58f	女	1955	網走	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ee58f	女	1955	網走	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ee58f	女	1955	網走	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	ee58f	女	1955	網走	2(新)/1	2	Y	N
犬	２モーラⅢ類	6.438	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
舟	２モーラⅣ類	6.156	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
針	２モーラⅣ類	5.906	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ee58f	女	1955	網走	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ee58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ee58f	女	1955	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ee58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ee58f	女	1955	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ee58f	女	1955	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ee58f	女	1955	網走	3	2	N	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ee58f	女	1955	網走	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ee58f	女	1955	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ee58f	女	1955	網走	3	0	N	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ee58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ee58f	女	1955	網走	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ee58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
枕	3モーラ V 類	6.031	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
油	3モーラ V 類	6.188	ee58f	女	1955	網走	0	3	N	Y
涙	3モーラ V 類	6.312	ee58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
兎	3モーラ VI 類	6.375	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
狐	3モーラ VI 類	6.062	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	N/A
背中	3モーラ VI 類	6.344	ee58f	女	1955	網走	0	2	N	Y
鼠	3モーラ VI 類	6.281	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
卵	3モーラ VII 類	6.5	ee58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII 類	5.844	ee58f	女	1955	網走	0/1(?)	2	N	Y
辛子	3モーラ VII 類	5.75	ee58f	女	1955	網走	0	3	N	Y
鯨	3モーラ VII 類	6.281	ee58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラ I 類	5.188	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
蚊	1モーラ I 類	4.969	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
血	1モーラ I 類	5.094	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
日	1モーラ II 類	4.844	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
矢	1モーラ II 類	5.312	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラ II 類	4.625	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
木	1モーラ III 類	5.844	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラ III 類	6.344	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラ III 類	5.594	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラ I 類	6.469	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラ I 類	5.906	ef58f	女	1955	網走	0	2	N	Y
烏賊	2モーラ I 類	6.25	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラ I 類	6.156	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
皿	2モーラ I 類	6.375	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
紐	2モーラ I 類	5.625	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
蜂	2モーラ I 類	5.469	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラ I 類	6.219	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
酒	２モーラⅠ類	6.25	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
鼻	２モーラⅠ類	6.312	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	ef58f	女	1955	網走	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ef58f	女	1955	網走	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	ef58f	女	1955	網走	2(新)/1	2	Y	N
犬	２モーラⅢ類	6.438	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	ef58f	女	1955	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
海	２モーラⅣ類	6.312	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
箸	２モーラⅣ類	5.5	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	ef58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ef58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ef58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ef58f	女	1955	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ef58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ef58f	女	1955	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ef58f	女	1955	網走	3/0(新)	3	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ef58f	女	1955	網走	3	2	N	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ef58f	女	1955	網走	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ef58f	女	1955	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ef58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ef58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
鏡	3モーラ Ⅳ 類	6.344	ef58f	女	1955	網走	3	2	N	Y
頭	3モーラ Ⅳ 類	6.375	ef58f	女	1955	網走	3	3	Y	Y
アワビ	3モーラ Ⅴ 類	6.125	ef58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
枕	3モーラ Ⅴ 類	6.031	ef58f	女	1955	網走	1	2	N	Y
油	3モーラ Ⅴ 類	6.188	ef58f	女	1955	網走	0	2	N	Y
涙	3モーラ Ⅴ 類	6.312	ef58f	女	1955	網走	1	1	Y	N/A
兎	3モーラ Ⅵ 類	6.375	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
狐	3モーラ Ⅵ 類	6.062	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N/A
背中	3モーラ Ⅵ 類	6.344	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
鼠	3モーラ Ⅵ 類	6.281	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
卵	3モーラ Ⅶ 類	6.5	ef58f	女	1955	網走	2	3	N	Y
苺	3モーラ Ⅶ 類	5.844	ef58f	女	1955	網走	0/1(?)	3	N	Y
辛子	3モーラ Ⅶ 類	5.75	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	N
鯨	3モーラ Ⅶ 類	6.281	ef58f	女	1955	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラ Ⅰ類	5.188	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
蚊	1モーラ Ⅰ類	4.969	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
血	1モーラ Ⅰ類	5.094	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
日	1モーラ Ⅱ類	4.844	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
矢	1モーラ Ⅱ類	5.312	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラ Ⅱ類	4.625	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
木	1モーラ Ⅲ類	5.844	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラ Ⅲ類	6.344	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラ Ⅲ類	5.594	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラ Ⅰ類	6.469	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラ Ⅰ類	5.906	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
烏賊	2モーラ Ⅰ類	6.25	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
牛	2モーラ Ⅰ類	6.156	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラ Ⅰ類	6.375	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
紐	２モーラⅠ類	5.625	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
蜂	２モーラⅠ類	5.469	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
酒	２モーラⅠ類	6.25	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N/A
鼻	２モーラⅠ類	6.312	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
冬	２モーラⅡ類	6.656	eg67m	男	1946	網走	2	0	N	N
川	２モーラⅡ類	6.375	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	N/A
梨	２モーラⅡ類	6.062	eg67m	男	1946	網走	2/0	0	Y	N
橋	２モーラⅡ類	5.906	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	eg67m	男	1946	網走	2	0	N	N
紙	２モーラⅡ類	5.969	eg67m	男	1946	網走	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	eg67m	男	1946	網走	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	eg67m	男	1946	網走	2(新)/1	2	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	N
耳	２モーラⅢ類	6.531	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	N
舌	２モーラⅢ類	5.562	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	N
靴	２モーラⅢ類	6.25	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	N
海	２モーラⅣ類	6.312	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	N
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N/A
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	eg67m	男	1946	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	eg67m	男	1946	網走	3	2	N	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	eg67m	男	1946	網走	3	0	N	N/A
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	eg67m	男	1946	網走	3/0(新)	0	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	eg67m	男	1946	網走	3	0	N	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	eg67m	男	1946	網走	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	eg67m	男	1946	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	eg67m	男	1946	網走	3	0	N	N
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	eg67m	男	1946	網走	3	1	N	N/A
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	eg67m	男	1946	網走	3	2	N	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	eg67m	男	1946	網走	3	0	N	N
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	N
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	eg67m	男	1946	網走	1	2	N	N
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	eg67m	男	1946	網走	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N/A
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	eg67m	男	1946	網走	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	eg67m	男	1946	網走	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	eg67m	男	1946	網走	0	2	N	N
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	eg67m	男	1946	網走	0	0	Y	N/A
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ 類	6.344	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ 類	5.594	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ 類	6.469	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ 類	5.906	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
烏賊	２モーラⅠ類	6.25	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
牛	２モーラⅠ類	6.156	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
皿	２モーラⅠ類	6.375	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
紐	２モーラⅠ類	5.625	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
蜂	２モーラⅠ類	5.469	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N/A
蟹	２モーラⅠ類	6.219	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
酒	２モーラⅠ類	6.25	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N/A
鼻	２モーラⅠ類	6.312	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
冬	２モーラⅡ類	6.656	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	N
川	２モーラⅡ類	6.375	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	N
旗	２モーラⅡ類	5.656	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	N/A
梨	２モーラⅡ類	6.062	eh69m	男	1944	網走	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	N/A
町	２モーラⅡ類	6.219	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	N
山	２モーラⅢ類	6.375	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	eh69m	男	1944	網走	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	eh69m	男	1944	網走	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	N
耳	２モーラⅢ類	6.531	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	N
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	eh69m	男	1944	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	eh69m	男	1944	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	eh69m	男	1944	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	eh69m	男	1944	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	eh69m	男	1944	網走	3/0(新)	3	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
力	3モーラ Ⅲ類	6.062	eh69m	男	1944	網走	3	0	N	Y
小麦	3モーラ Ⅲ類	5.812	eh69m	男	1944	網走	2/0(新)	0	Y	N
岬	3モーラ Ⅲ類	5.562	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
黄金	3モーラ Ⅲ類	4.719	eh69m	男	1944	網走	1/0(古)	0	Y	N
刀	3モーラ Ⅳ類	5.906	eh69m	男	1944	網走	3	3	Y	Y
男	3モーラ Ⅳ類	6.438	eh69m	男	1944	網走	3	3	Y	Y
鏡	3モーラ Ⅳ類	6.344	eh69m	男	1944	網走	3	3	Y	Y
頭	3モーラ Ⅳ類	6.375	eh69m	男	1944	網走	3	3	Y	Y
アワビ	3モーラ Ⅴ類	6.125	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
枕	3モーラ Ⅴ類	6.031	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
油	3モーラ Ⅴ類	6.188	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
涙	3モーラ Ⅴ類	6.312	eh69m	男	1944	網走	1	2	N	Y
兎	3モーラ Ⅵ類	6.375	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
狐	3モーラ Ⅵ類	6.062	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N/A
背中	3モーラ Ⅵ類	6.344	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
鼠	3モーラ Ⅵ類	6.281	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	N
卵	3モーラ Ⅶ類	6.5	eh69m	男	1944	網走	2	2	Y	Y
苺	3モーラ Ⅶ類	5.844	eh69m	男	1944	網走	0/1(?)	2	N	Y
辛子	3モーラ Ⅶ類	5.75	eh69m	男	1944	網走	0	3	N	Y
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	eh69m	男	1944	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラ Ⅰ類	5.188	ej61m	男	1952	網走	0	1	N	N/A
蚊	1モーラ Ⅰ類	4.969	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N
血	1モーラ Ⅰ類	5.094	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
日	1モーラ Ⅱ類	4.844	ej61m	男	1952	網走	0	1	N	N/A
矢	1モーラ Ⅱ類	5.312	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラ Ⅱ類	4.625	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
木	1モーラ Ⅲ類	5.844	ej61m	男	1952	網走	1	0	N	N
目	1モーラ Ⅲ類	6.344	ej61m	男	1952	網走	1	0	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
酢	1モーラⅢ類	5.594	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラⅠ類	6.156	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N/A
皿	2モーラⅠ類	6.375	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	ej61m	男	1952	網走	0	2	N	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	ej61m	男	1952	網走	0	2	N	N/A
蟹	2モーラⅠ類	6.219	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N
酒	2モーラⅠ類	6.25	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N
冬	2モーラⅡ類	6.656	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	N
川	2モーラⅡ類	6.375	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	N
旗	2モーラⅡ類	5.656	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	N/A
梨	2モーラⅡ類	6.062	ej61m	男	1952	網走	2/0	2	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	Y
町	2モーラⅡ類	6.219	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	Y
石	2モーラⅡ類	6.312	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	Y
紙	2モーラⅡ類	5.969	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	N
肘	2モーラⅡ類	6.062	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	N
胸	2モーラⅡ類	5.938	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	Y
山	2モーラⅢ類	6.375	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	Y
栗	2モーラⅢ類	5.688	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	N
熊	2モーラⅢ類	6.188	ej61m	男	1952	網走	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	2モーラⅢ類	6.438	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	Y
米	2モーラⅢ類	6.5	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	Y
耳	2モーラⅢ類	6.531	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	Y
舌	2モーラⅢ類	5.562	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	N
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	ej61m	男	1952	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ej61m	男	1952	網走	1	0	N	Y
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ej61m	男	1952	網走	1	0	N	N
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N/A
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ej61m	男	1952	網走	3	3	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
娘	３モーラⅡ類	6.344	ej61m	男	1952	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラⅡ類	6	ej61m	男	1952	網走	3	0	N	Y
東	３モーラⅡ類	6.281	ej61m	男	1952	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラⅢ類	6.062	ej61m	男	1952	網走	3	0	N	N
小麦	３モーラⅢ類	5.812	ej61m	男	1952	網走	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラⅢ類	5.562	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラⅢ類	4.719	ej61m	男	1952	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラⅣ類	5.906	ej61m	男	1952	網走	3	0	N	N/A
男	３モーラⅣ類	6.438	ej61m	男	1952	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	ej61m	男	1952	網走	3	3	Y	N
頭	３モーラⅣ類	6.375	ej61m	男	1952	網走	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	ej61m	男	1952	網走	1	2	N	Y
枕	３モーラⅤ類	6.031	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
油	３モーラⅤ類	6.188	ej61m	男	1952	網走	0	3	N	Y
涙	３モーラⅤ類	6.312	ej61m	男	1952	網走	1	1	Y	N/A
兎	３モーラⅥ類	6.375	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N
狐	３モーラⅥ類	6.062	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	N/A
背中	３モーラⅥ類	6.344	ej61m	男	1952	網走	0	3	N	Y
鼠	３モーラⅥ類	6.281	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
卵	３モーラⅦ類	6.5	ej61m	男	1952	網走	2	0	N	Y
苺	３モーラⅦ類	5.844	ej61m	男	1952	網走	0/1(?)	2	N	Y
辛子	３モーラⅦ類	5.75	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
鯨	３モーラⅦ類	6.281	ej61m	男	1952	網走	0	0	Y	Y
戸	１モーラⅠ類	5.188	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
蚊	１モーラⅠ類	4.969	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
血	１モーラⅠ類	5.094	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
日	１モーラⅡ類	4.844	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
矢	１モーラⅡ類	5.312	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
葉	1モーラⅡ類	4.625	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
木	1モーラⅢ類	5.844	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	ek59f	女	1954	網走	1	0	N	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラⅠ類	6.156	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラⅠ類	6.219	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
酒	2モーラⅠ類	6.25	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラⅡ類	6.656	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
川	2モーラⅡ類	6.375	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
旗	2モーラⅡ類	5.656	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
梨	2モーラⅡ類	6.062	ek59f	女	1954	網走	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
町	2モーラⅡ類	6.219	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
石	2モーラⅡ類	6.312	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
紙	2モーラⅡ類	5.969	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
肘	2モーラⅡ類	6.062	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
胸	2モーラⅡ類	5.938	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
山	2モーラⅢ類	6.375	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
栗	2モーラⅢ類	5.688	ek59f	女	1954	網走	2	0	N	N
熊	2モーラⅢ類	6.188	ek59f	女	1954	網走	2(新)/1	2	Y	Y
犬	2モーラⅢ類	6.438	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ek59f	女	1954	網走	1	0	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
煙	３モーラⅠ類	6.156	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
車	３モーラⅠ類	6.469	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
二つ	３モーラⅡ類	5.844	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラⅡ類	6.344	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラⅡ類	6	ek59f	女	1954	網走	3	0	N	Y
東	３モーラⅡ類	6.281	ek59f	女	1954	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラⅢ類	6.062	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
小麦	３モーラⅢ類	5.812	ek59f	女	1954	網走	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラⅢ類	5.562	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラⅢ類	4.719	ek59f	女	1954	網走	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラⅣ類	5.906	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
男	３モーラⅣ類	6.438	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
頭	３モーラⅣ類	6.375	ek59f	女	1954	網走	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
枕	３モーラⅤ類	6.031	ek59f	女	1954	網走	1	2	N	Y
油	３モーラⅤ類	6.188	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
涙	３モーラⅤ類	6.312	ek59f	女	1954	網走	1	1	Y	N/A
兎	３モーラⅥ類	6.375	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
狐	３モーラⅥ類	6.062	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N/A
背中	３モーラⅥ類	6.344	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
鼠	３モーラⅥ類	6.281	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
卵	３モーラⅦ類	6.5	ek59f	女	1954	網走	2	2	Y	Y
苺	３モーラⅦ類	5.844	ek59f	女	1954	網走	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラⅦ類	5.75	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	Y
鯨	３モーラⅦ類	6.281	ek59f	女	1954	網走	0	0	Y	N
戸	１モーラⅠ類	5.188	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N
蚊	１モーラⅠ類	4.969	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
血	1モーラⅠ類	5.094	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N
日	1モーラⅡ類	4.844	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N
矢	1モーラⅡ類	5.312	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
葉	1モーラⅡ類	4.625	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N
木	1モーラⅢ類	5.844	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
牛	2モーラⅠ類	6.156	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
紐	2モーラⅠ類	5.625	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
蟹	2モーラⅠ類	6.219	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
酒	2モーラⅠ類	6.25	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
冬	2モーラⅡ類	6.656	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
川	2モーラⅡ類	6.375	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
旗	2モーラⅡ類	5.656	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
梨	2モーラⅡ類	6.062	el60f	女	1953	網走	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
町	2モーラⅡ類	6.219	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
石	2モーラⅡ類	6.312	el60f	女	1953	網走	2	0	N	Y
紙	2モーラⅡ類	5.969	el60f	女	1953	網走	2	0	N	Y
肘	2モーラⅡ類	6.062	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
胸	2モーラⅡ類	5.938	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
山	2モーラⅢ類	6.375	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
栗	２モーラ Ⅲ 類	5.688	el60f	女	1953	網走	2	0	N	N
熊	２モーラ Ⅲ 類	6.188	el60f	女	1953	網走	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラ Ⅲ 類	6.438	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	N/A
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	el60f	女	1953	網走	1	2	N	N
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	el60f	女	1953	網走	1	2	N	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	el60f	女	1953	網走	1	0	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	el60f	女	1953	網走	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	el60f	女	1953	網走	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	el60f	女	1953	網走	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	el60f	女	1953	網走	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	el60f	女	1953	網走	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	el60f	女	1953	網走	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	el60f	女	1953	網走	1	3	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	el60f	女	1953	網走	1	2	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	el60f	女	1953	網走	0	2	N	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	el60f	女	1953	網走	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	el60f	女	1953	網走	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	el60f	女	1953	網走	0	0	Y	Y
戸	1モーラⅠ類	5.188	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
蚊	1モーラⅠ類	4.969	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
血	1モーラⅠ類	5.094	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
日	1モーラⅡ類	4.844	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
矢	1モーラⅡ類	5.312	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
葉	1モーラⅡ類	4.625	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
木	1モーラⅢ類	5.844	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
滝	2モーラⅠ類	5.906	fa86f	女	1929	古平	0	1	N	N
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
牛	2モーラⅠ類	6.156	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
皿	2モーラⅠ類	6.375	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
蟹	2モーラⅠ類	6.219	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
酒	2モーラⅠ類	6.25	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N/A
鼻	2モーラⅠ類	6.312	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
冬	2モーラⅡ類	6.656	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
川	2モーラⅡ類	6.375	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
旗	2モーラⅡ類	5.656	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
梨	2モーラⅡ類	6.062	fa86f	女	1929	古平	2/0	0	Y	N
橋	2モーラⅡ類	5.906	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
町	2モーラⅡ類	6.219	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
石	2モーラⅡ類	6.312	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
紙	2モーラⅡ類	5.969	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
肘	２モーラⅡ類	6.062	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
胸	２モーラⅡ類	5.938	fa86f	女	1929	古平	2	0	N	N
山	２モーラⅢ類	6.375	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	N
栗	２モーラⅢ類	5.688	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	fa86f	女	1929	古平	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
馬	２モーラⅢ類	6.344	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
舟	２モーラⅣ類	6.156	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
針	２モーラⅣ類	5.906	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	N
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
猿	２モーラⅤ類	6	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
眉	２モーラⅤ類	5.25	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
秋	２モーラⅤ類	6.406	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
窓	２モーラⅤ類	6.406	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
蛇	２モーラⅤ類	6.25	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	fa86f	女	1929	古平	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	fa86f	女	1929	古平	1	1	Y	Y
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	fa86f	女	1929	古平	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	fa86f	女	1929	古平	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	fa86f	女	1929	古平	3	0	N	N
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	fa86f	女	1929	古平	3	3	Y	N
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	fa86f	女	1929	古平	3/0(新)	3	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	fa86f	女	1929	古平	3	0	N	N
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	fa86f	女	1929	古平	2/0(新)	2	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	fa86f	女	1929	古平	0	2	N	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	fa86f	女	1929	古平	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	fa86f	女	1929	古平	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	fa86f	女	1929	古平	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	fa86f	女	1929	古平	3	3	Y	N
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	fa86f	女	1929	古平	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	fa86f	女	1929	古平	1	0	N	N
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	fa86f	女	1929	古平	1	3	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	fa86f	女	1929	古平	0	3	N	N
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	fa86f	女	1929	古平	1	3	N	N
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	fa86f	女	1929	古平	0	2	N	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	fa86f	女	1929	古平	0	2	N	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	fa86f	女	1929	古平	0	2	N	N
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	fa86f	女	1929	古平	0	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
卵	3モーラ Ⅶ類	6.5	fa86f	女	1929	古平	2	2	Y	Y
苺	3モーラ Ⅶ類	5.844	fa86f	女	1929	古平	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	3モーラ Ⅶ類	5.75	fa86f	女	1929	古平	0	2	N	N
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	fa86f	女	1929	古平	0	1	N	N/A
戸	1モーラⅠ類	5.188	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
蚊	1モーラⅠ類	4.969	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
血	1モーラⅠ類	5.094	fb80f	女	1933	古平	0	1	N	N/A
日	1モーラⅡ類	4.844	fb80f	女	1933	古平	0	1	N	N/A
矢	1モーラⅡ類	5.312	fb80f	女	1933	古平	1	0	N	N
葉	1モーラⅡ類	4.625	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N/A
木	1モーラⅢ類	5.844	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	fb80f	女	1933	古平	1	0	N	N
酢	1モーラⅢ類	5.594	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
滝	2モーラⅠ類	5.906	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
牛	2モーラⅠ類	6.156	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
蟹	2モーラⅠ類	6.219	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
酒	2モーラⅠ類	6.25	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
鼻	2モーラⅠ類	6.312	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
冬	2モーラⅡ類	6.656	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
川	2モーラⅡ類	6.375	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
旗	2モーラⅡ類	5.656	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
梨	2モーラⅡ類	6.062	fb80f	女	1933	古平	2/0	0	Y	N
橋	2モーラⅡ類	5.906	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
町	２モーラⅡ類	6.219	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
石	２モーラⅡ類	6.312	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
紙	２モーラⅡ類	5.969	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	N
胸	２モーラⅡ類	5.938	fb80f	女	1933	古平	2	0	N	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	fb80f	女	1933	古平	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	N
海	２モーラⅣ類	6.312	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	N
舟	２モーラⅣ類	6.156	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	Y
針	２モーラⅣ類	5.906	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	N
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
猿	２モーラⅤ類	6	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
眉	２モーラⅤ類	5.25	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	N
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	fb80f	女	1933	古平	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	fb80f	女	1933	古平	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	fb80f	女	1933	古平	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	fb80f	女	1933	古平	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	fb80f	女	1933	古平	3	0	N	N
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	fb80f	女	1933	古平	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	fb80f	女	1933	古平	3/0(新)	3	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	fb80f	女	1933	古平	3	0	N	N
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	fb80f	女	1933	古平	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	fb80f	女	1933	古平	0	2	N	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	fb80f	女	1933	古平	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	fb80f	女	1933	古平	3	0	N	N
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	fb80f	女	1933	古平	3	3	Y	N/A
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	fb80f	女	1933	古平	3	3	Y	N
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	fb80f	女	1933	古平	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	fb80f	女	1933	古平	1	0	N	N
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	fb80f	女	1933	古平	1	3	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	fb80f	女	1933	古平	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	fb80f	女	1933	古平	1	3	N	N
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	fb80f	女	1933	古平	0	3	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
狐	3モーラ VI 類	6.062	fb80f	女	1933	古平	0	2	N	N
背中	3モーラ VI 類	6.344	fb80f	女	1933	古平	0	2	N	N
鼠	3モーラ VI 類	6.281	fb80f	女	1933	古平	0	2	N	Y
卵	3モーラ VII 類	6.5	fb80f	女	1933	古平	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII 類	5.844	fb80f	女	1933	古平	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	3モーラ VII 類	5.75	fb80f	女	1933	古平	0	3	N	Y
鯨	3モーラ VII 類	6.281	fb80f	女	1933	古平	0	1	N	N/A
戸	1モーラ I 類	5.188	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
蚊	1モーラ I 類	4.969	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
血	1モーラ I 類	5.094	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
日	1モーラ II 類	4.844	fc80f	女	1937	古平	0	1	N	N/A
矢	1モーラ II 類	5.312	fc80f	女	1937	古平	1	0	N	N
葉	1モーラ II 類	4.625	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N/A
木	1モーラ III 類	5.844	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
目	1モーラ III 類	6.344	fc80f	女	1937	古平	1	0	N	N
酢	1モーラ III 類	5.594	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
海老	2モーラ I 類	6.469	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
滝	2モーラ I 類	5.906	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
烏賊	2モーラ I 類	6.25	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
牛	2モーラ I 類	6.156	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	Y
皿	2モーラ I 類	6.375	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
紐	2モーラ I 類	5.625	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
蜂	2モーラ I 類	5.469	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
蟹	2モーラ I 類	6.219	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	Y
酒	2モーラ I 類	6.25	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
鼻	2モーラ I 類	6.312	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
冬	2モーラ II 類	6.656	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
川	2モーラ II 類	6.375	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
旗	２モーラⅡ類	5.656	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
梨	２モーラⅡ類	6.062	fc80f	女	1937	古平	2/0	0	Y	N
橋	２モーラⅡ類	5.906	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
町	２モーラⅡ類	6.219	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
石	２モーラⅡ類	6.312	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
紙	２モーラⅡ類	5.969	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
胸	２モーラⅡ類	5.938	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N
山	２モーラⅢ類	6.375	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	N/A
熊	２モーラⅢ類	6.188	fc80f	女	1937	古平	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	N
花	２モーラⅢ類	6.312	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	fc80f	女	1937	古平	2	2	Y	N
味噌	２モーラⅣ類	5.875	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	N/A
海	２モーラⅣ類	6.312	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	N/A
舟	２モーラⅣ類	6.156	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
猿	２モーラⅤ類	6	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
眉	２モーラⅤ類	5.25	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	N/A
秋	２モーラⅤ類	6.406	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
窓	２モーラⅤ類	6.406	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	Y
蛇	２モーラⅤ類	6.25	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラⅤ類	6.156	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	Y
足袋	２モーラⅤ類	4.969	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
雨	２モーラⅤ類	6.469	fc80f	女	1937	古平	1	2	N	Y
鮭	２モーラⅤ類	5.812	fc80f	女	1937	古平	1	1	Y	N/A
子供	３モーラⅠ類	6.375	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	Y
桜	３モーラⅠ類	6.406	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
煙	３モーラⅠ類	6.156	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
車	３モーラⅠ類	6.469	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
二つ	３モーラⅡ類	5.844	fc80f	女	1937	古平	3	3	Y	Y
娘	３モーラⅡ類	6.344	fc80f	女	1937	古平	3	0	N	N
小豆	３モーラⅡ類	6	fc80f	女	1937	古平	3	0	N	N
東	３モーラⅡ類	6.281	fc80f	女	1937	古平	3/0(新)	3	Y	Y
力	３モーラⅢ類	6.062	fc80f	女	1937	古平	3	0	N	N
小麦	３モーラⅢ類	5.812	fc80f	女	1937	古平	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラⅢ類	5.562	fc80f	女	1937	古平	0	2	N	N
黄金	３モーラⅢ類	4.719	fc80f	女	1937	古平	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラⅣ類	5.906	fc80f	女	1937	古平	3	0	N	N
男	３モーラⅣ類	6.438	fc80f	女	1937	古平	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	fc80f	女	1937	古平	3	3	Y	N
頭	３モーラⅣ類	6.375	fc80f	女	1937	古平	3	0	N	Y
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	fc80f	女	1937	古平	1	0	N	N
枕	３モーラⅤ類	6.031	fc80f	女	1937	古平	1	3	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	fc80f	女	1937	古平	0	3	N	N/A
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	fc80f	女	1937	古平	1	3	N	N
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	fc80f	女	1937	古平	0	3	N	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	fc80f	女	1937	古平	0	2	N	Y
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	fc80f	女	1937	古平	0	0	Y	N
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	fc80f	女	1937	古平	2	0	N	N/A
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	fc80f	女	1937	古平	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	fc80f	女	1937	古平	0	3	N	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	fc80f	女	1937	古平	0	1	N	N/A
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	N
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	na52f	女	1961	小平	0	1	N	N/A
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	N
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	N
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ 類	6.344	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ 類	5.594	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ 類	6.469	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ 類	5.906	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
烏賊	２モーラ Ⅰ 類	6.25	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
牛	２モーラ Ⅰ 類	6.156	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
皿	２モーラ Ⅰ 類	6.375	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	N
紐	２モーラ Ⅰ 類	5.625	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	N
蜂	２モーラ Ⅰ 類	5.469	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
蟹	２モーラ Ⅰ 類	6.219	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
酒	２モーラ Ⅰ 類	6.25	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
鼻	２モーラⅠ類	6.312	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	N
川	２モーラⅡ類	6.375	na52f	女	1961	小平	2	0	N	N
旗	２モーラⅡ類	5.656	na52f	女	1961	小平	2	0	N	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	na52f	女	1961	小平	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	na52f	女	1961	小平	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	na52f	女	1961	小平	2	0	N	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	na52f	女	1961	小平	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	na52f	女	1961	小平	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	na52f	女	1961	小平	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	na52f	女	1961	小平	2(新)/1	2	Y	N
犬	２モーラⅢ類	6.438	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	na52f	女	1961	小平	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	na52f	女	1961	小平	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	na52f	女	1961	小平	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	na52f	女	1961	小平	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	na52f	女	1961	小平	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	na52f	女	1961	小平	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	na52f	女	1961	小平	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	na52f	女	1961	小平	1	3	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	na52f	女	1961	小平	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	na52f	女	1961	小平	1	3	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	na52f	女	1961	小平	0	3	N	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	na52f	女	1961	小平	0	2	N	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	na52f	女	1961	小平	0	3	N	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	na52f	女	1961	小平	0	3	N	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	na52f	女	1961	小平	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	na52f	女	1961	小平	0/1(?)	2	N	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	na52f	女	1961	小平	0	2	N	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	na52f	女	1961	小平	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ類	5.188	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ類	4.969	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ類	5.094	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	N
日	１モーラ Ⅱ類	4.844	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	N
矢	１モーラ Ⅱ類	5.312	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ類	4.625	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ類	5.844	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ類	6.344	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ類	5.594	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ類	6.469	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ類	5.906	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
烏賊	２モーラ Ⅰ類	6.25	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
牛	２モーラ Ⅰ類	6.156	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
皿	２モーラ Ⅰ類	6.375	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
紐	２モーラ Ⅰ類	5.625	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
蜂	２モーラⅠ類	5.469	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	N
旗	２モーラⅡ類	5.656	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	nb63m	男	1950	小平	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	nb63m	男	1950	小平	2	0	N	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	nb63m	男	1950	小平	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	nb63m	男	1950	小平	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	nb63m	男	1950	小平	1	0	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	nb63m	男	1950	小平	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	nb63m	男	1950	小平	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	nb63m	男	1950	小平	3	0	N	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	nb63m	男	1950	小平	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	nb63m	男	1950	小平	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	nb63m	男	1950	小平	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	nb63m	男	1950	小平	3	0	N	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	nb63m	男	1950	小平	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	nb63m	男	1950	小平	0	3	N	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	nb63m	男	1950	小平	1/0(古)	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	nb63m	男	1950	小平	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	nb63m	男	1950	小平	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	nb63m	男	1950	小平	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	nb63m	男	1950	小平	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	nb63m	男	1950	小平	1	3	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	nb63m	男	1950	小平	1	3	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	nb63m	男	1950	小平	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	nb63m	男	1950	小平	1	3	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	nb63m	男	1950	小平	0	3	N	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	nb63m	男	1950	小平	0	3	N	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	nb63m	男	1950	小平	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	nb63m	男	1950	小平	0/1(?)	3	N	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	nb63m	男	1950	小平	0	3	N	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	nb63m	男	1950	小平	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ 類	6.344	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ 類	5.594	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ 類	6.469	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ 類	5.906	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
烏賊	２モーラ Ⅰ 類	6.25	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
牛	２モーラⅠ類	6.156	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
皿	２モーラⅠ類	6.375	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
紐	２モーラⅠ類	5.625	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
蜂	２モーラⅠ類	5.469	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	nc47f	女	1966	小平	2	0	N	N
川	２モーラⅡ類	6.375	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	nc47f	女	1966	小平	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	nc47f	女	1966	小平	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	nc47f	女	1966	小平	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	nc47f	女	1966	小平	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	nc47f	女	1966	小平	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	nc47f	女	1966	小平	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
小麦	3モーラ Ⅲ類	5.812	nc47f	女	1966	小平	2/0(新)	2	Y	Y
岬	3モーラ Ⅲ類	5.562	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
黄金	3モーラ Ⅲ類	4.719	nc47f	女	1966	小平	1/0(古)	0	Y	Y
刀	3モーラ Ⅳ類	5.906	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	Y
男	3モーラ Ⅳ類	6.438	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	Y
鏡	3モーラ Ⅳ類	6.344	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	Y
頭	3モーラ Ⅳ類	6.375	nc47f	女	1966	小平	3	3	Y	Y
アワビ	3モーラ Ⅴ類	6.125	nc47f	女	1966	小平	1	2	N	Y
枕	3モーラ Ⅴ類	6.031	nc47f	女	1966	小平	1	3	N	Y
油	3モーラ Ⅴ類	6.188	nc47f	女	1966	小平	0	3	N	Y
涙	3モーラ Ⅴ類	6.312	nc47f	女	1966	小平	1	3	N	Y
兎	3モーラ Ⅵ類	6.375	nc47f	女	1966	小平	0	2	N	Y
狐	3モーラ Ⅵ類	6.062	nc47f	女	1966	小平	0	2	N	Y
背中	3モーラ Ⅵ類	6.344	nc47f	女	1966	小平	0	2	N	Y
鼠	3モーラ Ⅵ類	6.281	nc47f	女	1966	小平	0	2	N	Y
卵	3モーラ Ⅶ類	6.5	nc47f	女	1966	小平	2	2	Y	Y
苺	3モーラ Ⅶ類	5.844	nc47f	女	1966	小平	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ Ⅶ類	5.75	nc47f	女	1966	小平	0	3	N	Y
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	nc47f	女	1966	小平	0	0	Y	Y
戸	1モーラ Ⅰ類	5.188	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
蚊	1モーラ Ⅰ類	4.969	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
血	1モーラ Ⅰ類	5.094	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
日	1モーラ Ⅱ類	4.844	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
矢	1モーラ Ⅱ類	5.312	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
葉	1モーラ Ⅱ類	4.625	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
木	1モーラ Ⅲ類	5.844	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
目	1モーラ Ⅲ類	6.344	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
酢	1モーラ Ⅲ類	5.594	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
海老	２モーラⅠ類	6.469	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	Y
滝	２モーラⅠ類	5.906	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N/A
烏賊	２モーラⅠ類	6.25	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	Y
牛	２モーラⅠ類	6.156	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	Y
皿	２モーラⅠ類	6.375	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
紐	２モーラⅠ類	5.625	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
蜂	２モーラⅠ類	5.469	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
蟹	２モーラⅠ類	6.219	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
酒	２モーラⅠ類	6.25	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
鼻	２モーラⅠ類	6.312	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
冬	２モーラⅡ類	6.656	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	oa30m	男	1983	小樽	2/0	2	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	oa30m	男	1983	小樽	2	0	N	N/A
町	２モーラⅡ類	6.219	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	oa30m	男	1983	小樽	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	oa30m	男	1983	小樽	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	oa30m	男	1983	小樽	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	oa30m	男	1983	小樽	1	0	N	N
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	oa30m	男	1983	小樽	1	0	N	N
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N/A
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
小豆	３モーラⅡ類	6	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	Y
東	３モーラⅡ類	6.281	oa30m	男	1983	小樽	3/0(新)	0	Y	N
力	３モーラⅢ類	6.062	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラⅢ類	5.812	oa30m	男	1983	小樽	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラⅢ類	5.562	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	Y
黄金	３モーラⅢ類	4.719	oa30m	男	1983	小樽	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラⅣ類	5.906	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	Y
男	３モーラⅣ類	6.438	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	oa30m	男	1983	小樽	3	3	Y	N
頭	３モーラⅣ類	6.375	oa30m	男	1983	小樽	3	0	N	N
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
枕	３モーラⅤ類	6.031	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
油	３モーラⅤ類	6.188	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	Y
涙	３モーラⅤ類	6.312	oa30m	男	1983	小樽	1	1	Y	N/A
兎	３モーラⅥ類	6.375	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N/A
狐	３モーラⅥ類	6.062	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N/A
背中	３モーラⅥ類	6.344	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
鼠	３モーラⅥ類	6.281	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	Y
卵	３モーラⅦ類	6.5	oa30m	男	1983	小樽	2	2	Y	Y
苺	３モーラⅦ類	5.844	oa30m	男	1983	小樽	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	３モーラⅦ類	5.75	oa30m	男	1983	小樽	0	3	N	N/A
鯨	３モーラⅦ類	6.281	oa30m	男	1983	小樽	0	0	Y	N
戸	１モーラⅠ類	5.188	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
蚊	１モーラⅠ類	4.969	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N
血	１モーラⅠ類	5.094	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N
日	１モーラⅡ類	4.844	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N
矢	１モーラⅡ類	5.312	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
葉	１モーラⅡ類	4.625	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
木	1モーラIII類	5.844	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
滝	2モーラI類	5.906	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N
牛	2モーラI類	6.156	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
紐	2モーラI類	5.625	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
蟹	2モーラI類	6.219	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N
酒	2モーラI類	6.25	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
冬	2モーラII類	6.656	ob63f	女	1952	小樽	2	0	N	Y
川	2モーラII類	6.375	ob63f	女	1952	小樽	2	0	N	Y
旗	2モーラII類	5.656	ob63f	女	1952	小樽	2	0	N	Y
梨	2モーラII類	6.062	ob63f	女	1952	小樽	2/0	0	Y	N
橋	2モーラII類	5.906	ob63f	女	1952	小樽	2	0	N	Y
町	2モーラII類	6.219	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
石	2モーラII類	6.312	ob63f	女	1952	小樽	2	0	N	N
紙	2モーラII類	5.969	ob63f	女	1952	小樽	2	0	N	Y
肘	2モーラII類	6.062	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
胸	2モーラII類	5.938	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
山	2モーラIII類	6.375	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
栗	2モーラIII類	5.688	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
熊	2モーラIII類	6.188	ob63f	女	1952	小樽	2(新)/1	2	Y	Y
犬	2モーラIII類	6.438	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
米	2モーラIII類	6.5	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	N/A
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ob63f	女	1952	小樽	1	0	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ob63f	女	1952	小樽	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
車	３モーラⅠ類	6.469	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
二つ	３モーラⅡ類	5.844	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	N/A
娘	３モーラⅡ類	6.344	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	Y
小豆	３モーラⅡ類	6	ob63f	女	1952	小樽	3	0	N	Y
東	３モーラⅡ類	6.281	ob63f	女	1952	小樽	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラⅢ類	6.062	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラⅢ類	5.812	ob63f	女	1952	小樽	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラⅢ類	5.562	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
黄金	３モーラⅢ類	4.719	ob63f	女	1952	小樽	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラⅣ類	5.906	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	Y
男	３モーラⅣ類	6.438	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	Y
頭	３モーラⅣ類	6.375	ob63f	女	1952	小樽	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	ob63f	女	1952	小樽	1	0	N	Y
枕	３モーラⅤ類	6.031	ob63f	女	1952	小樽	1	2	N	Y
油	３モーラⅤ類	6.188	ob63f	女	1952	小樽	0	3	N	Y
涙	３モーラⅤ類	6.312	ob63f	女	1952	小樽	1	3	N	Y
兎	３モーラⅥ類	6.375	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
狐	３モーラⅥ類	6.062	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	N/A
背中	３モーラⅥ類	6.344	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
鼠	３モーラⅥ類	6.281	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
卵	３モーラⅦ類	6.5	ob63f	女	1952	小樽	2	2	Y	Y
苺	３モーラⅦ類	5.844	ob63f	女	1952	小樽	0/1(?)	1	Y	N/A
辛子	３モーラⅦ類	5.75	ob63f	女	1952	小樽	0	3	N	Y
鯨	３モーラⅦ類	6.281	ob63f	女	1952	小樽	0	0	Y	Y
戸	１モーラⅠ類	5.188	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
蚊	１モーラⅠ類	4.969	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
血	１モーラⅠ類	5.094	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
日	1モーラⅡ類	4.844	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
矢	1モーラⅡ類	5.312	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
葉	1モーラⅡ類	4.625	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
木	1モーラⅢ類	5.844	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
牛	2モーラⅠ類	6.156	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
蟹	2モーラⅠ類	6.219	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
酒	2モーラⅠ類	6.25	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
冬	2モーラⅡ類	6.656	sa59m	男	1954	七飯	2	0	N	N
川	2モーラⅡ類	6.375	sa59m	男	1954	七飯	2	0	N	Y
旗	2モーラⅡ類	5.656	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
梨	2モーラⅡ類	6.062	sa59m	男	1954	七飯	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	sa59m	男	1954	七飯	2	0	N	Y
町	2モーラⅡ類	6.219	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
石	2モーラⅡ類	6.312	sa59m	男	1954	七飯	2	0	N	Y
紙	2モーラⅡ類	5.969	sa59m	男	1954	七飯	2	0	N	N
肘	2モーラⅡ類	6.062	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
胸	2モーラⅡ類	5.938	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
山	2モーラⅢ類	6.375	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
栗	2モーラⅢ類	5.688	sa59m	男	1954	七飯	1	0	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
熊	２モーラ Ⅲ 類	6.188	sa59m	男	1954	七飯	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラ Ⅲ 類	6.438	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	sa59m	男	1954	七飯	2	0	N	N
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	N
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	sa59m	男	1954	七飯	1	0	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	N
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	N
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	sa59m	男	1954	七飯	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
子供	３モーラⅠ類	6.375	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
桜	３モーラⅠ類	6.406	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
煙	３モーラⅠ類	6.156	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
車	３モーラⅠ類	6.469	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
二つ	３モーラⅡ類	5.844	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	Y
娘	３モーラⅡ類	6.344	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	Y
小豆	３モーラⅡ類	6	sa59m	男	1954	七飯	3	0	N	Y
東	３モーラⅡ類	6.281	sa59m	男	1954	七飯	3/0(新)	3	Y	Y
力	３モーラⅢ類	6.062	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	N
小麦	３モーラⅢ類	5.812	sa59m	男	1954	七飯	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラⅢ類	5.562	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
黄金	３モーラⅢ類	4.719	sa59m	男	1954	七飯	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラⅣ類	5.906	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	N/A
男	３モーラⅣ類	6.438	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	Y
鏡	３モーラⅣ類	6.344	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	N
頭	３モーラⅣ類	6.375	sa59m	男	1954	七飯	3	3	Y	N
アワビ	３モーラⅤ類	6.125	sa59m	男	1954	七飯	1	3	N	Y
枕	３モーラⅤ類	6.031	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
油	３モーラⅤ類	6.188	sa59m	男	1954	七飯	0	3	N	Y
涙	３モーラⅤ類	6.312	sa59m	男	1954	七飯	1	2	N	Y
兎	３モーラⅥ類	6.375	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
狐	３モーラⅥ類	6.062	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
背中	３モーラⅥ類	6.344	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N
鼠	３モーラⅥ類	6.281	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	Y
卵	３モーラⅦ類	6.5	sa59m	男	1954	七飯	2	2	Y	Y
苺	３モーラⅦ類	5.844	sa59m	男	1954	七飯	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラⅦ類	5.75	sa59m	男	1954	七飯	0	3	N	Y
鯨	３モーラⅦ類	6.281	sa59m	男	1954	七飯	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
戸	1モーラI類	5.188	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
蚊	1モーラI類	4.969	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
血	1モーラI類	5.094	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
日	1モーラII類	4.844	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
矢	1モーラII類	5.312	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
木	1モーラIII類	5.844	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
滝	2モーラI類	5.906	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
皿	2モーラI類	6.375	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
紐	2モーラI類	5.625	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N/A
蟹	2モーラI類	6.219	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
酒	2モーラI類	6.25	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
鼻	2モーラI類	6.312	sb41m	男	1972	七飯	0	2	N	N
冬	2モーラII類	6.656	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
川	2モーラII類	6.375	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
旗	2モーラII類	5.656	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	N/A
梨	2モーラII類	6.062	sb41m	男	1972	七飯	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラII類	5.906	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
町	2モーラII類	6.219	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
石	2モーラII類	6.312	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
紙	2モーラII類	5.969	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
肘	2モーラII類	6.062	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
胸	２モーラ Ⅱ 類	5.938	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
山	２モーラ Ⅲ 類	6.375	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
栗	２モーラ Ⅲ 類	5.688	sb41m	男	1972	七飯	2	0	N	N
熊	２モーラ Ⅲ 類	6.188	sb41m	男	1972	七飯	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラ Ⅲ 類	6.438	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
米	２モーラ Ⅲ 類	6.5	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
耳	２モーラ Ⅲ 類	6.531	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
舌	２モーラ Ⅲ 類	5.562	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	N/A
花	２モーラ Ⅲ 類	6.312	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
靴	２モーラ Ⅲ 類	6.25	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	N/A
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	N
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	sb41m	男	1972	七飯	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	N
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	sb41m	男	1972	七飯	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	sb41m	男	1972	七飯	3/0(新)	0	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	sb41m	男	1972	七飯	2/0(新)	0	Y	N
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	sb41m	男	1972	七飯	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	N/A
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	N
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	sb41m	男	1972	七飯	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	N
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	N
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	sb41m	男	1972	七飯	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	sb41m	男	1972	七飯	1	2	N	N
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	sb41m	男	1972	七飯	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
苺	3モーラ Ⅶ類	5.844	sb41m	男	1972	七飯	0/1(?)	2	N	Y
辛子	3モーラ Ⅶ類	5.75	sb41m	男	1972	七飯	0	3	N	Y
鯨	3モーラ Ⅶ類	6.281	sb41m	男	1972	七飯	0	0	Y	N
戸	1モーラⅠ類	5.188	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
蚊	1モーラⅠ類	4.969	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
血	1モーラⅠ類	5.094	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
日	1モーラⅡ類	4.844	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
矢	1モーラⅡ類	5.312	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
葉	1モーラⅡ類	4.625	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
木	1モーラⅢ類	5.844	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
目	1モーラⅢ類	6.344	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
酢	1モーラⅢ類	5.594	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
海老	2モーラⅠ類	6.469	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
滝	2モーラⅠ類	5.906	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラⅠ類	6.25	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
牛	2モーラⅠ類	6.156	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
皿	2モーラⅠ類	6.375	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
紐	2モーラⅠ類	5.625	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
蜂	2モーラⅠ類	5.469	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N/A
蟹	2モーラⅠ類	6.219	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
酒	2モーラⅠ類	6.25	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
鼻	2モーラⅠ類	6.312	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
冬	2モーラⅡ類	6.656	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
川	2モーラⅡ類	6.375	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
旗	2モーラⅡ類	5.656	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	N/A
梨	2モーラⅡ類	6.062	sc33f	女	1980	七飯	2/0	0	Y	Y
橋	2モーラⅡ類	5.906	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
町	2モーラⅡ類	6.219	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
石	２モーラⅡ類	6.312	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	sc33f	女	1980	七飯	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	sc33f	女	1980	七飯	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
海	２モーラⅣ類	6.312	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
箸	２モーラⅣ類	5.5	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	sc33f	女	1980	七飯	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
舟	２モーラⅣ類	6.156	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラⅣ類	4.844	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
猿	２モーラⅤ類	6	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
眉	２モーラⅤ類	5.25	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
秋	２モーラⅤ類	6.406	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	sc33f	女	1980	七飯	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	sc33f	女	1980	七飯	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	sc33f	女	1980	七飯	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	sc33f	女	1980	七飯	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	sc33f	女	1980	七飯	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	N/A
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	sc33f	女	1980	七飯	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	sc33f	女	1980	七飯	1	2	N	N
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	sc33f	女	1980	七飯	1	2	N	N
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	sc33f	女	1980	七飯	1	2	N	N
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
背中	3モーラ VI類	6.344	sc33f	女	1980	七飯	0	3	N	Y
鼠	3モーラ VI類	6.281	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
卵	3モーラ VII類	6.5	sc33f	女	1980	七飯	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII類	5.844	sc33f	女	1980	七飯	0/1(?)	0	Y	N
辛子	3モーラ VII類	5.75	sc33f	女	1980	七飯	0	3	N	Y
鯨	3モーラ VII類	6.281	sc33f	女	1980	七飯	0	0	Y	Y
戸	1モーラI類	5.188	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
蚊	1モーラI類	4.969	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
血	1モーラI類	5.094	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
日	1モーラII類	4.844	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
矢	1モーラII類	5.312	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
葉	1モーラII類	4.625	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
木	1モーラIII類	5.844	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
目	1モーラIII類	6.344	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
酢	1モーラIII類	5.594	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
海老	2モーラI類	6.469	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
滝	2モーラI類	5.906	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
烏賊	2モーラI類	6.25	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
牛	2モーラI類	6.156	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
皿	2モーラI類	6.375	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
紐	2モーラI類	5.625	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
蜂	2モーラI類	5.469	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
蟹	2モーラI類	6.219	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
酒	2モーラI類	6.25	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
鼻	2モーラI類	6.312	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
冬	2モーラII類	6.656	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
川	2モーラII類	6.375	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
旗	2モーラII類	5.656	sd60m	男	1953	七飯	2	0	N	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
梨	２モーラⅡ類	6.062	sd60m	男	1953	七飯	2/0	0	Y	N
橋	２モーラⅡ類	5.906	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	sd60m	男	1953	七飯	2	0	N	N
紙	２モーラⅡ類	5.969	sd60m	男	1953	七飯	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	sd60m	男	1953	七飯	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	N
耳	２モーラⅢ類	6.531	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	N
箸	２モーラⅣ類	5.5	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	N
舟	２モーラⅣ類	6.156	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
針	２モーラⅣ類	5.906	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	N
鎌	２モーラⅣ類	4.844	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラⅤ類	5.281	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
猿	２モーラ Ｖ 類	6	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ｖ 類	5.25	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ｖ 類	6.406	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
窓	２モーラ Ｖ 類	6.406	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ｖ 類	6.25	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ｖ 類	6.156	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ｖ 類	4.969	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ｖ 類	6.469	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ｖ 類	5.812	sd60m	男	1953	七飯	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	sd60m	男	1953	七飯	3/0(新)	3	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	sd60m	男	1953	七飯	2/0(新)	2	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	sd60m	男	1953	七飯	0	3	N	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	sd60m	男	1953	七飯	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	N/A
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	N
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	sd60m	男	1953	七飯	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	sd60m	男	1953	七飯	1	3	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	sd60m	男	1953	七飯	0	3	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
涙	3モーラ V 類	6.312	sd60m	男	1953	七飯	1	2	N	Y
兎	3モーラ VI 類	6.375	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	Y
狐	3モーラ VI 類	6.062	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N/A
背中	3モーラ VI 類	6.344	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
鼠	3モーラ VI 類	6.281	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
卵	3モーラ VII 類	6.5	sd60m	男	1953	七飯	2	2	Y	Y
苺	3モーラ VII 類	5.844	sd60m	男	1953	七飯	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	3モーラ VII 類	5.75	sd60m	男	1953	七飯	0	3	N	N
鯨	3モーラ VII 類	6.281	sd60m	男	1953	七飯	0	0	Y	N
戸	1モーラ I 類	5.188	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	Y
蚊	1モーラ I 類	4.969	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
血	1モーラ I 類	5.094	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
日	1モーラ II 類	4.844	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
矢	1モーラ II 類	5.312	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
葉	1モーラ II 類	4.625	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	Y
木	1モーラ III 類	5.844	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
目	1モーラ III 類	6.344	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
酢	1モーラ III 類	5.594	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
海老	2モーラ I 類	6.469	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
滝	2モーラ I 類	5.906	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N/A
烏賊	2モーラ I 類	6.25	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	Y
牛	2モーラ I 類	6.156	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
皿	2モーラ I 類	6.375	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
紐	2モーラ I 類	5.625	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
蜂	2モーラ I 類	5.469	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N/A
蟹	2モーラ I 類	6.219	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
酒	2モーラ I 類	6.25	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N/A
鼻	2モーラ I 類	6.312	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
冬	２モーラⅡ類	6.656	se41m	男	1973	七飯	2	0	N	N
川	２モーラⅡ類	6.375	se41m	男	1973	七飯	2	0	N	N
旗	２モーラⅡ類	5.656	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	N/A
梨	２モーラⅡ類	6.062	se41m	男	1973	七飯	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	se41m	男	1973	七飯	2	0	N	N/A
町	２モーラⅡ類	6.219	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	se41m	男	1973	七飯	2	0	N	N/A
紙	２モーラⅡ類	5.969	se41m	男	1973	七飯	2	0	N	N
肘	２モーラⅡ類	6.062	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	se41m	男	1973	七飯	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	N/A
海	２モーラⅣ類	6.312	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
箸	２モーラⅣ類	5.5	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
絹	２モーラⅣ類	5.969	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
肩	２モーラⅣ類	5.406	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	N/A
舟	２モーラⅣ類	6.156	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	N/A
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	se41m	男	1973	七飯	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N/A
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	se41m	男	1973	七飯	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	se41m	男	1973	七飯	3/0(新)	3	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	se41m	男	1973	七飯	2/0(新)	2	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	se41m	男	1973	七飯	0	3	N	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	se41m	男	1973	七飯	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	N/A
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	se41m	男	1973	七飯	3	3	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	se41m	男	1973	七飯	0	3	N	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	se41m	男	1973	七飯	1	2	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	se41m	男	1973	七飯	0	2	N	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	se41m	男	1973	七飯	0	2	N	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	se41m	男	1973	七飯	0	2	N	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	se41m	男	1973	七飯	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	se41m	男	1973	七飯	0/1(?)	2	N	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	se41m	男	1973	七飯	0	2	N	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	se41m	男	1973	七飯	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ類	5.188	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ類	4.969	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ類	5.094	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
日	１モーラ Ⅱ類	4.844	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ類	5.312	sf25f	女	1988	七飯	1	0	N	N
葉	１モーラ Ⅱ類	4.625	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
木	１モーラ Ⅲ類	5.844	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
目	１モーラ Ⅲ類	6.344	sf25f	女	1988	七飯	1	0	N	N
酢	１モーラ Ⅲ類	5.594	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ類	6.469	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ類	5.906	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
烏賊	２モーラ Ⅰ類	6.25	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	Y
牛	２モーラ Ⅰ類	6.156	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
皿	２モーラ Ⅰ類	6.375	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
紐	２モーラ Ⅰ類	5.625	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
蜂	２モーラ Ⅰ類	5.469	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
蟹	２モーラⅠ類	6.219	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N/A
酒	２モーラⅠ類	6.25	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
鼻	２モーラⅠ類	6.312	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
冬	２モーラⅡ類	6.656	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	sf25f	女	1988	七飯	2/0	0	Y	N
橋	２モーラⅡ類	5.906	sf25f	女	1988	七飯	2	0	N	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	sf25f	女	1988	七飯	2	0	N	N
熊	２モーラⅢ類	6.188	sf25f	女	1988	七飯	2(新)/1	1	Y	N/A
犬	２モーラⅢ類	6.438	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	sf25f	女	1988	七飯	2	0	N	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	N/A
馬	２モーラⅢ類	6.344	sf25f	女	1988	七飯	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
海	２モーラⅣ類	6.312	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
空	２モーラⅣ類	6.5	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
箸	２モーラⅣ類	5.5	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
糸	２モーラⅣ類	5.688	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	sf25f	女	1988	七飯	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	sf25f	女	1988	七飯	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	sf25f	女	1988	七飯	3	0	N	N
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	sf25f	女	1988	七飯	3/0(新)	0	Y	N
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	sf25f	女	1988	七飯	3	3	Y	N/A
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	sf25f	女	1988	七飯	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N/A
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	sf25f	女	1988	七飯	1/0(古)	0	Y	N
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	sf25f	女	1988	七飯	3	0	N	N

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	sf25f	女	1988	七飯	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	sf25f	女	1988	七飯	3	3	Y	N
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	sf25f	女	1988	七飯	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	sf25f	女	1988	七飯	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	sf25f	女	1988	七飯	1	1	Y	N/A
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	sf25f	女	1988	七飯	2	0	N	N
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	sf25f	女	1988	七飯	0/1(?)	0	Y	N
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	sf25f	女	1988	七飯	0	0	Y	N
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	ya61f	女	1954	名寄	1	0	N	Y
目	１モーラ Ⅲ 類	6.344	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ 類	5.594	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ 類	6.469	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
滝	２モーラ Ⅰ 類	5.906	ya61f	女	1954	名寄	0	2	N	Y
烏賊	２モーラ Ⅰ 類	6.25	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
牛	２モーラ Ⅰ 類	6.156	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
皿	２モーラⅠ類	6.375	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
紐	２モーラⅠ類	5.625	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
蜂	２モーラⅠ類	5.469	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
冬	２モーラⅡ類	6.656	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
梨	２モーラⅡ類	6.062	ya61f	女	1954	名寄	2/0	2	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	ya61f	女	1954	名寄	2	1	N	N/A
町	２モーラⅡ類	6.219	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
紙	２モーラⅡ類	5.969	ya61f	女	1954	名寄	2	0	N	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	ya61f	女	1954	名寄	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	ya61f	女	1954	名寄	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	N/A
花	２モーラⅢ類	6.312	ya61f	女	1954	名寄	2	0	N	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
馬	２モーラⅢ類	6.344	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
味噌	２モーラⅣ類	5.875	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
海	２モーラⅣ類	6.312	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	ya61f	女	1954	名寄	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	ya61f	女	1954	名寄	3	0	N	Y
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	ya61f	女	1954	名寄	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	ya61f	女	1954	名寄	2/0(新)	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	ya61f	女	1954	名寄	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	ya61f	女	1954	名寄	3	3	Y	Y
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	ya61f	女	1954	名寄	1	2	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	ya61f	女	1954	名寄	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	ya61f	女	1954	名寄	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	ya61f	女	1954	名寄	0	0	Y	Y
戸	１モーラ Ⅰ 類	5.188	yb63m	男	1952	名寄	0	1	N	N/A
蚊	１モーラ Ⅰ 類	4.969	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
血	１モーラ Ⅰ 類	5.094	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
日	１モーラ Ⅱ 類	4.844	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	N
矢	１モーラ Ⅱ 類	5.312	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
葉	１モーラ Ⅱ 類	4.625	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
木	１モーラ Ⅲ 類	5.844	yb63m	男	1952	名寄	1	0	N	Y
目	１モーラ Ⅲ 類	6.344	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
酢	１モーラ Ⅲ 類	5.594	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
海老	２モーラ Ⅰ 類	6.469	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
滝	２モーラⅠ類	5.906	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
烏賊	２モーラⅠ類	6.25	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
牛	２モーラⅠ類	6.156	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
皿	２モーラⅠ類	6.375	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
紐	２モーラⅠ類	5.625	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	N
蜂	２モーラⅠ類	5.469	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
蟹	２モーラⅠ類	6.219	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
酒	２モーラⅠ類	6.25	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
鼻	２モーラⅠ類	6.312	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	N
冬	２モーラⅡ類	6.656	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
川	２モーラⅡ類	6.375	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
旗	２モーラⅡ類	5.656	yb63m	男	1952	名寄	2	0	N	N
梨	２モーラⅡ類	6.062	yb63m	男	1952	名寄	2/0	0	Y	Y
橋	２モーラⅡ類	5.906	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
町	２モーラⅡ類	6.219	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
石	２モーラⅡ類	6.312	yb63m	男	1952	名寄	2	0	N	N
紙	２モーラⅡ類	5.969	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
肘	２モーラⅡ類	6.062	yb63m	男	1952	名寄	2	0	N	Y
胸	２モーラⅡ類	5.938	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
山	２モーラⅢ類	6.375	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
栗	２モーラⅢ類	5.688	yb63m	男	1952	名寄	2	0	N	Y
熊	２モーラⅢ類	6.188	yb63m	男	1952	名寄	2(新)/1	2	Y	Y
犬	２モーラⅢ類	6.438	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
米	２モーラⅢ類	6.5	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
耳	２モーラⅢ類	6.531	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
舌	２モーラⅢ類	5.562	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
花	２モーラⅢ類	6.312	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
靴	２モーラⅢ類	6.25	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	N/A

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
馬	２モーラ Ⅲ 類	6.344	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
味噌	２モーラ Ⅳ 類	5.875	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
海	２モーラ Ⅳ 類	6.312	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
空	２モーラ Ⅳ 類	6.5	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	N
箸	２モーラ Ⅳ 類	5.5	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
糸	２モーラ Ⅳ 類	5.688	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
絹	２モーラ Ⅳ 類	5.969	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
肩	２モーラ Ⅳ 類	5.406	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
舟	２モーラ Ⅳ 類	6.156	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
針	２モーラ Ⅳ 類	5.906	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
鎌	２モーラ Ⅳ 類	4.844	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
牡蠣	２モーラ Ⅴ 類	5.281	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
猿	２モーラ Ⅴ 類	6	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
眉	２モーラ Ⅴ 類	5.25	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
秋	２モーラ Ⅴ 類	6.406	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
窓	２モーラ Ⅴ 類	6.406	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
蛇	２モーラ Ⅴ 類	6.25	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
蜘蛛	２モーラ Ⅴ 類	6.156	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
足袋	２モーラ Ⅴ 類	4.969	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
雨	２モーラ Ⅴ 類	6.469	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
鮭	２モーラ Ⅴ 類	5.812	yb63m	男	1952	名寄	1	1	Y	N/A
子供	３モーラ Ⅰ 類	6.375	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	N
桜	３モーラ Ⅰ 類	6.406	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
煙	３モーラ Ⅰ 類	6.156	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
車	３モーラ Ⅰ 類	6.469	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
二つ	３モーラ Ⅱ 類	5.844	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	N/A
娘	３モーラ Ⅱ 類	6.344	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	Y
小豆	３モーラ Ⅱ 類	6	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	Y

調査項目	モーラ数・語類	親密度	話者	ジェンダー	生年	調査地域	共通語アクセント	例のアクセント	共通語と一致するか	句頭上昇
東	３モーラ Ⅱ 類	6.281	yb63m	男	1952	名寄	3/0(新)	0	Y	Y
力	３モーラ Ⅲ 類	6.062	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	Y
小麦	３モーラ Ⅲ 類	5.812	yb63m	男	1952	名寄	2/0(新)	0	Y	Y
岬	３モーラ Ⅲ 類	5.562	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
黄金	３モーラ Ⅲ 類	4.719	yb63m	男	1952	名寄	1/0(古)	0	Y	Y
刀	３モーラ Ⅳ 類	5.906	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	Y
男	３モーラ Ⅳ 類	6.438	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	Y
鏡	３モーラ Ⅳ 類	6.344	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	Y
頭	３モーラ Ⅳ 類	6.375	yb63m	男	1952	名寄	3	3	Y	N
アワビ	３モーラ Ⅴ 類	6.125	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
枕	３モーラ Ⅴ 類	6.031	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
油	３モーラ Ⅴ 類	6.188	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
涙	３モーラ Ⅴ 類	6.312	yb63m	男	1952	名寄	1	2	N	Y
兎	３モーラ Ⅵ 類	6.375	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	N
狐	３モーラ Ⅵ 類	6.062	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	N/A
背中	３モーラ Ⅵ 類	6.344	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
鼠	３モーラ Ⅵ 類	6.281	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
卵	３モーラ Ⅶ 類	6.5	yb63m	男	1952	名寄	2	2	Y	Y
苺	３モーラ Ⅶ 類	5.844	yb63m	男	1952	名寄	0/1(?)	0	Y	Y
辛子	３モーラ Ⅶ 類	5.75	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y
鯨	３モーラ Ⅶ 類	6.281	yb63m	男	1952	名寄	0	0	Y	Y

付録 B

動詞のアクセント資料

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
寝る	寝る	2	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
着る	着る	2	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
生む	生む	2	五段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
行く	行く	2	五段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
借りる	借りる	3	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
消える	消える	3	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
使う	使う	3	五段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
使え	使う	3	五段	命令形	I 類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	I 類	3	ce66f	1947	女	札幌	0
使ったり	使う	3	五段	タリ系	I 類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
使って	使う	3	五段	テ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
与える	与える	4	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I 類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	ce66f	1947	女	札幌	0
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	0
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	ce66f	1947	女	札幌	0
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	0
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	2
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	ce66f	1947	女	札幌	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	4
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	5
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	Ⅰ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	ch62f	1951	女	札幌	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	0
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	1
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	1
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ci59m	1954	男	札幌	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
使え	使う	3	五段	命令形	I 類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	I 類	3	ci59m	1954	男	札幌	0
使ったり	使う	3	五段	タリ系	I 類	4	ci59m	1954	男	札幌	0
使って	使う	3	五段	テ形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
与える	与える	4	一段	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I 類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	I 類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	I 類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
来る	来る	2	一段	終止形	II 類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
見る	見る	2	一段	終止形	II 類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
書く	書く	2	五段	終止形	II 類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	II 類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
読む	読む	2	五段	終止形	II 類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	II 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	II 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
見える	見える	3	一段	終止形	II 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	0
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	ci59m	1954	男	札幌	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	ci59m	1954	男	札幌	0
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	3
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	4
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	cj36f	1979	女	札幌	1

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
生む	生む	2	五段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
行く	行く	2	五段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
消える	消える	3	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
使う	使う	3	五段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
使え	使う	3	五段	命令形	I 類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	I 類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
使ったり	使う	3	五段	タリ系	I 類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
使って	使う	3	五段	テ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	4
捜す	捜す	3	五段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
洗う	洗う	3	五段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
与える	与える	4	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	5
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I 類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	I 類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	I 類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	cj36f	1979	女	札幌	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	4
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	ck26f	1990	女	札幌	4

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	4
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	I類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	I類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	I類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
来る	来る	2	一段	終止形	II類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
見る	見る	2	一段	終止形	II類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
書く	書く	2	五段	終止形	II類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	II類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
読む	読む	2	五段	終止形	II類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
見える	見える	3	一段	終止形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
作って	作る	3	五段	テ形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	II類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	II類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	II類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	II類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
作る	作る	3	五段	終止形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
作れ	作る	3	五段	命令形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
動く	動く	3	五段	終止形	II類	2	ck26f	1990	女	札幌	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	ck26f	1990	女	札幌	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	1
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	1
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	1
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	1
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	4
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	Ⅰ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	1
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	0
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	sa59m	1954	男	七飯	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	0
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	1
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	1
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	2
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	2
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	4
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	2
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	Ⅰ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	sb41m	1972	男	七飯	3
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	2
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	sb41m	1972	男	七飯	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	4
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	Ⅰ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	sc33f	1980	女	七飯	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	sd60m	1953	男	七飯	0
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	Ⅰ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	1
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	4
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	sd60m	1953	男	七飯	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	1
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	se41m	1973	男	七飯	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
使いたい	使う	3	五段	タイ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
使う	使う	3	五段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
使え	使う	3	五段	命令形	I 類	3	se41m	1973	男	七飯	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	I 類	3	se41m	1973	男	七飯	0
使ったり	使う	3	五段	タリ系	I 類	4	se41m	1973	男	七飯	4
使って	使う	3	五段	テ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	4
使わない	使う	3	五段	ナイ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
与える	与える	4	一段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I 類	4	se41m	1973	男	七飯	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	I 類	4	se41m	1973	男	七飯	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	I 類	4	se41m	1973	男	七飯	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	2
迎える	迎える	4	一段	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
来る	来る	2	一段	終止形	II 類	1	se41m	1973	男	七飯	1
見る	見る	2	一段	終止形	II 類	1	se41m	1973	男	七飯	1
書く	書く	2	五段	終止形	II 類	1	se41m	1973	男	七飯	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	II 類	1	se41m	1973	男	七飯	1
読む	読む	2	五段	終止形	II 類	1	se41m	1973	男	七飯	1

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	se41m	1973	男	七飯	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	4
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	se41m	1973	男	七飯	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	se41m	1973	男	七飯	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	se41m	1973	男	七飯	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	se41m	1973	男	七飯	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	4
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	se41m	1973	男	七飯	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
寝る	寝る	2	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
着る	着る	2	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	1
生む	生む	2	五段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
行く	行く	2	五段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
消える	消える	3	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
使う	使う	3	五段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
使え	使う	3	五段	命令形	I 類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	I 類	3	sf25f	1988	女	七飯	2
使ったり	使う	3	五段	タリ系	I 類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
使って	使う	3	五段	テ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	4
使わない	使う	3	五段	ナイ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
捜す	捜す	3	五段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
与える	与える	4	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I 類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	sf25f	1988	女	七飯	0
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	2
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	sf25f	1988	女	七飯	5

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	1
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	2
使え	使う	3	五段	命令形	Ⅰ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	Ⅰ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
使ったり	使う	3	五段	タリ系	Ⅰ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
使って	使う	3	五段	テ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
使わない	使う	3	五段	ナイ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
捜す	捜す	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
与える	与える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	3
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	Ⅰ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	3
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	3
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	Ⅰ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	Ⅰ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	3
迎える	迎える	4	一段	終止形	Ⅰ類	0	ya61f	1952	女	名寄	3
来る	来る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1952	女	名寄	1
見る	見る	2	一段	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1952	女	名寄	1
書く	書く	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1952	女	名寄	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1952	女	名寄	1
読む	読む	2	五段	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1952	女	名寄	1
受ける	受ける	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
見える	見える	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	0
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	4
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	0
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	ya61f	1952	女	名寄	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	ya61f	1952	女	名寄	0
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	4
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	ya61f	1952	女	名寄	4
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	ya61f	1952	女	名寄	3
寝る	寝る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
煮る	煮る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
着る	着る	2	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
生む	生む	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	1
行く	行く	2	五段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
上げる	上げる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
借りる	借りる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
入れる	入れる	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
消える	消える	3	一段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	2
使いたい	使う	3	五段	タイ形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	4
使いながら	使う	3	五段	ナガラ形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	4
使う	使う	3	五段	終止形	Ⅰ類	0	yb63m	1954	男	名寄	0

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
使う（連体）	使う	3	五段	連体形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
使え	使う	3	五段	命令形	I 類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
使えば	使う	3	五段	レバ形	I 類	3	yb63m	1954	男	名寄	2
使ったり	使う	3	五段	タリ系	I 類	4	yb63m	1954	男	名寄	2
使って	使う	3	五段	テ形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
使わせる	使う	3	五段	セル形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	4
使わない	使う	3	五段	ナイ形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	4
捜す	捜す	3	五段	終止形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
洗う	洗う	3	五段	終止形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	2
与える	与える	4	一段	終止形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れさせる	忘れる	4	一段	セル形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	4
忘れたい	忘れる	4	一段	タイ形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れたり	忘れる	4	一段	タリ系	I 類	4	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れて	忘れる	4	一段	テ形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れない	忘れる	4	一段	ナイ形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れながら	忘れる	4	一段	ナガラ形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	4
忘れる	忘れる	4	一段	終止形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れる（連体）	忘れる	4	一段	連体形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
忘れれば	忘れる	4	一段	レバ形	I 類	4	yb63m	1954	男	名寄	4
忘れろ	忘れる	4	一段	命令形	I 類	4	yb63m	1954	男	名寄	4
聞こえる	聞こえる	4	一段	終止形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
迎える	迎える	4	一段	終止形	I 類	0	yb63m	1954	男	名寄	0
来る	来る	2	一段	終止形	II 類	1	yb63m	1954	男	名寄	1
見る	見る	2	一段	終止形	II 類	1	yb63m	1954	男	名寄	1
書く	書く	2	五段	終止形	II 類	1	yb63m	1954	男	名寄	1
膿む	膿む	2	五段	終止形	II 類	1	yb63m	1954	男	名寄	0
読む	読む	2	五段	終止形	II 類	1	yb63m	1954	男	名寄	0
受ける	受ける	3	一段	終止形	II 類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
投げる	投げる	3	一段	終止形	II 類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
見える	見える	3	一段	終止形	II 類	2	yb63m	1954	男	名寄	2

調査項目	基本形	基本形モーラ数	活用の種類	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
起きる	起きる	3	一段	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
作ったり	作る	3	五段	タリ系	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
作って	作る	3	五段	テ形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
作らせる	作る	3	五段	セル形	Ⅱ類	4	yb63m	1954	男	名寄	4
作らない	作る	3	五段	ナイ形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
作りたい	作る	3	五段	タイ形	Ⅱ類	4	yb63m	1954	男	名寄	4
作りながら	作る	3	五段	ナガラ形	Ⅱ類	4	yb63m	1954	男	名寄	4
作る	作る	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	1
作る（連体）	作る	3	五段	連体形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
作れ	作る	3	五段	命令形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
作れば	作る	3	五段	レバ形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
動く	動く	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
思う	思う	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
盗む	盗む	3	五段	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
務める	務める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
数える	数える	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
集める	集める	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	0
離れさせる	離れる	4	一段	セル形	Ⅱ類	5	yb63m	1954	男	名寄	5
離れたい	離れる	4	一段	タイ形	Ⅱ類	4	yb63m	1954	男	名寄	4
離れたり	離れる	4	一段	タリ系	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	2
離れて	離れる	4	一段	テ形	Ⅱ類	2	yb63m	1954	男	名寄	0
離れない	離れる	4	一段	ナイ形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	4
離れながら	離れる	4	一段	ナガラ形	Ⅱ類	4	yb63m	1954	男	名寄	5
離れる	離れる	4	一段	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
離れる（連体）	離れる	4	一段	連体形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
離れれば	離れる	4	一段	レバ形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3
離れろ	離れる	4	一段	命令形	Ⅱ類	3	yb63m	1954	男	名寄	3

付録 C

形容詞のアクセント資料

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	na
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	ce66f	1947	女	札幌	3
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	ce66f	1947	女	札幌	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	ce66f	1947	女	札幌	2
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	2
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	ce66f	1947	女	札幌	4
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	ce66f	1947	女	札幌	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	ce66f	1947	女	札幌	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	ce66f	1947	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	0
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	ce66f	1947	女	札幌	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	0
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	2
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	ce66f	1947	女	札幌	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ce66f	1947	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	ch62f	1951	女	札幌	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	ch62f	1951	女	札幌	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	ch62f	1951	女	札幌	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	ch62f	1951	女	札幌	3
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	ch62f	1951	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	ch62f	1951	女	札幌	1
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	0
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	2
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	ch62f	1951	女	札幌	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ch62f	1951	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	ci59m	1954	男	札幌	3
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	ci59m	1954	男	札幌	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	2
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	ci59m	1954	男	札幌	4
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	ci59m	1954	男	札幌	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	ci59m	1954	男	札幌	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	ci59m	1954	男	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	1
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	ci59m	1954	男	札幌	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	0
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	5
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	2
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	ci59m	1954	男	札幌	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ci59m	1954	男	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	cj36f	1979	女	札幌	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	cj36f	1979	女	札幌	2
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	cj36f	1979	女	札幌	2
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	cj36f	1979	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	4
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	cj36f	1979	女	札幌	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	0
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	2
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	cj36f	1979	女	札幌	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	cj36f	1979	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	ck26f	1990	女	札幌	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	ck26f	1990	女	札幌	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	ck26f	1990	女	札幌	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	ck26f	1990	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	3
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	1
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	ck26f	1990	女	札幌	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	3
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	ck26f	1990	女	札幌	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ck26f	1990	女	札幌	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	sa59m	1954	男	七飯	3
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	sa59m	1954	男	七飯	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	2
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	3
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	sa59m	1954	男	七飯	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	sa59m	1954	男	七飯	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	sa59m	1954	男	七飯	4
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	0
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	sa59m	1954	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	1
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	sa59m	1954	男	七飯	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	3
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	sa59m	1954	男	七飯	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sa59m	1954	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	sb41m	1972	男	七飯	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	sb41m	1972	男	七飯	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	sb41m	1972	男	七飯	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	sb41m	1972	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	1
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	sb41m	1972	男	七飯	3
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	0
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	2
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	sb41m	1972	男	七飯	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sb41m	1972	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	sc33f	1980	女	七飯	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	sc33f	1980	女	七飯	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	sc33f	1980	女	七飯	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	0
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	sc33f	1980	女	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	1
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	sc33f	1980	女	七飯	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	3
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	sc33f	1980	女	七飯	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sc33f	1980	女	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	sd60m	1953	男	七飯	3
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	sd60m	1953	男	七飯	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	2
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	sd60m	1953	男	七飯	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	sd60m	1953	男	七飯	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	0
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	sd60m	1953	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	1
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	sd60m	1953	男	七飯	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	5
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	sd60m	1953	男	七飯	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sd60m	1953	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	se41m	1973	男	七飯	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	se41m	1973	男	七飯	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	se41m	1973	男	七飯	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	se41m	1973	男	七飯	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	se41m	1973	男	七飯	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	se41m	1973	男	七飯	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	se41m	1973	男	七飯	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	se41m	1973	男	七飯	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	se41m	1973	男	七飯	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	se41m	1973	男	七飯	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	se41m	1973	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	se41m	1973	男	七飯	1
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	2
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	se41m	1973	男	七飯	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	se41m	1973	男	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	sf25f	1988	女	七飯	3
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	sf25f	1988	女	七飯	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	sf25f	1988	女	七飯	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	sf25f	1988	女	七飯	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	sf25f	1988	女	七飯	0

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	2
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	sf25f	1988	女	七飯	1
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	0
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	2
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	sf25f	1988	女	七飯	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	0
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	sf25f	1988	女	七飯	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	0
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	2
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	2
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	0
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	2
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	ya61f	1954	女	名寄	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	ya61f	1954	女	名寄	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	0
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	0
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	2
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	ya61f	1954	女	名寄	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	ya61f	1954	女	名寄	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	ya61f	1954	女	名寄	4
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	ya61f	1954	女	名寄	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	4
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	ya61f	1954	女	名寄	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1954	女	名寄	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	ya61f	1954	女	名寄	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	3
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	5
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	3
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	ya61f	1954	女	名寄	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1954	女	名寄	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1954	女	名寄	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	ya61f	1954	女	名寄	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
厚い	厚い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	2
堅い	堅い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	0
浅い	浅い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	0
甘い	甘い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	2
薄い	薄い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	0
赤い	赤い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	2
赤い（連体）	赤い	3	連体形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	0
赤かった	赤い	3	タ形	I 類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
赤くて	赤い	3	テ形	I 類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
赤くない	赤い	3	ナイ形	I 類	4	yb63m	1952	男	名寄	4
赤くなる	赤い	3	クナル形	I 類	4	yb63m	1952	男	名寄	4
赤ければ	赤い	3	ケレバ形	I 類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
軽い	軽い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	2
辛い	辛い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	2
遅い	遅い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	2
遠い	遠い	3	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	0
やさしい	やさしい	4	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	3
やさしい（連体）	やさしい	4	連体形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	0
やさしかった	やさしい	4	タ形	I 類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
やさしくて	やさしい	4	テ形	I 類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
やさしくない	やさしい	4	ナイ形	I 類	5	yb63m	1952	男	名寄	5
やさしくなる	やさしい	4	クナル形	I 類	5	yb63m	1952	男	名寄	5
やさしければ	やさしい	4	ケレバ形	I 類	2	yb63m	1952	男	名寄	4
卑しい	卑しい	4	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	3
宜しい	宜しい	4	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	3
怪しい	怪しい	4	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	3
悲しい	悲しい	4	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	3
明るい	明るい	4	終止形	I 類	0	yb63m	1952	男	名寄	3

調査項目	基準形	基準形モーラ数	語形	語類	規範アクセント型	話者	生年	ジェンダー	調査地域	用例アクセント型
無い	無い	2	終止形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	1
良い	良い	2	終止形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	1
低い	低い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
凄い	凄い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
古い	古い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
多い	多い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	0
寒い	寒い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
悪い	悪い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
深い	深い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
熱い	熱い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
白い	白い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
白い（連体）	白い	3	連体形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
白かった	白い	3	タ形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	2
白くて	白い	3	テ形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	2
白くない	白い	3	ナイ形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	5
白くなる	白い	3	クナル形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	2
白ければ	白い	3	ケレバ形	Ⅱ類	1	yb63m	1952	男	名寄	2
黒い	黒い	3	終止形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
かわいい	かわいい	4	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1952	男	名寄	3
かわいい（連体）	かわいい	4	連体形	Ⅱ類	3	yb63m	1952	男	名寄	3
かわいかった	かわいい	4	タ形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	2
かわいくて	かわいい	4	テ形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	3
かわいくない	かわいい	4	ナイ形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	3
かわいくなる	かわいい	4	クナル形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	4
かわいければ	かわいい	4	ケレバ形	Ⅱ類	2	yb63m	1952	男	名寄	3
嬉しい	嬉しい	4	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1952	男	名寄	3
寂しい	寂しい	4	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1952	男	名寄	3
正しい	正しい	4	終止形	Ⅱ類	3	yb63m	1952	男	名寄	3